

1 期型勘定流図について

——負債一括型——

石 内 孔 治

目 次

1. はじめに
2. 1 期型勘定流図 —負債一括型— の論拠
3. 赤字企業五社の財源状況について
 - (1) 京樽の財源状況について
 - (2) につかつの財源状況について
 - (3) 山一証券の財源状況について
 - (4) 北海道拓殖銀行の財源状況について
 - (5) 日本長期信用銀行の財源状況について
4. 黒字企業五社の財源状況について
 - (6) シチズンの財源状況について
 - (7) リンナイの財源状況について
 - (8) 京セラの財源状況について
 - (9) 任天堂の財源状況について
 - (10) セブンイレブンの財源状況について
5. おわりに

1. は じ め に

通説によれば、短期間のうちに返済期限の到来する流動負債を調達源泉とする財貨が、回収に長期間を必要とする固定資産に運用されることは不健全であるとされている。他方、1年を超えて返済期限の到来する固定負債を調達源泉とする財貨が、固定資産および流動資産に運用されることは健全であるとされている。

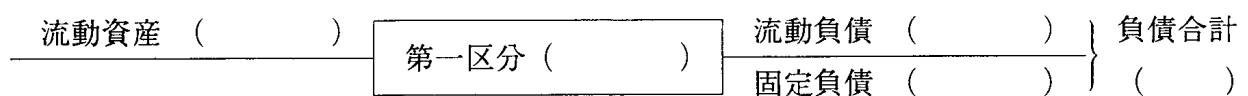
1 期型勘定流図について（石内）

また、企業活動の永続性（ゴーイング・コンサーン）を前提にすれば、自己資本（株主資本）には返済期限がないとされており、この自己資本を調達源泉とする財貨が、固定資産および流動資産に運用されることも健全であるとされている。つまり、返済期限の到来を念頭におくとき、流動負債を源泉とする財貨は流動資産として運用すべきであり、固定資産に運用してはならない。固定負債および自己資本を源泉とする財貨は、固定資産および流動負債に運用してよい。こうした立論に基づいて設計されているのが固定負債・自己資本一括型の勘定流図であり、その勘定流図を用いて企業の財源状況を別稿〔1〕で考察してきた。

これに対して本稿では、無借金志向の経営、自己資本による固定資産への投資、生産力重視の経営という理念を論拠として設計されている負債一括型の勘定流図を用いて、赤字企業五社〔2〕および黒字企業五社〔3〕の財源状況を考察することとしたい。

2. 1 期型勘定流図—負債一括型—の論拠

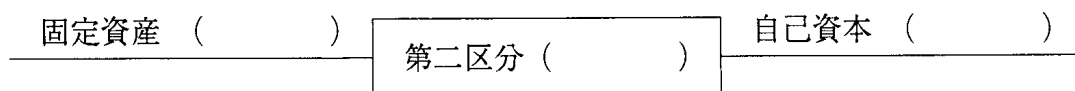
無借金経営を志向するとともに、固定資産の取得は自己資本でまかなう企業経営を志向する。借入金ゼロを志向し、借入金をゼロに近づければ、これ以外の負債がたとえ存在するとしても、流動資産だけで、企業の抱える負債のすべてを返済できるはずである。したがって、この無借金志向の経営理念を論拠にするとき、第一区分の借方は流動資産、貸方は流動負債および固定負債からなる総負債で構成されることになる。すなわち、第一区分は次のような図になる。



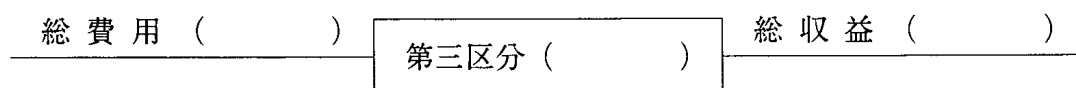
そして、自己資本志向の経営理念を論拠にして、固定資産の取得は自己資本で

1 期型勘定流図について（石内）

まかなうべしとするとき、第二区分の借方は固定資産、貸方は自己資本で構成されることになる。すなわち、第二区分では次のような図になる。



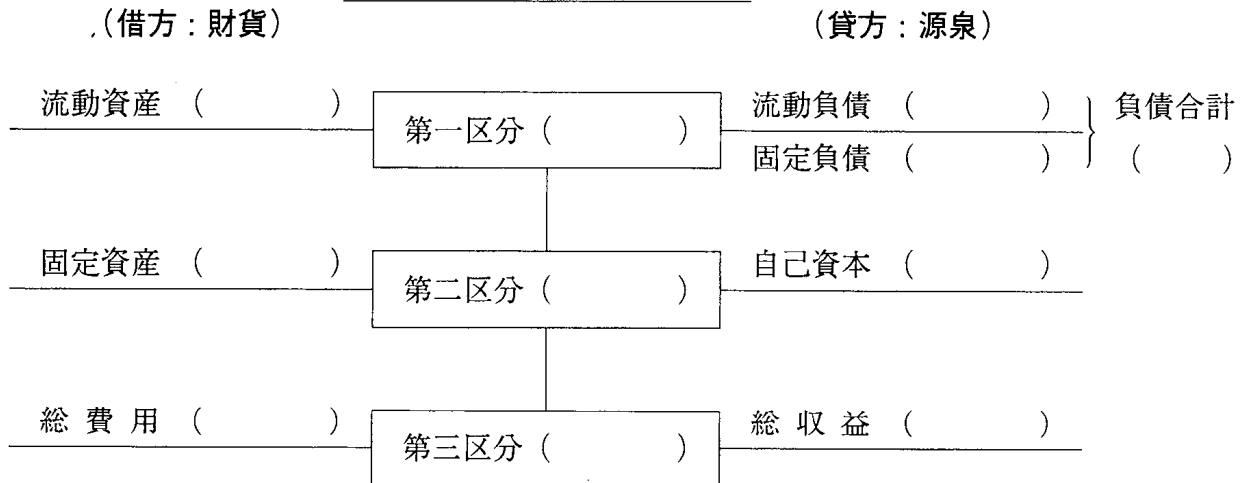
最後に、企業経営はなんといっても生産物の生産・販売が基本である。生産的労働に裏づけられたモノづくりを本業とする経営によって実現された収益だけで、すべての費用をカバーする。これが原則とならなければならない。平成バブル経済期には、本業を軽視したところの投機色の濃い資産運用（財テク）に多くの企業が走った結果、日本国はビジネス社会の空洞化を招き、平成不況へと陥り、今日なお平成不況から立ち直ることができずにいるのである。こうした平成バブル不況を教訓とし、また、財テクという副業におどったことへの反省の意味も込めて、生産物の生産・販売を基本とする経営理念を論拠にして導かれる収益の本質は、生産的労働に裏づけられたモノづくりを本業とする経営によって実現される収益でなければならない。この本業を通して実現される収益を、補完する位置にあるのが副業として余剰資金を運用することから得られる営業外収益および特別利益である。本業に基づく収益を中心として形成される総収益額が総費用額を超過する場合に、企業の収益性は安定しているといえるのである。よって第三区分は次のような図になる。



そこで、以上の三理念を論拠とする負債一括型の勘定流図は次のような構成になる。

1 期型勘定流図について (石内)

1 期型勘定流図 (負債一括型)



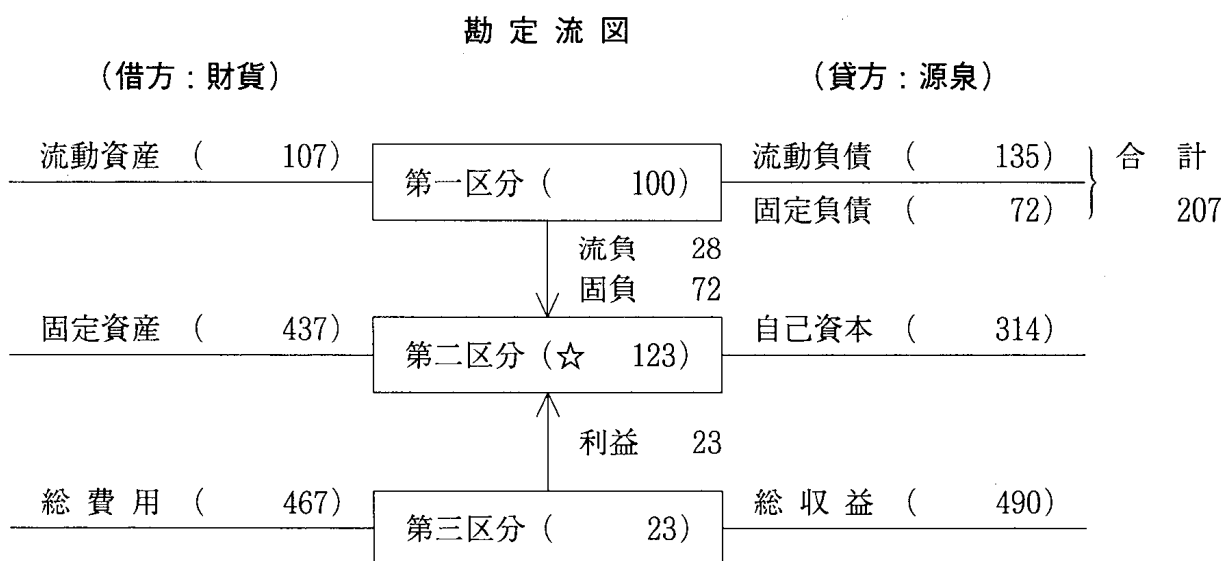
この負債一括型の勘定流図を用いて、以下、赤字企業の中から五社および黒字企業の中から五社をそれぞれ選び、その財源状況を分析することとしたい。なお、本稿では借方に企業の取得運用した財貨を、貸方にその調達源泉を表示する。借方の財貨を貸方の源泉それぞれの頭文をとって、以下、財源状況と表現する。

3. 赤字企業五社の財源状況について

(1) 京樽の財源状況について

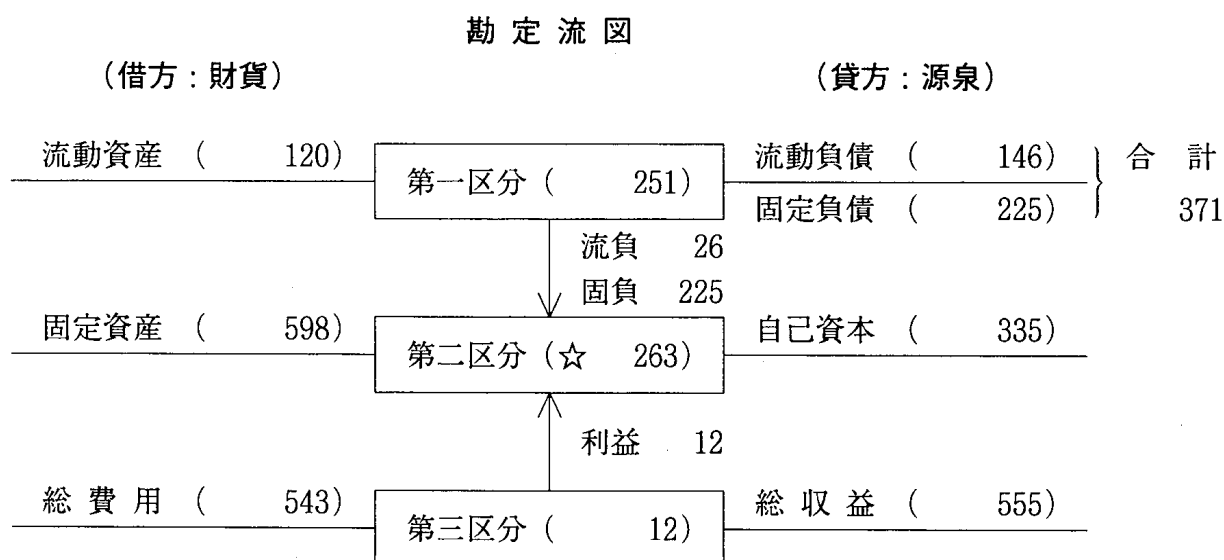
会社名：京樽

決算日：昭和61年12月31日



会社名：京樽

決算日：昭和62年12月31日

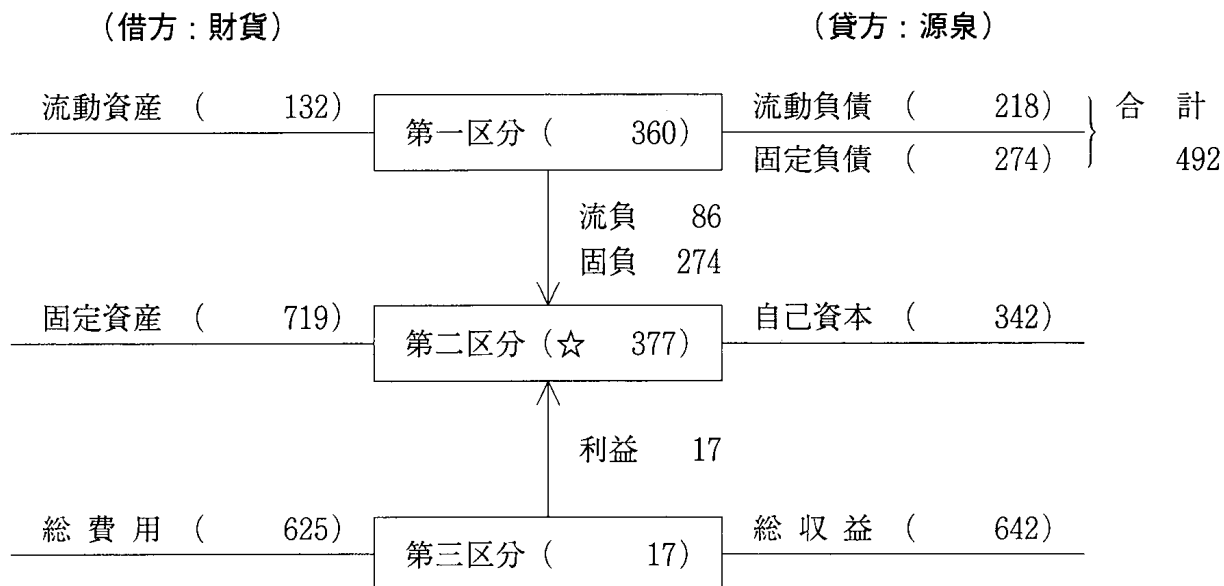


1期型勘定流図について（石内）

会社名：京 樽

決算日：昭和63年12月31日

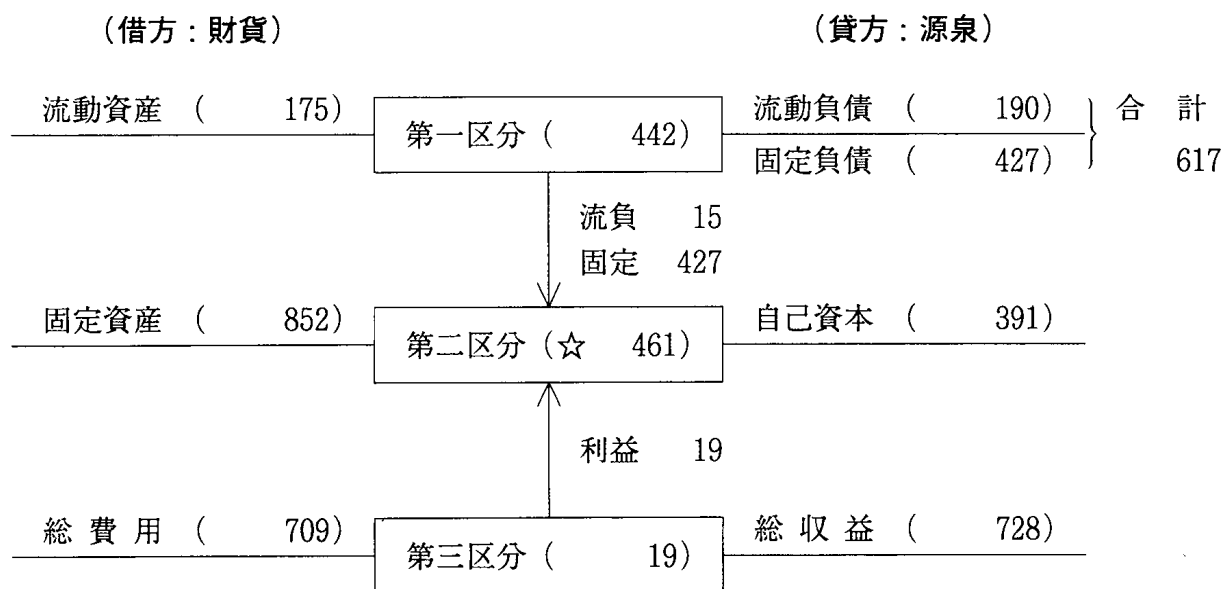
勘定流図



会社名：京 樽

決算日：平成元年12月31日

勘定流図

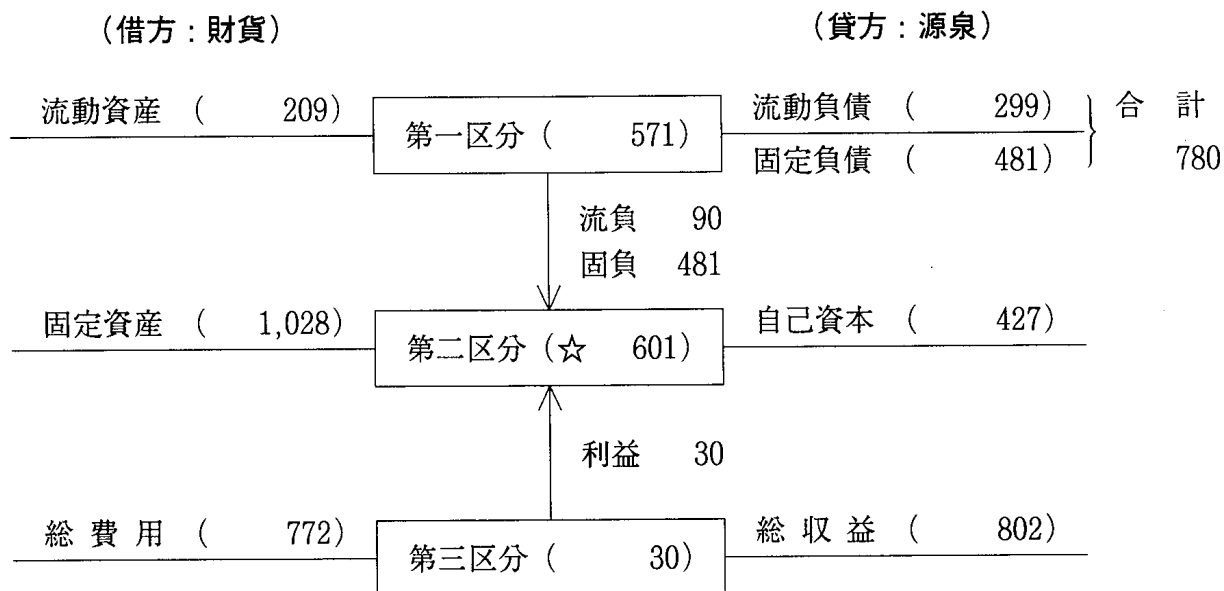


1期型勘定流図について（石内）

会社名：京 樽

決算日：平成2年12月31日

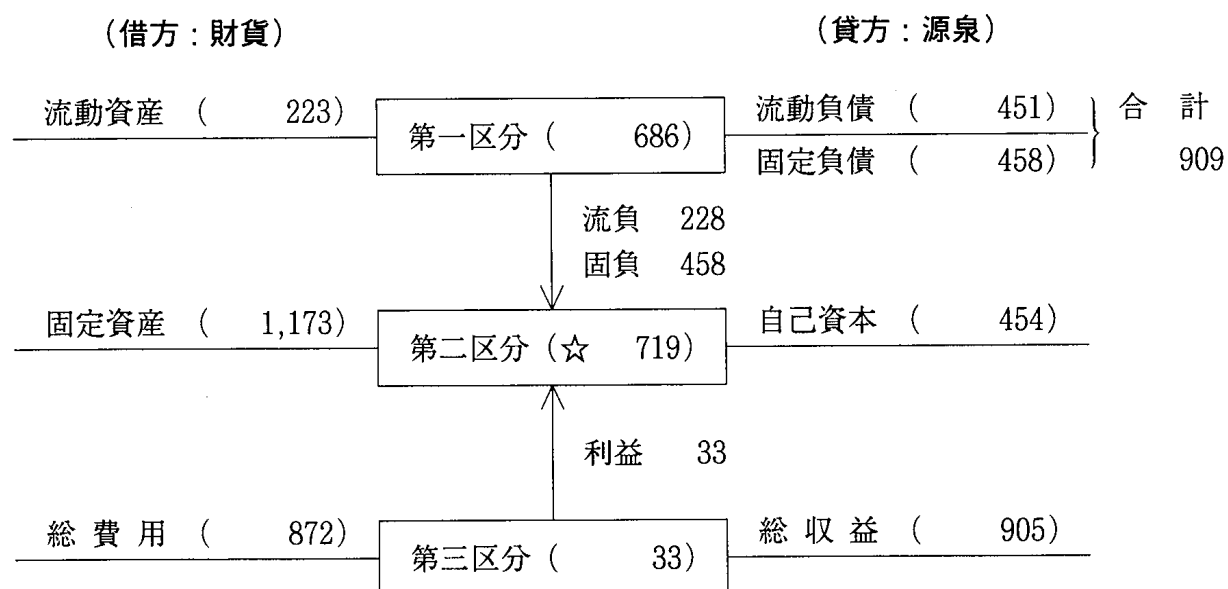
勘定流図



会社名：京 樽

決算日：平成3年12月31日

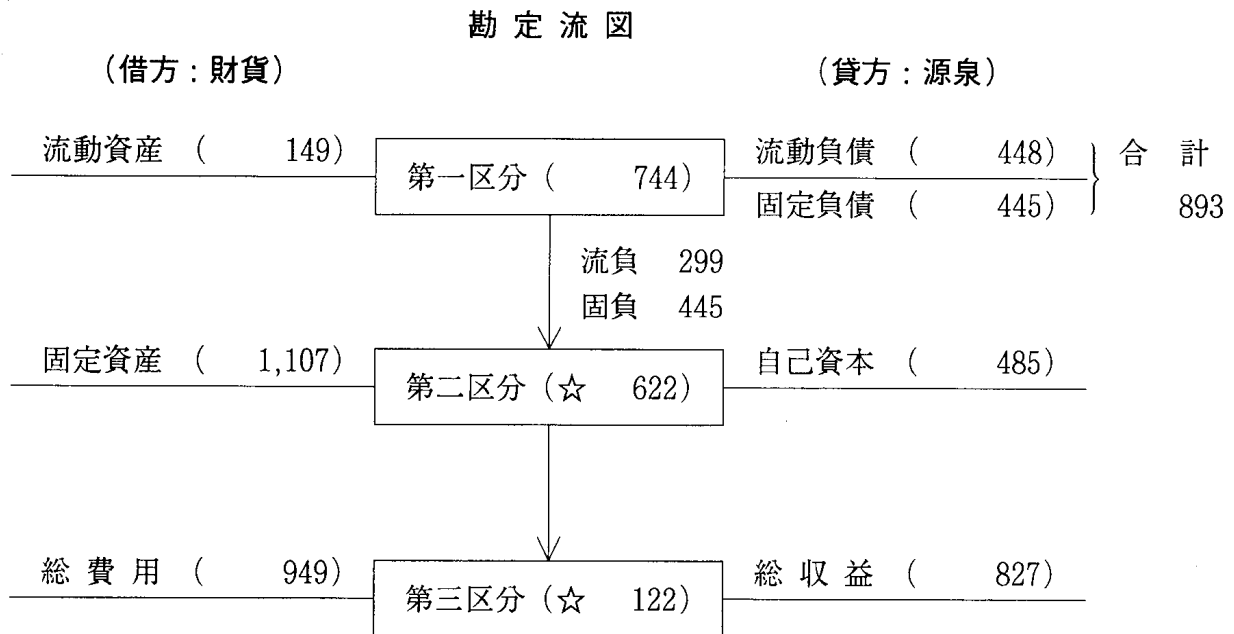
勘定流図



1期型勘定流図について（石内）

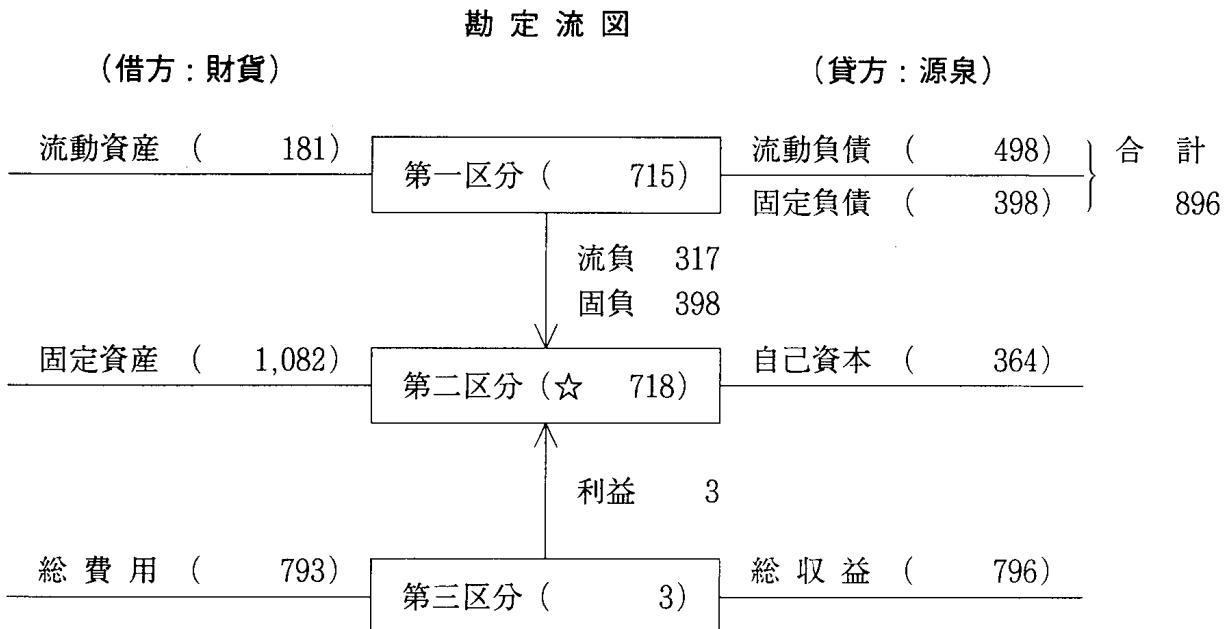
会社名：京 樽

決算日：平成4年12月31日



会社名：京 樽

決算日：平成5年12月31日

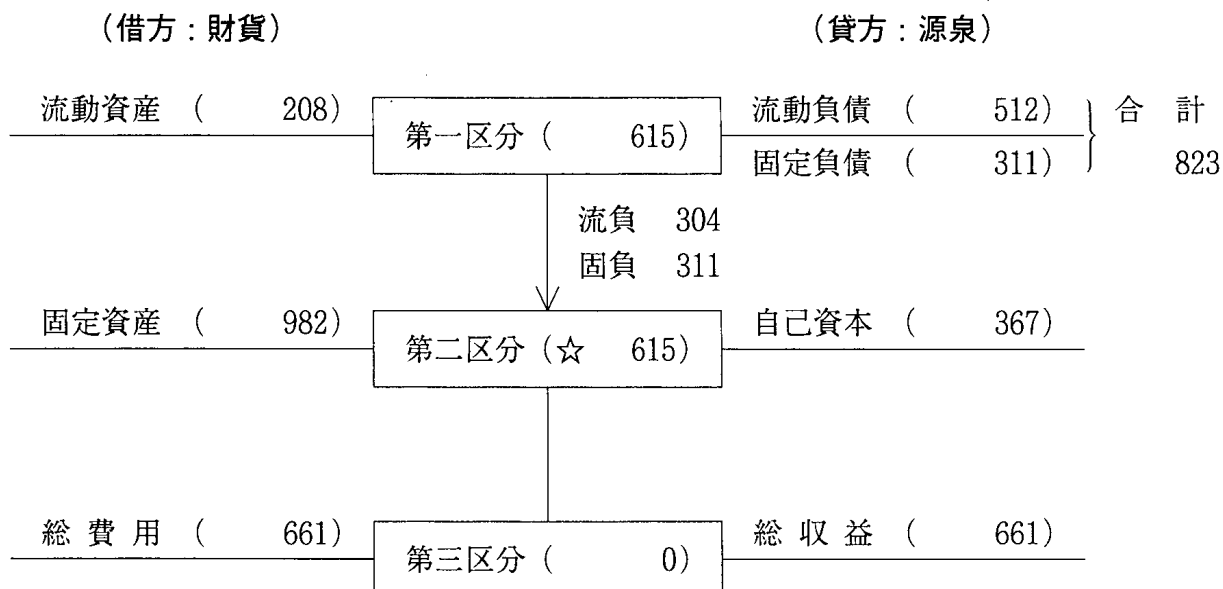


1期型勘定流図について（石内）

会社名：京 樽

決算日：平成6年12月31日

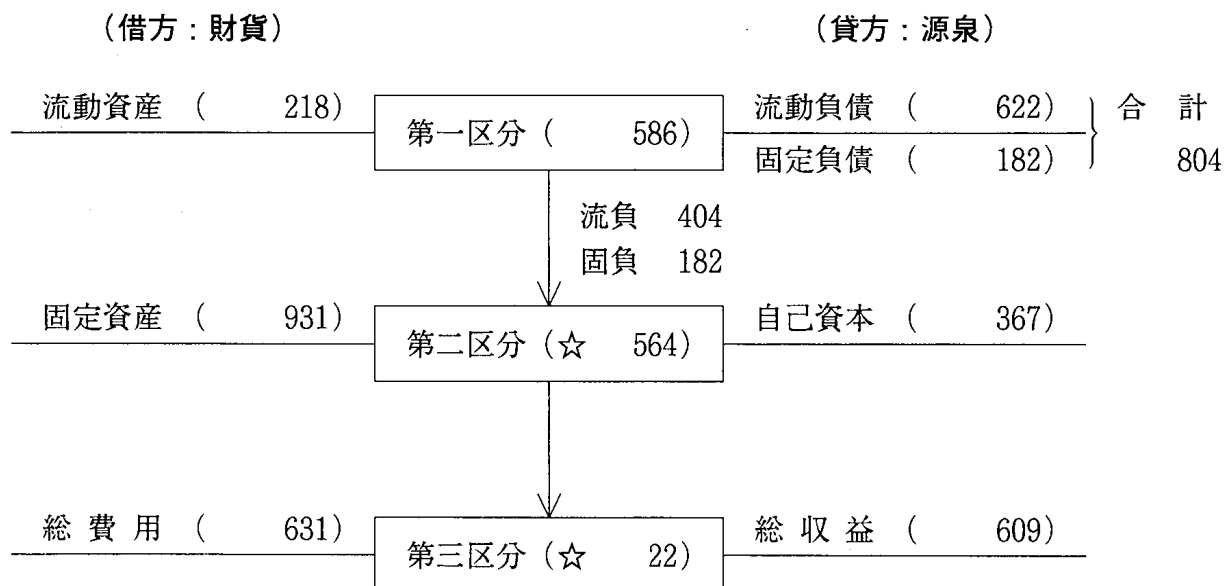
勘定流図



会社名：京 樽

決算日：平成7年12月31日

勘定流図



京樽の財源状況についてのコメント

京樽の勘定流図における第一区分と第二区分とに焦点を当て、その財源状況を説明することとしたい。

無借金経営を志向するとの理念に立って努力をしその努力が実れば、借入金以外の負債が存在するとしても、企業の所有する流動資産額だけですべての負債額をまかなうことができるはずである。また、自己資本志向の経営理念を論拠にして、固定資産を購入するための資金は自己資本額だけでまかなうとすれば、理念型に基づく勘定の流れは第一区分に向かって第二区分から上昇していなければならないことになる。第一区分から第二区分に向かって下降してはならないのである。

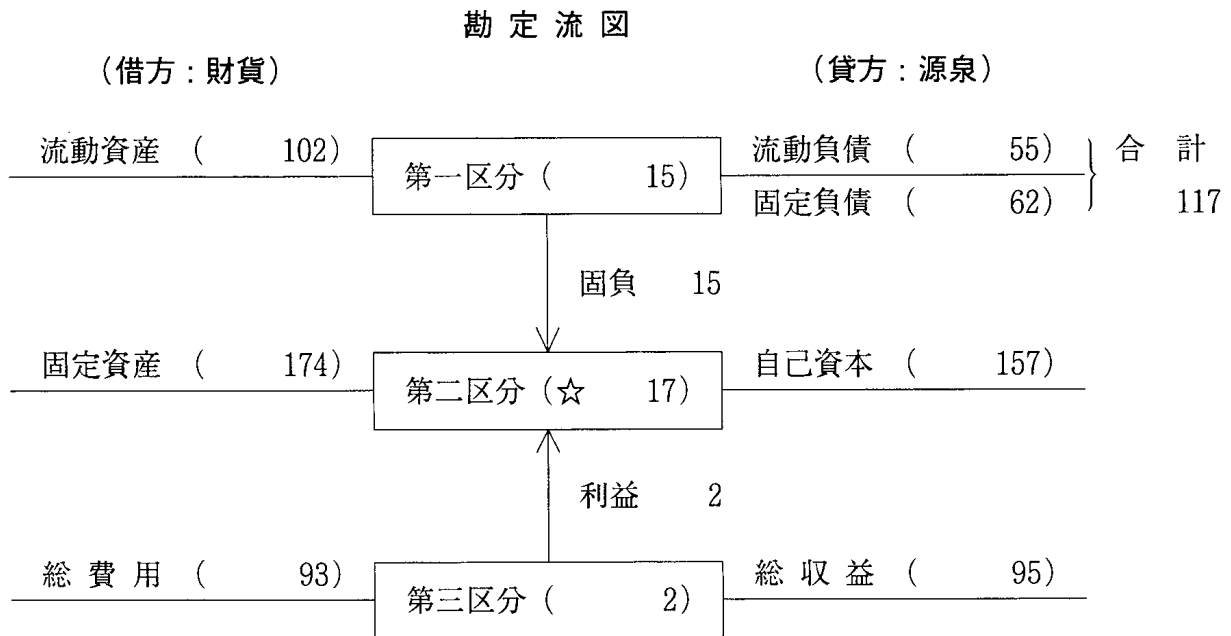
しかるに、1期型勘定流図（負債一括型）で見た京樽の財源状況は昭和61年12月決算から経営破綻した平成7年12月決算期に至る10年間において、すべて第一区分から第二区分へと勘定が下降している。昭和61年12月決算期で説明すると負債207億円を源泉とする財貨の中から100億円が固定資産437億円を取得するための資金の一部として運用されているのである。しかも、その100億円のうち28億円は流動負債を源泉とする財貨が運用されているのである。流動負債の返済期限は1年以内に到来するのである。それなのに、流動負債を源泉とする固定資産に運用してしまえば固定資産に投下された資金を回収するのに1年超を要することになるので、1年以内に返済期限の到来する流動負債を返済するための資金繰りが困難になる恐れがあるのである。したがって、第一区分から第二区分に向かって勘定が下降している京樽の財源状況は不健全であると判断しなければならない。とりわけ固定負債のみならず流動負債を源泉とする財貨までもが下降している場合、第三区分を観察するまでもなく、財務状況は極めて不健全であると結論づけねばならないのである。

1 期型勘定流図について (石内)

(2) につかつの財源状況について

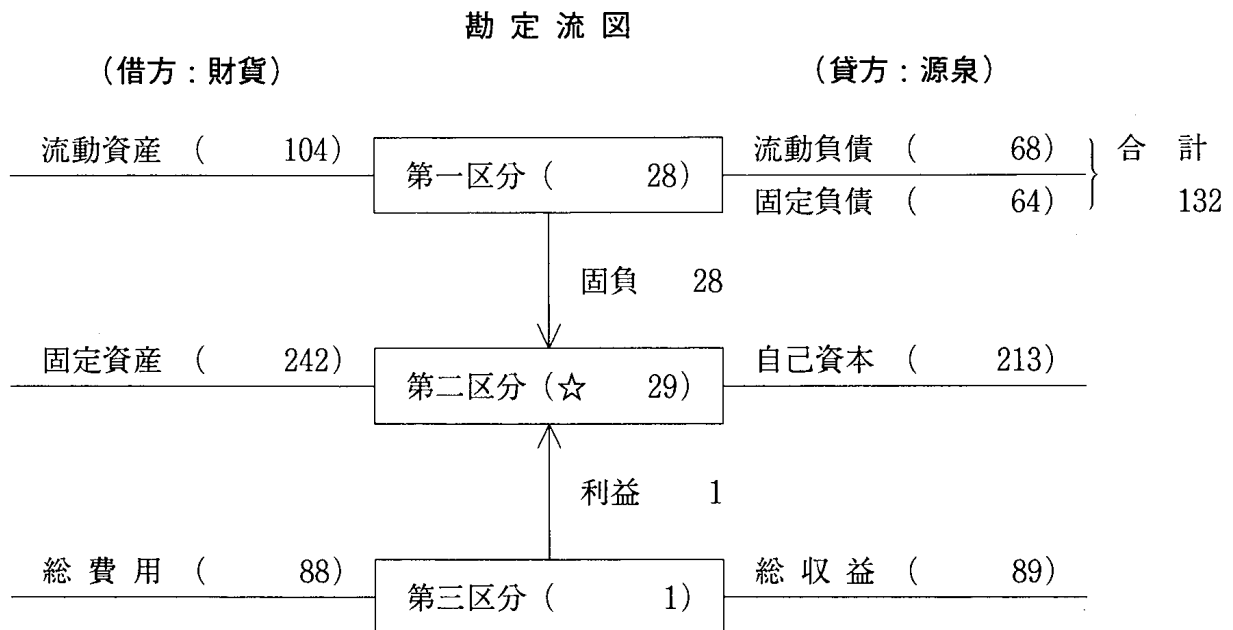
会社名：につかつ

決算日：昭和59年1月31日



会社名：につかつ

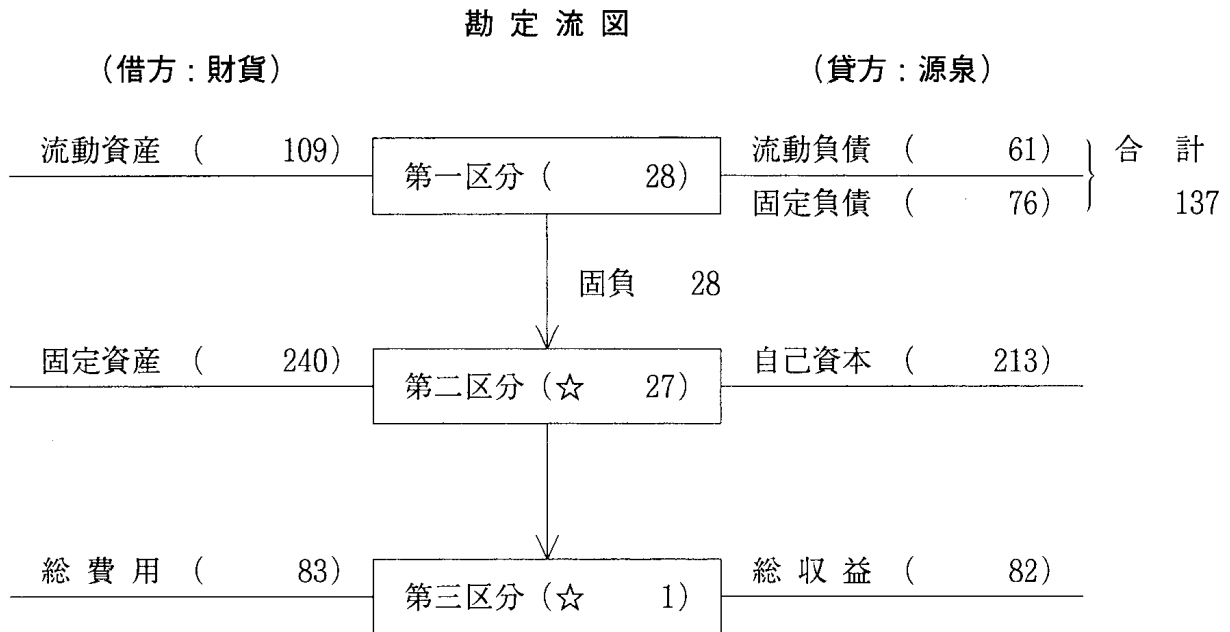
決算日：昭和60年1月31日



1 期型勘定流図について (石内)

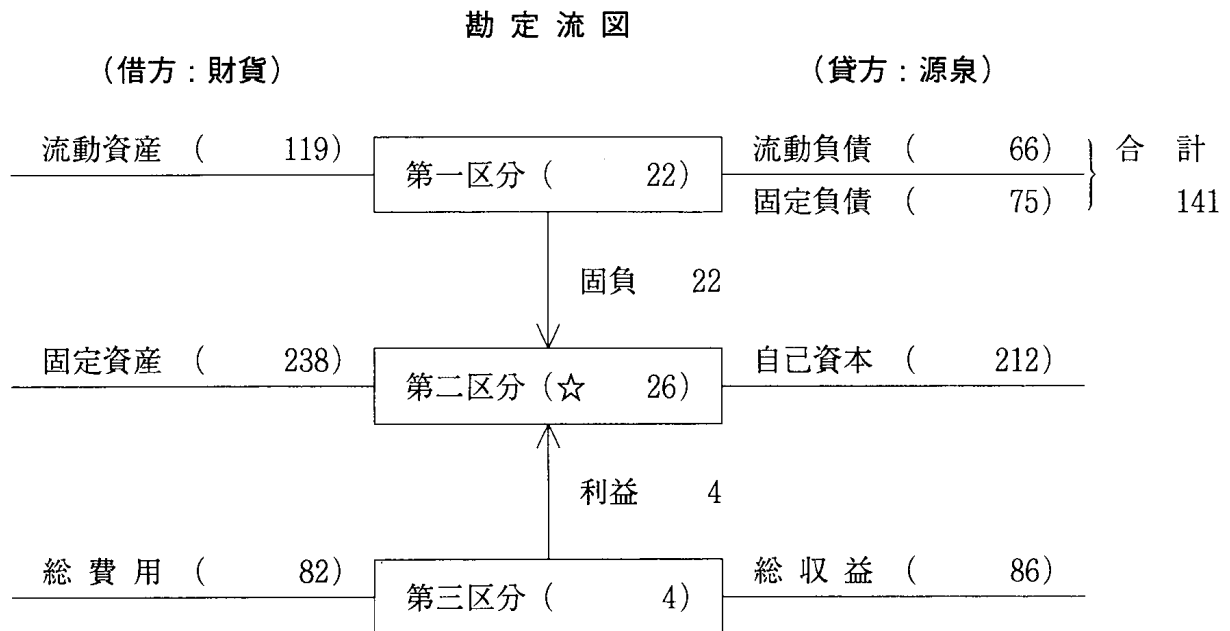
会社名：にっかつ

決算日：昭和61年1月31日



会社名：にっかつ

決算日：昭和62年1月31日



1 期型勘定流図について (石内)

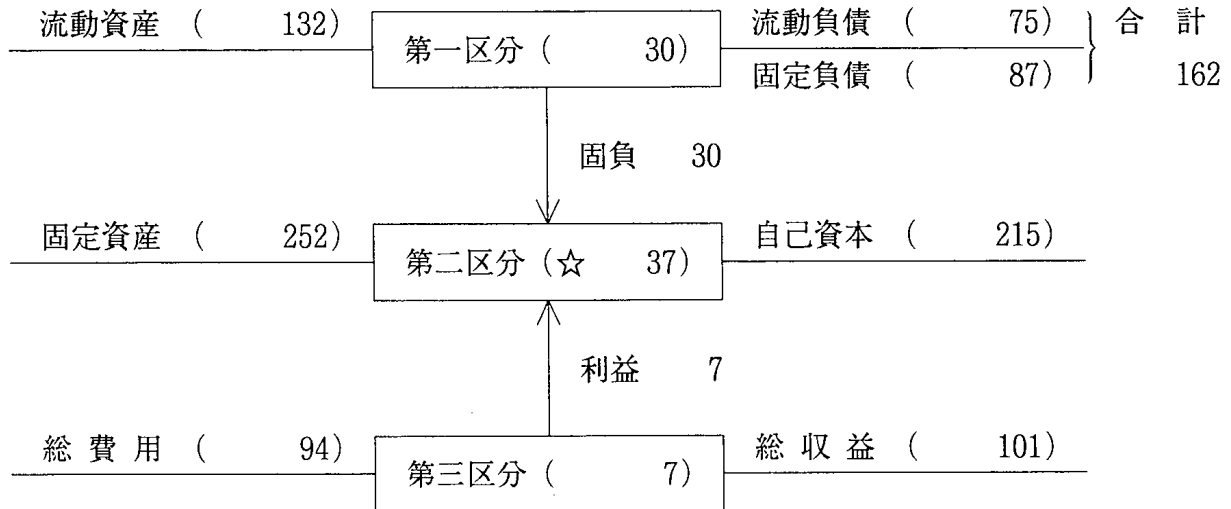
会社名：にっかつ

決算日：昭和63年1月31日

勘定流図

(借方：財貨)

(貸方：源泉)



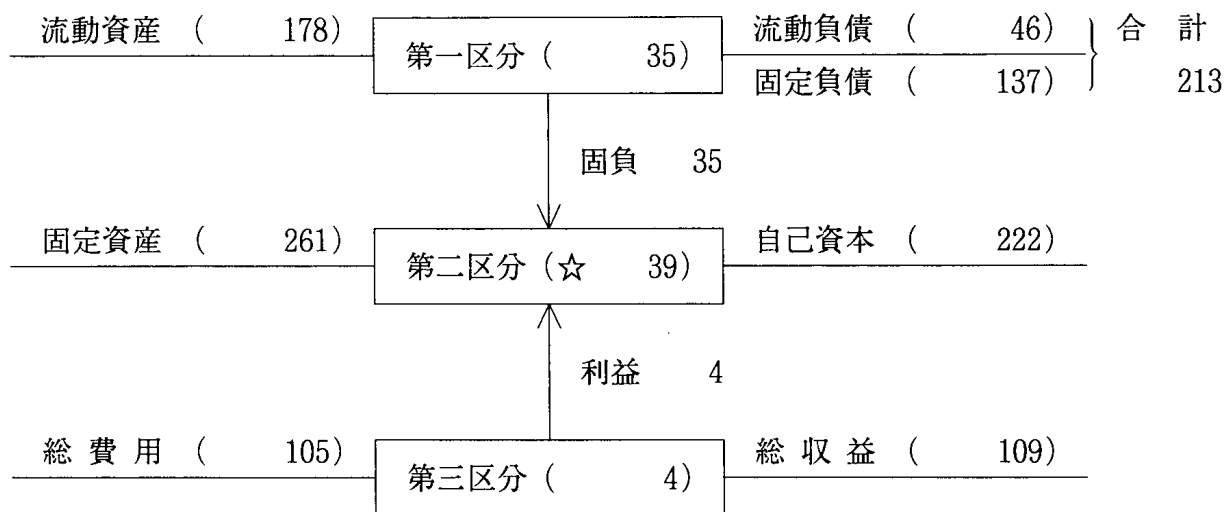
会社名：にっかつ

決算日：平成元年1月31日

勘定流図

(借方：財貨)

(貸方：源泉)

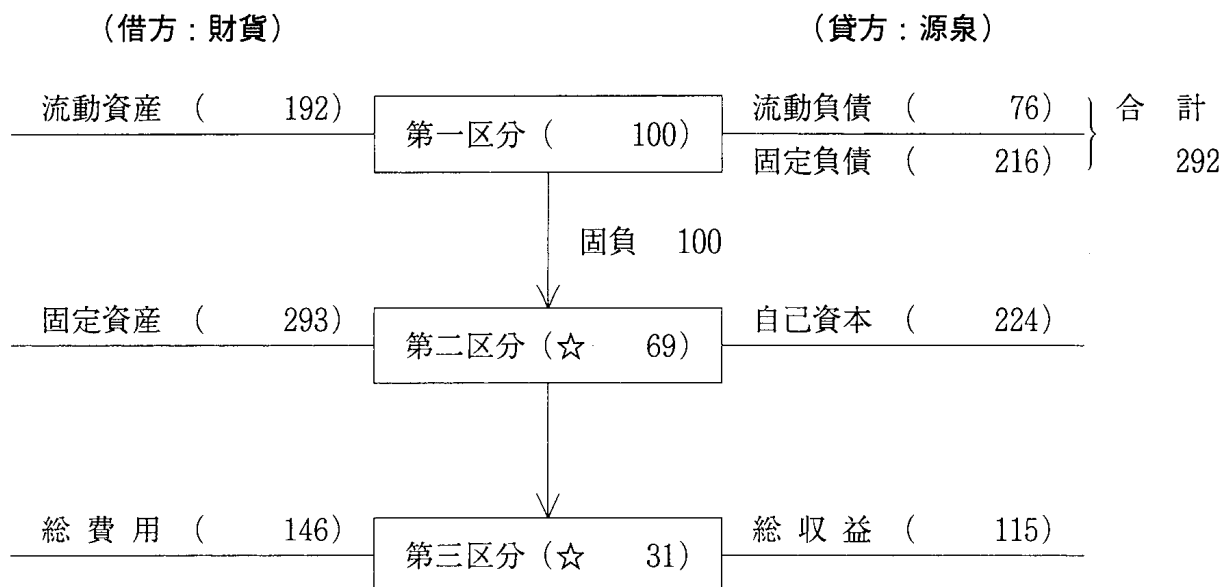


1期型勘定流図について（石内）

会社名：につかつ

決算日：平成2年1月31日

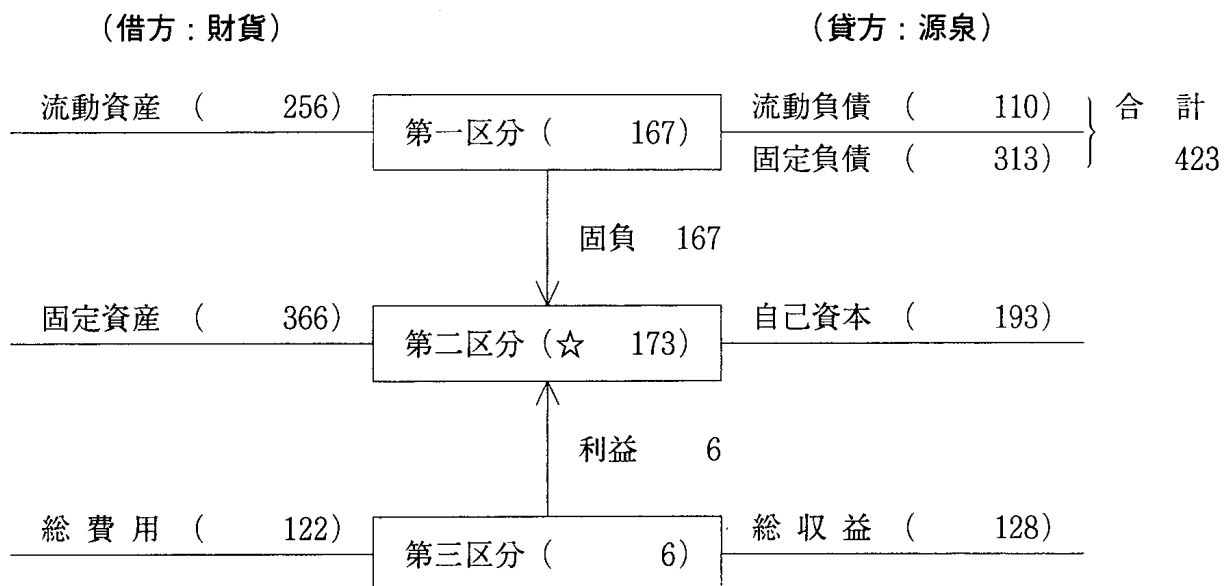
勘定流図



会社名：につかつ

決算日：平成3年1月31日

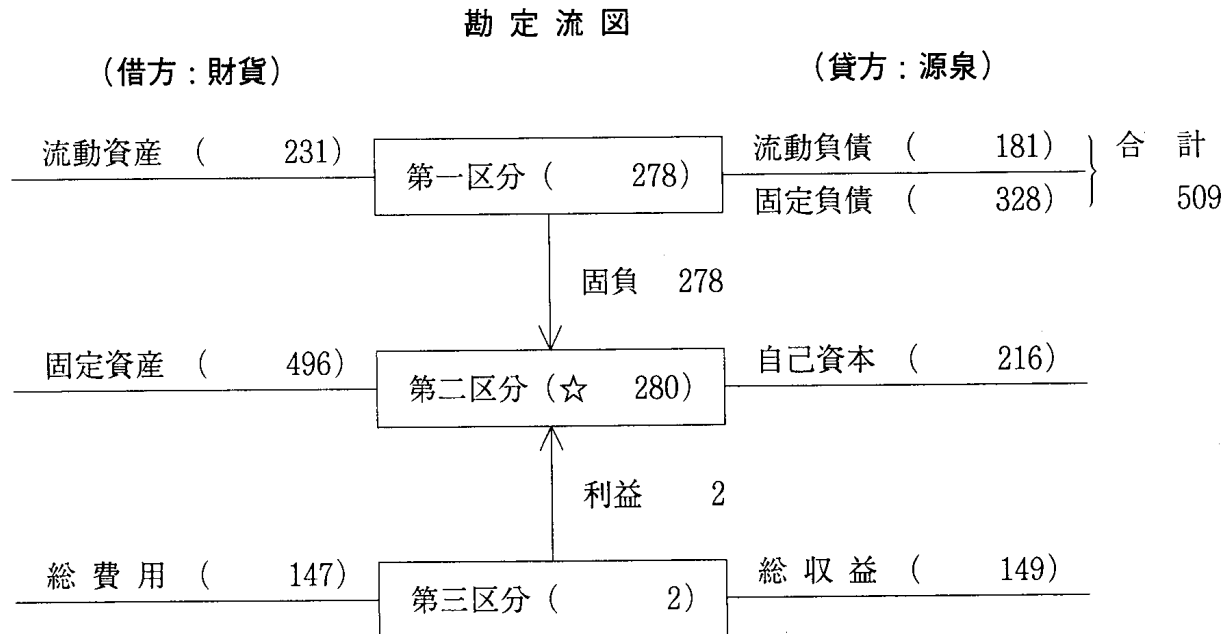
勘定流図



1 期型勘定流図について (石内)

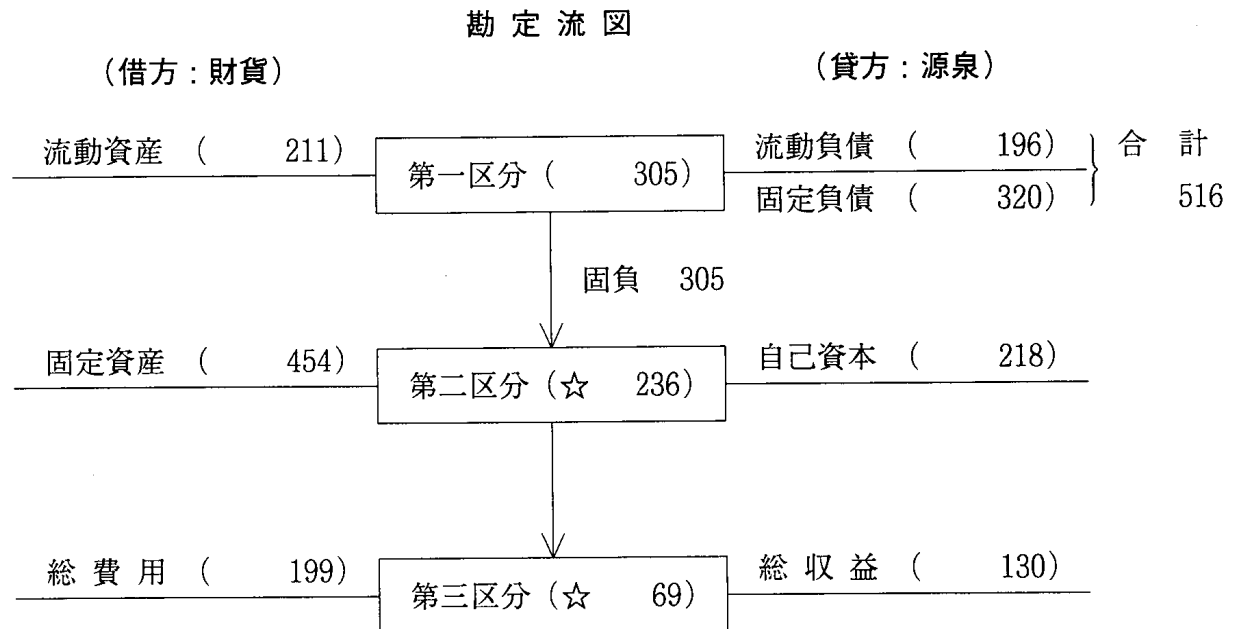
会社名: につかつ

決算日: 平成4年1月31日



会社名: につかつ

決算日: 平成5年1月31日



につかつの財源状況についてのコメント

につかつも京樽と同様に、昭和59年1月決算期から経営破綻した平成5年1月決算期に至るまでの10年間において、勘定の流れが第一区分から第二区分に下降している。ただし、につかつの場合は、固定負債を源泉とする財貨が第二区分に下降しているのであって、流動負債を源泉とする財貨は何ら第二区分に下降していないのである。

流動負債および固定負債を源泉とする財貨が第二区分の固定資産に向かって下降していた京樽と比べると、につかつの場合には流動負債を源泉とする財貨が第二区分に下降していないのであるから、財源状況は不健全であるけれども、京樽よりも不健全の程度が軽度であったといえる。それにも拘らず、につかつの経営も破綻したのである。言うまでもなく、流動負債を源泉とする財貨が、固定資産取得のための資金として利用されることは極めて不健全であり、企業の財源状況は事実上破綻していることを意味するのである。こうした企業は、メインバンクなどからの異例の融資によって、辛うじて形式的に存在しているにすぎないのである。このような企業は、メインバンクなどによる異例の融資が停止された時点で経営破綻する運命におかれているのである。

このにつかつの事例が示唆していることは、1年以内に返済期限の到来する流動負債を源泉とする財貨が、固定資産取得のための資金として利用されていないからといって安心してはいけないということである。

自己資本額の範囲を超えて、固定負債に大きく依存したところの固定資産への過大投資が、売上不振時や不況時に資金繰りの悪化となり元利金の負担に耐えられずに経営破綻へと至るのである。平成2年1月決算期で約31億円の赤字経営へと転落し、再び平成5年1月決算期で69億円の赤字を抱えたにつかつが経営破綻に至ったのは、本業の不振に加えて過大な固定資産への投資も背景にあったといえるのである。

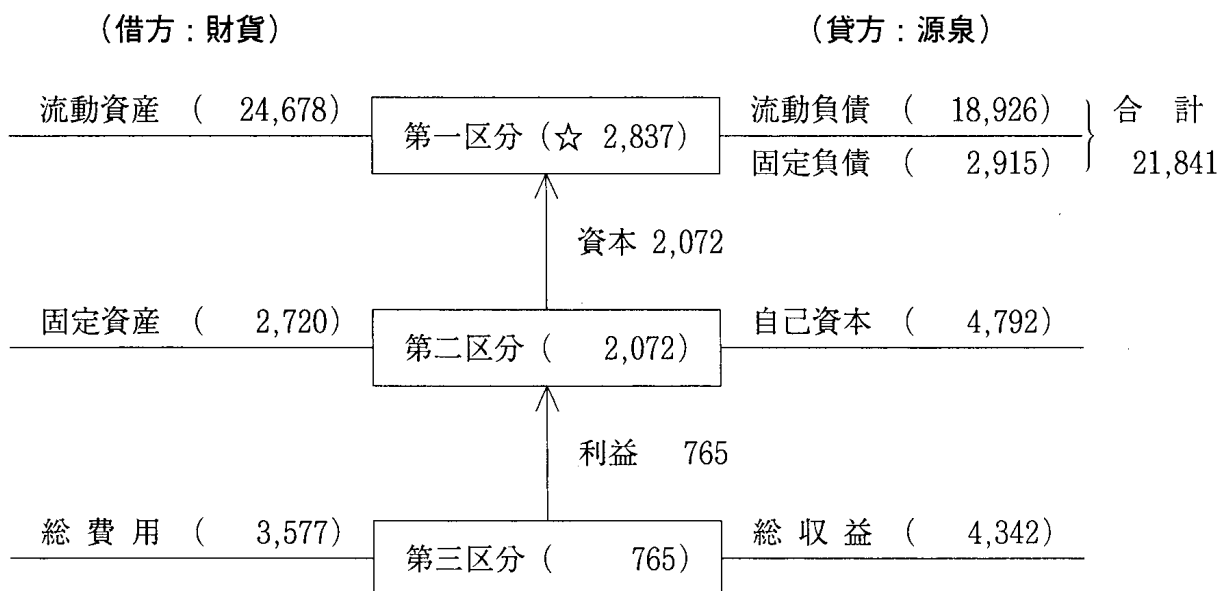
1 期型勘定流図について (石内)

(3) 山一証券の財源状況について

会社名：山一証券

決算日：昭和63年9月30日

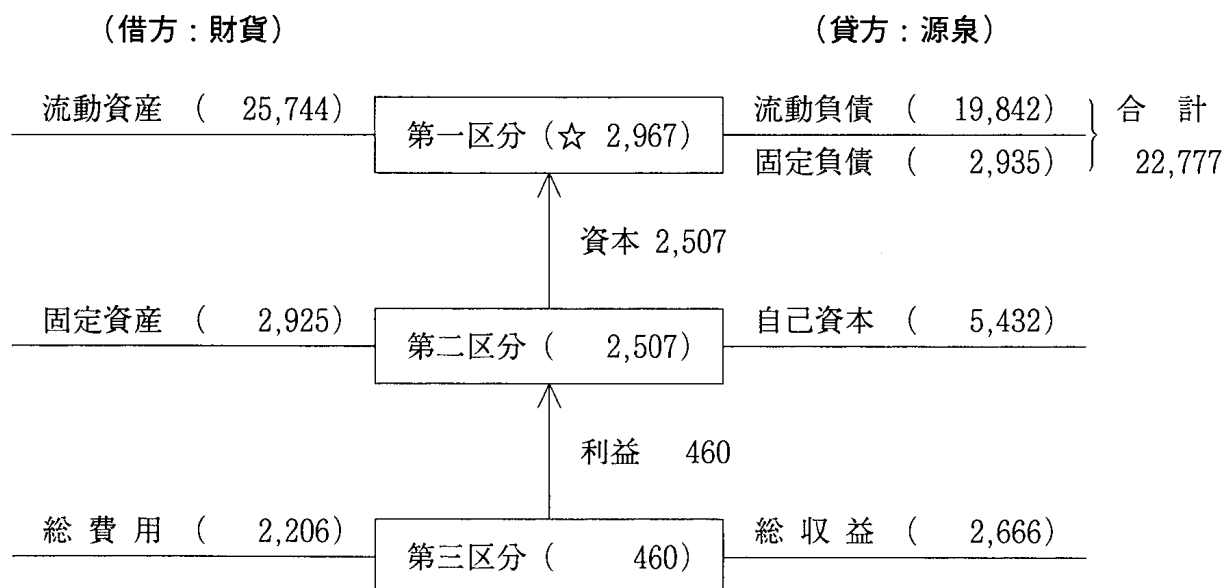
勘定流図



会社名：山一証券

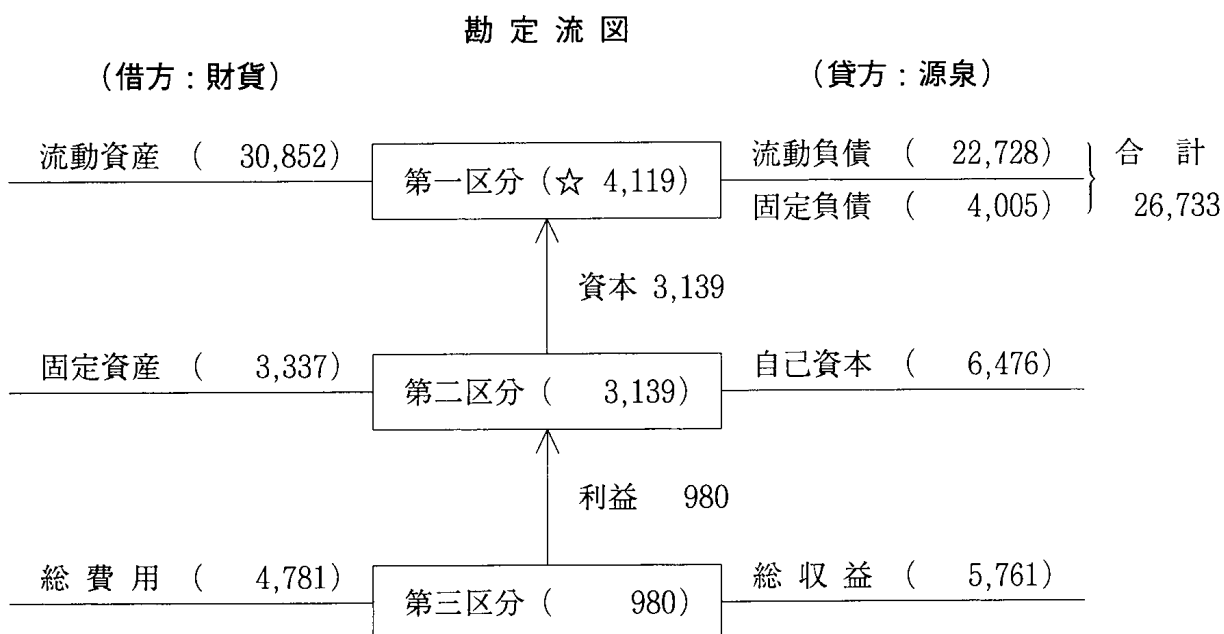
決算日：平成元年9月30日

勘定流図

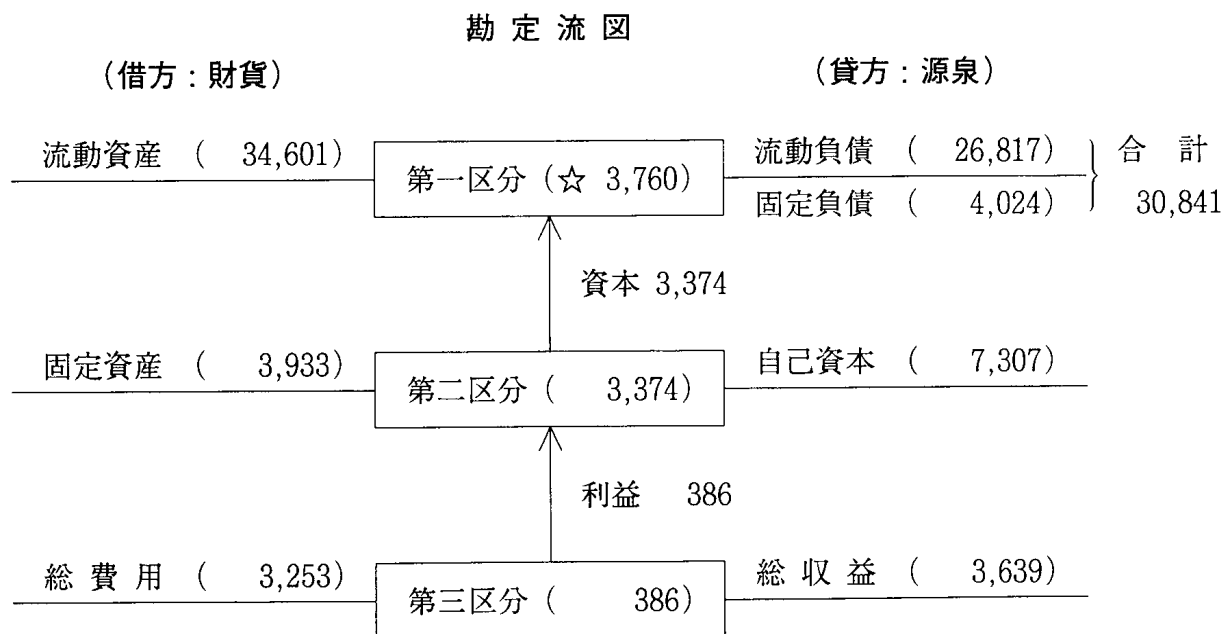


1 期型勘定流図について (石内)

会社名：山一証券
 決算日：平成2年9月30日



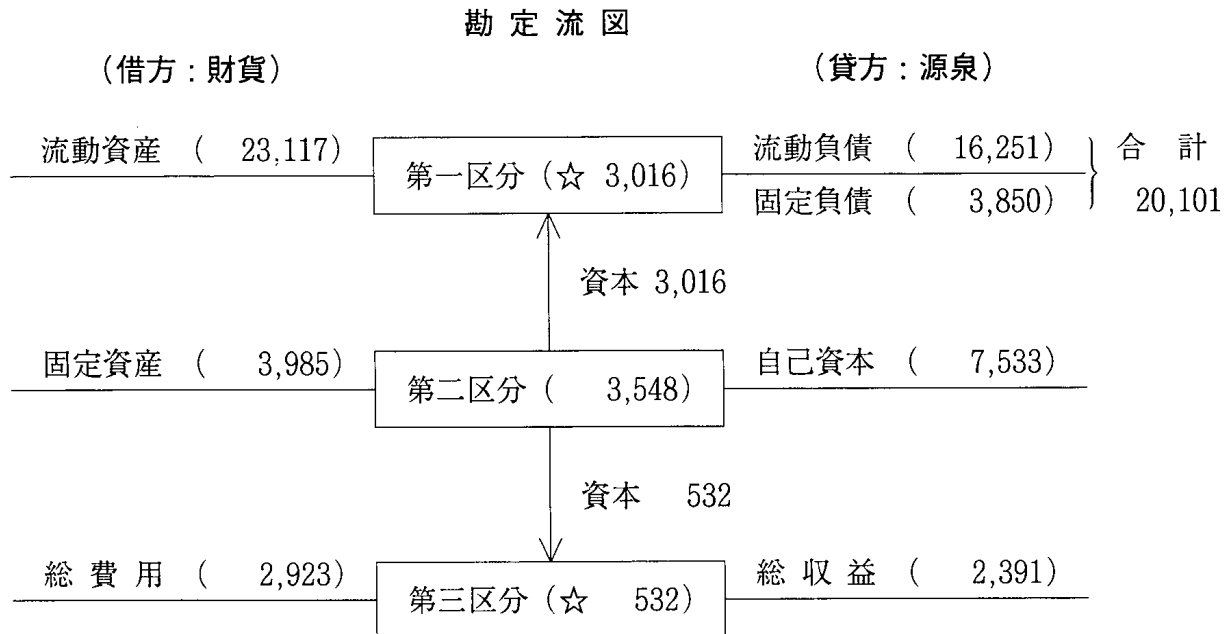
会社名：山一証券
 決算日：平成3年9月30日



1 期型勘定流図について (石内)

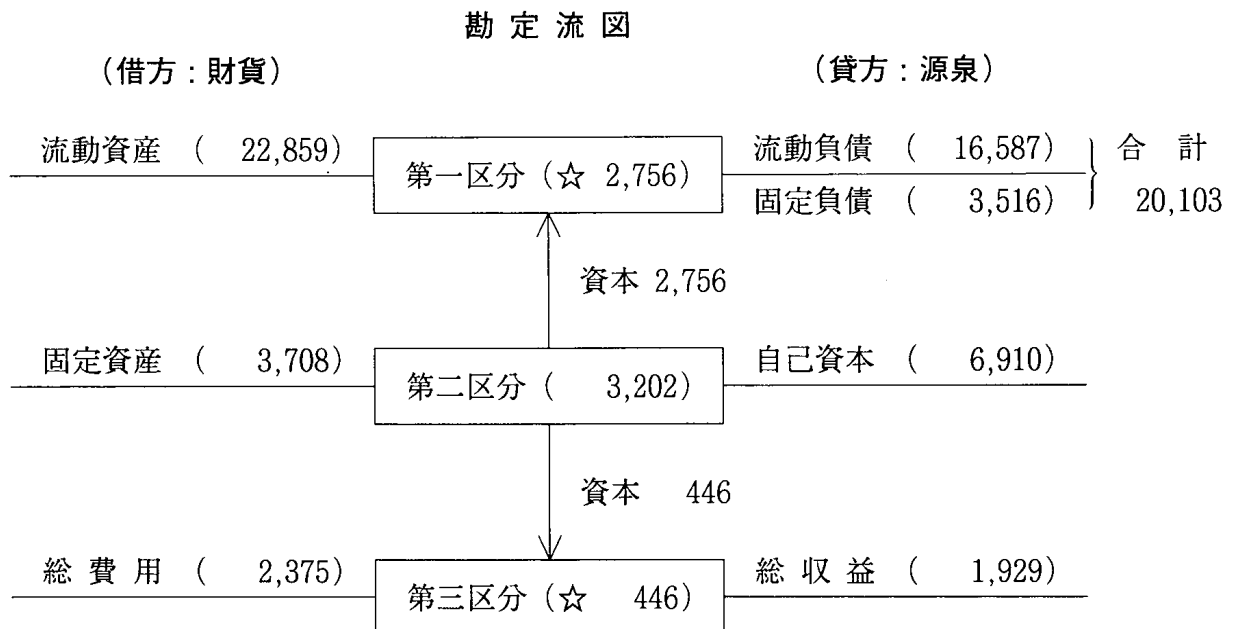
会社名：山一証券

決算日：平成4年9月30日



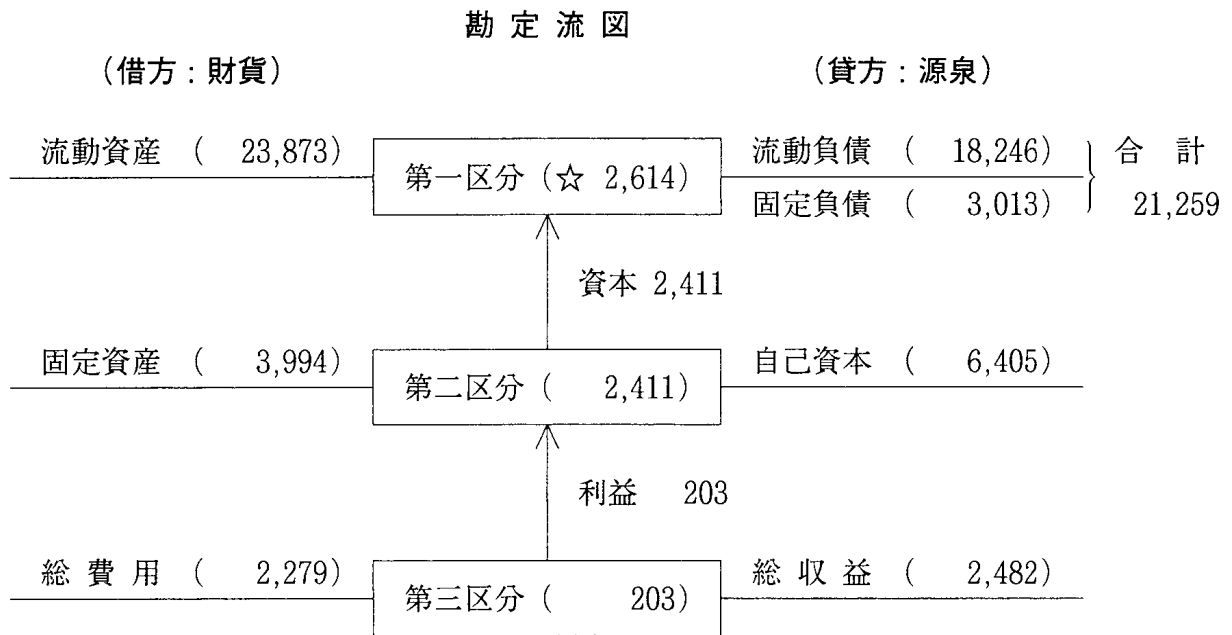
会社名：山一証券

決算日：平成5年9月30日

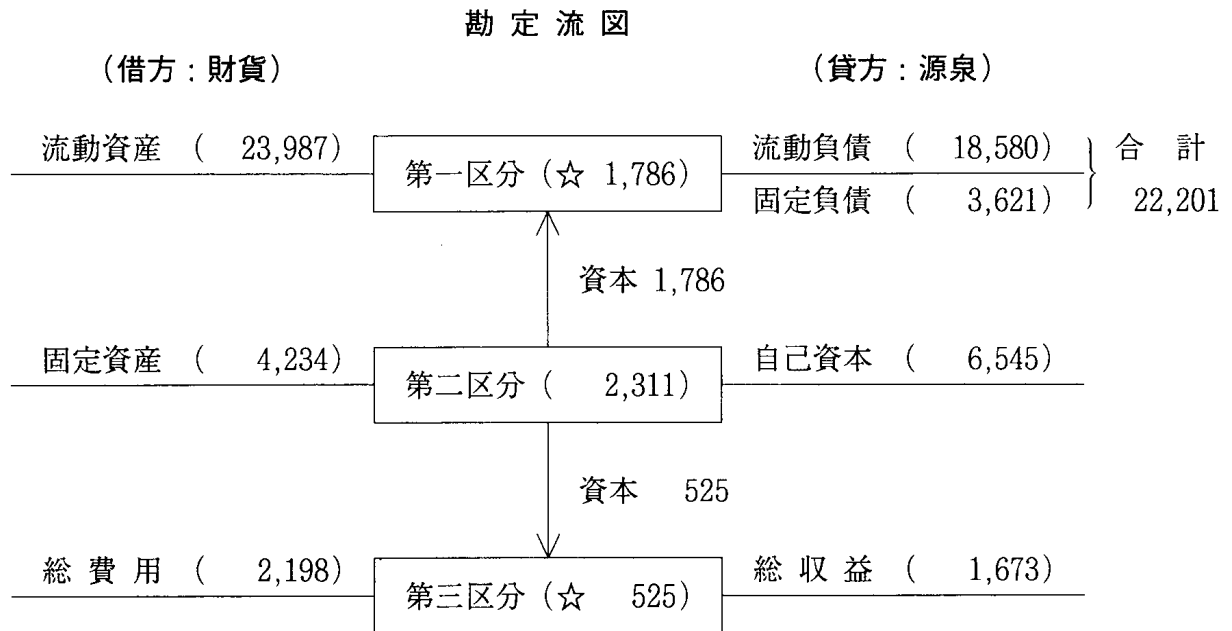


1 期型勘定流図について (石内)

会社名：山一証券
 決算日：平成6年9月30日



会社名：山一証券
 決算日：平成7年9月30日

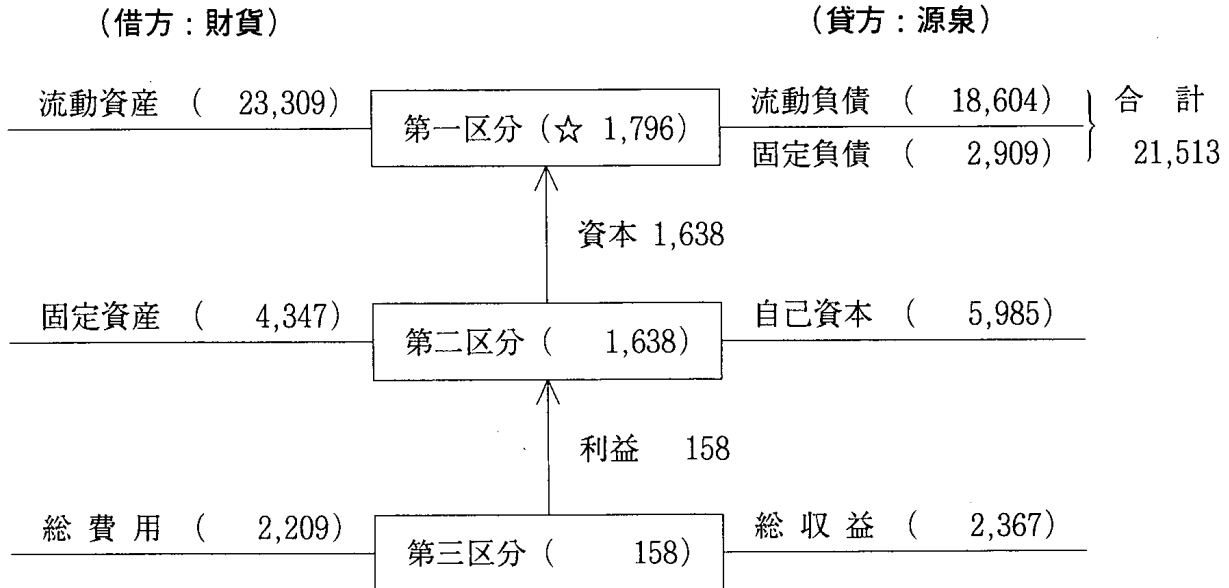


1 期型勘定流図について (石内)

会社名：山一証券

決算日：平成8年9月30日

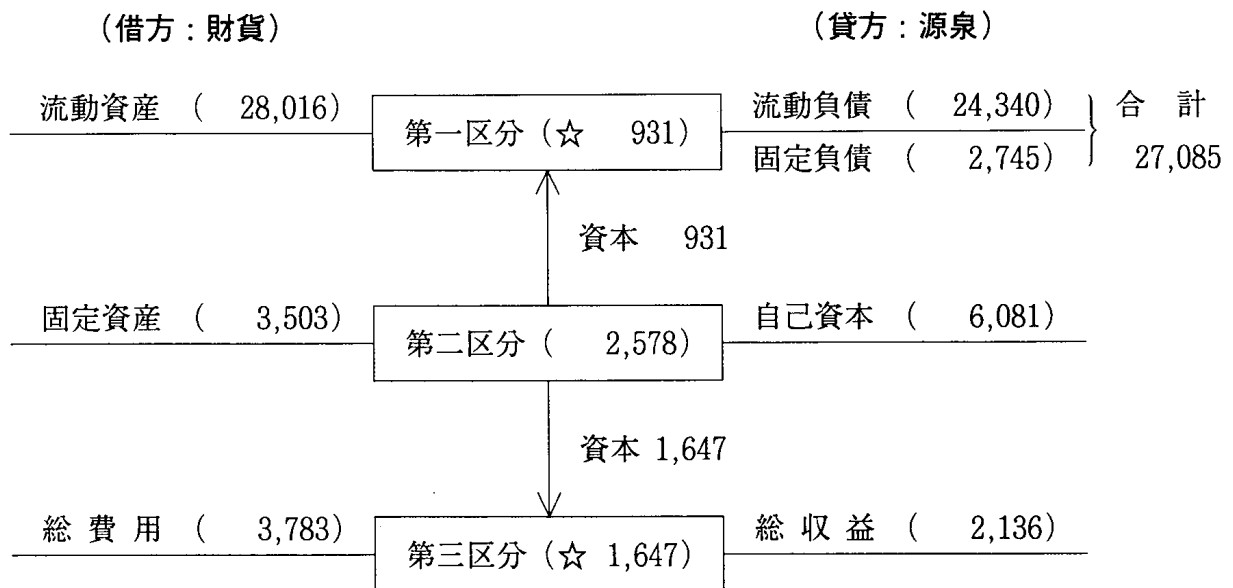
勘定流図



会社名：山一証券

決算日：平成9年9月30日

勘定流図



山一証券の財源状況についてのコメント

自己資本額の範囲を超えて、流動負債および固定負債に依存し固定資産を取得していたのが京樽であった。そして、固定負債に依存し固定資産を取得していたのがにつかつであった。つまり、京樽およびにつかつの場合には、経営破綻に至る過程において、自己資本を源泉とする第二区分のみならず、負債を源泉とする第一区分からも第三区分の赤字額をカバーするために下降している。

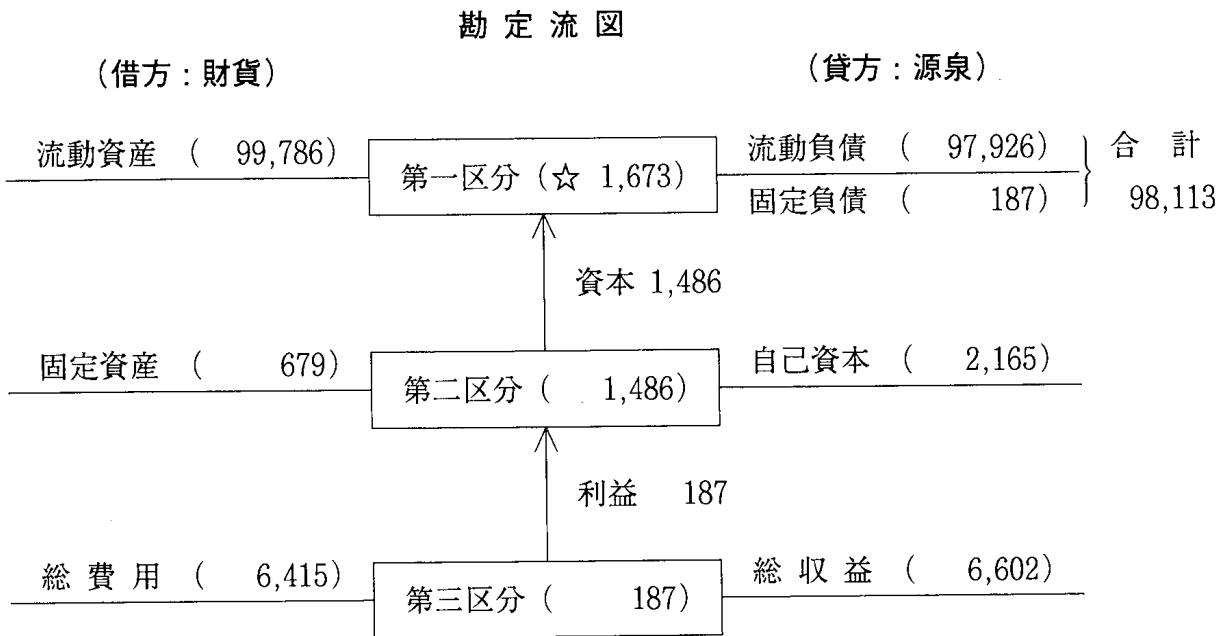
これに対して山一証券の場合には、自己資本額の範囲内で固定資産の取得がなされている。山一証券の財務諸表10年分を見ると、昭和63年9月決算期から平成3年9月決算期までの4年間と平成6年9月決算期および平成8年9月決算期の2年間、計6年間は黒字経営の上昇型であり、健全な財源状況と一応いえるのである。しかし、平成4年9月期決算期、平成5年9月期、平成7年9月決算期、および平成9年月決算期の4年間は赤字経営である。赤字経営となった4年間の第三区分を見ると赤字額を穴埋めするために、自己資本を源泉とする第二区分だけから下降しているのであって、負債を源泉とする第一区分からは全く下降していないことがわかる。

流動負債および固定負債を源泉とする財貨が、固定資産取得のための資金として利用されていないのに、また、負債を源泉とする第一区分の財貨が、第三区分の赤字を穴埋めするために下降していないのに、山一証券が経営破綻したのは次の事情によると見られる。すなわち、平成4年9月決算期以降の累積赤字額約3,148億円が社内留保されていた蓄積利益を侵食したこと、第一区分の借方に計上されている流動資産の中の営業債権および有価証券が劣化していたこと、第二区分の借方に計上されている固定資産の中の土地が劣化していたことなどが山一証券の経営破綻を招いた要因であると思われることができるであろう。つまり、不良資産を抱えていたにも拘らず、これが正常債権として表示されていたと見ざるを得ないのである。

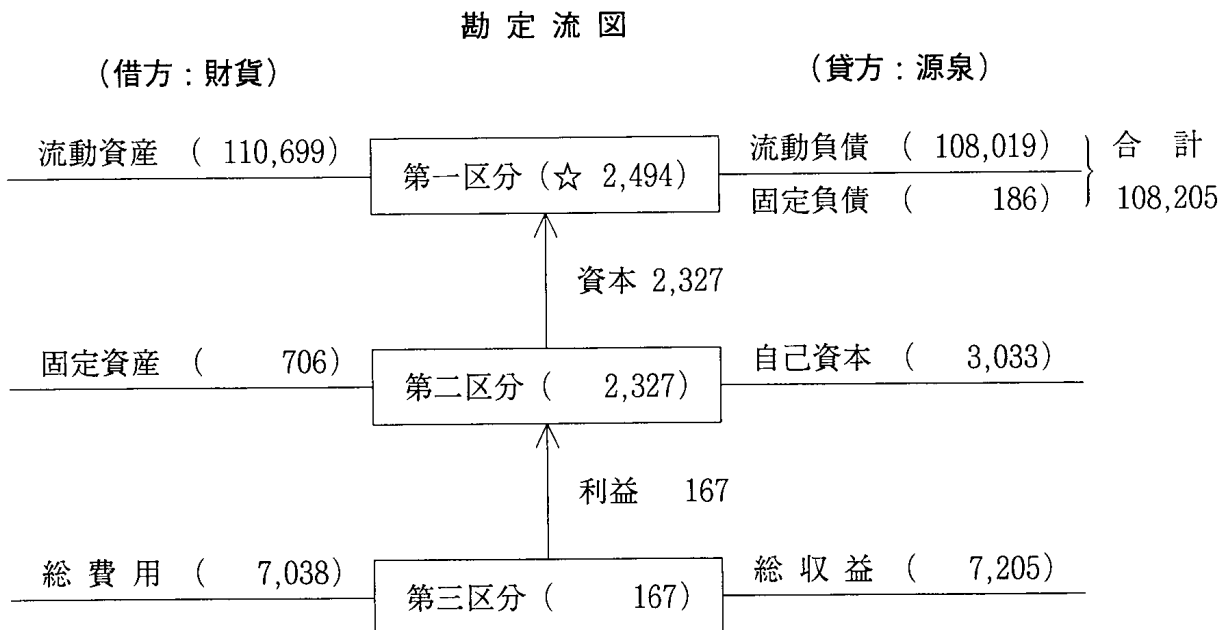
1 期型勘定流図について (石内)

(4) 北海道拓殖銀行の財源状況について

会社名：北海道拓殖銀行
 決算日：平成元年 3 月 31 日

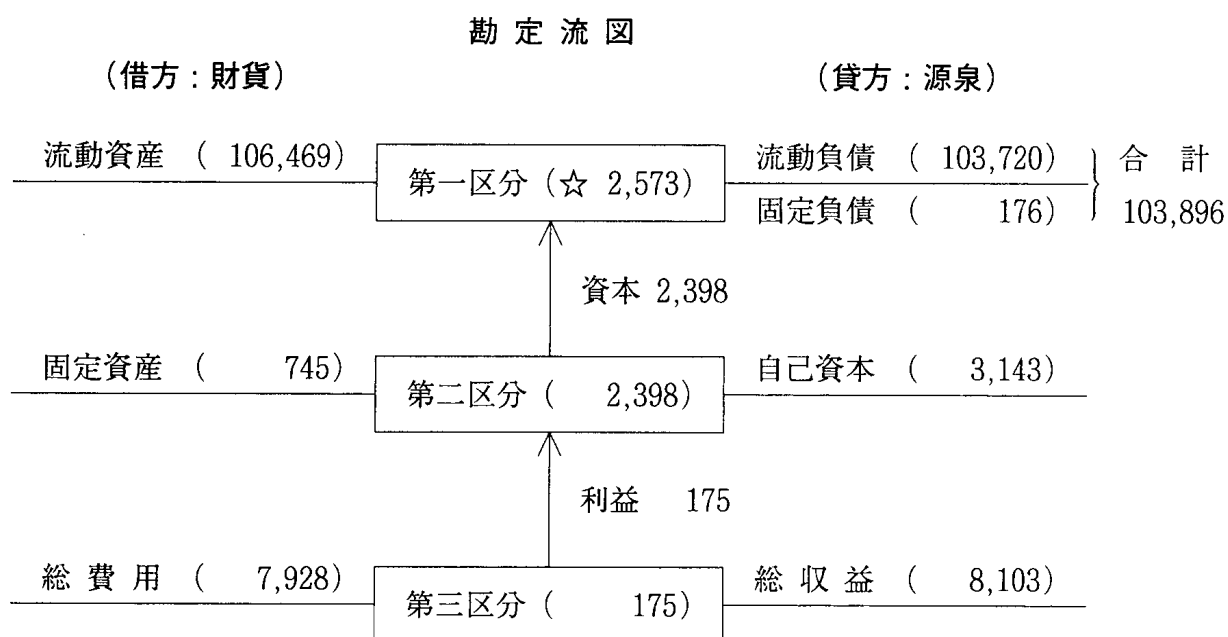


会社名：北海道拓殖銀行
 決算日：平成 2 年 3 月 31 日

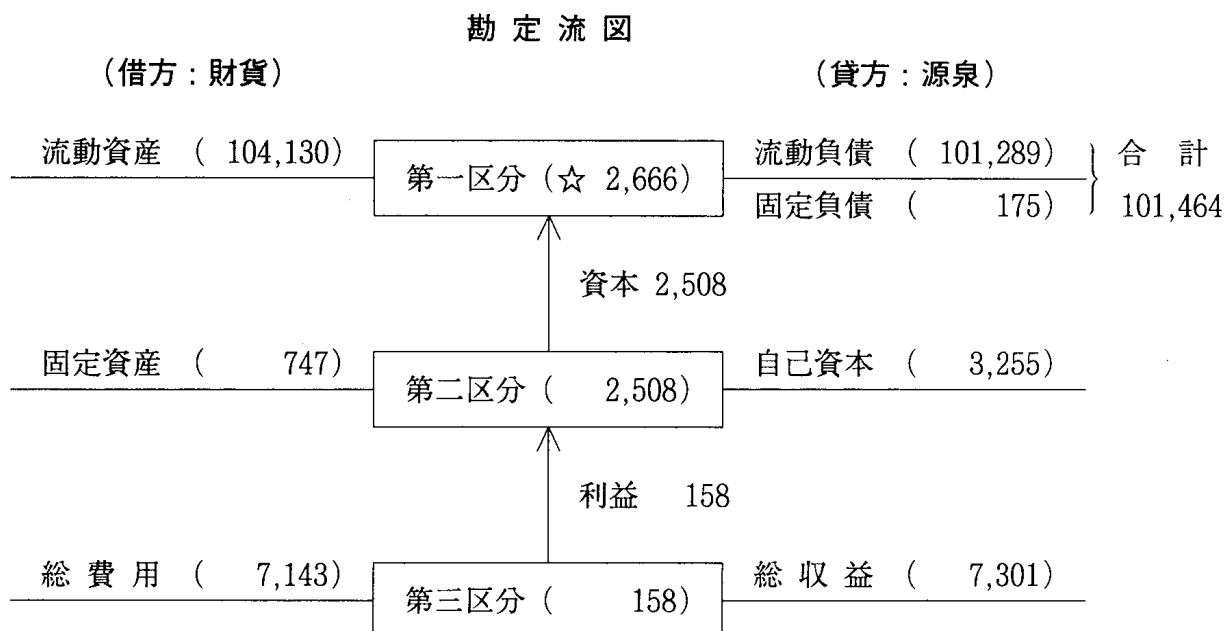


1 期型勘定流図について (石内)

会社名：北海道拓殖銀行
 決算日：平成3年3月31日

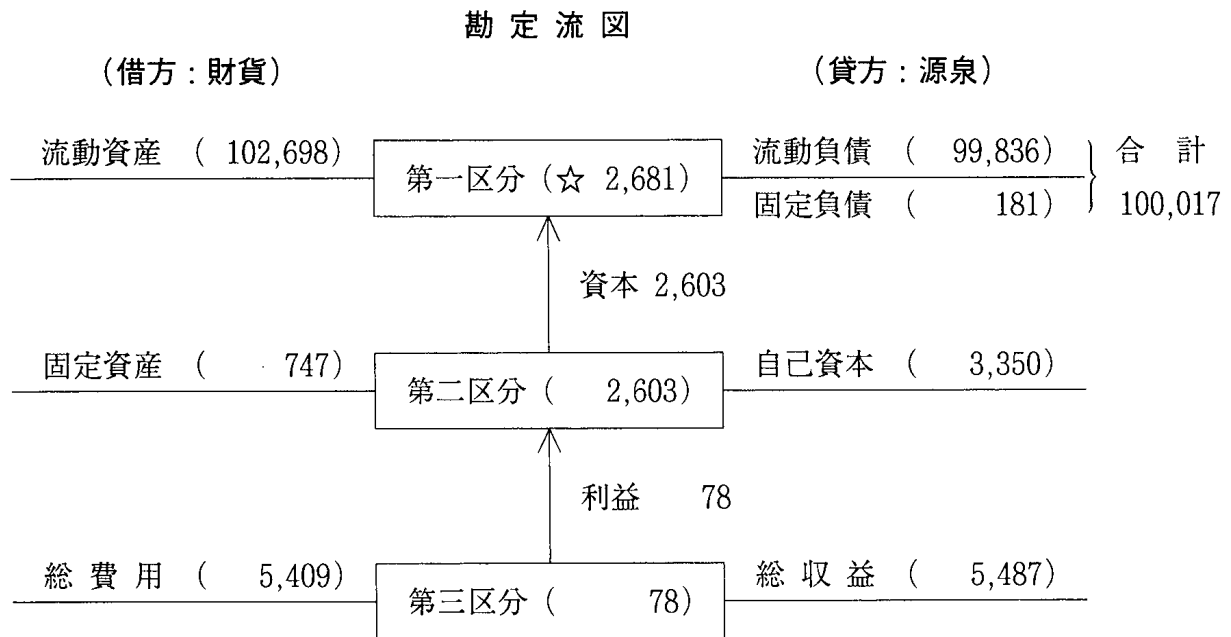


会社名：北海道拓殖銀行
 決算日：平成4年3月31日

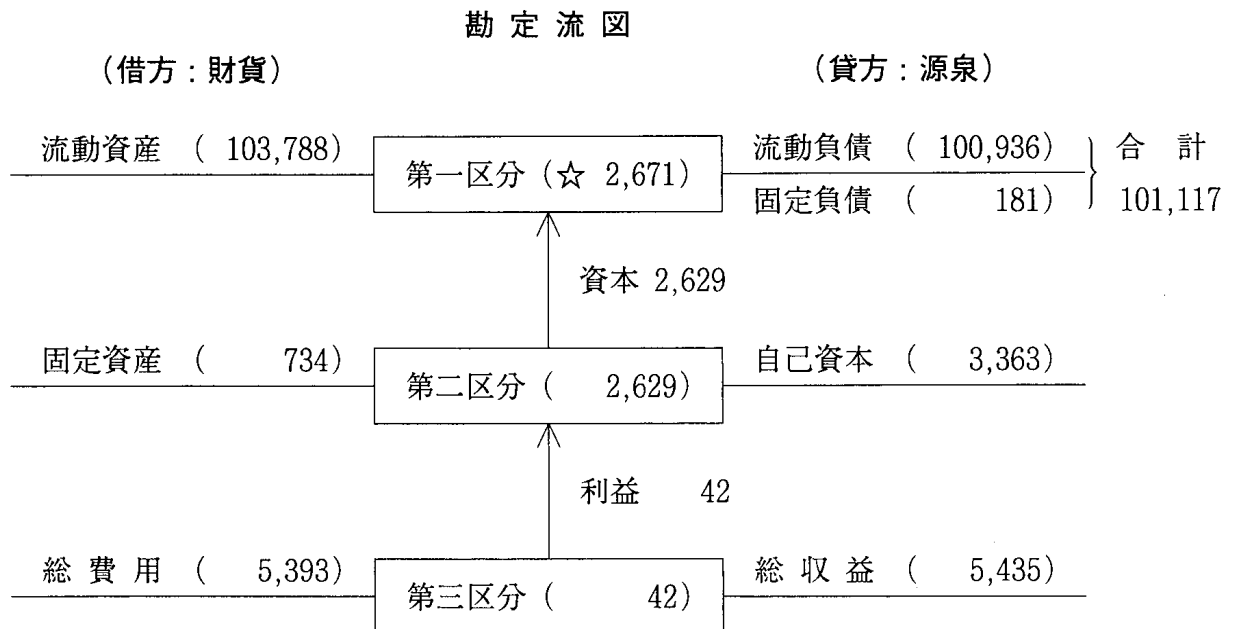


1 期型勘定流図について (石内)

会社名：北海道拓殖銀行
 決算日：平成5年3月31日

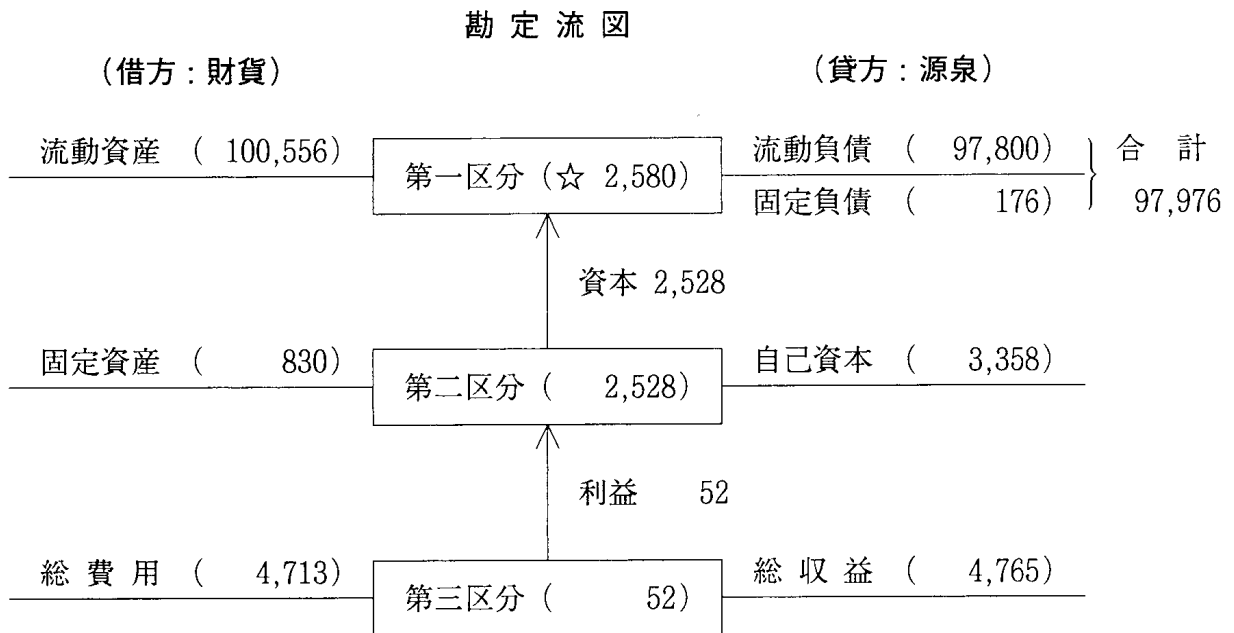


会社名：北海道拓殖銀行
 決算日：平成6年3月31日

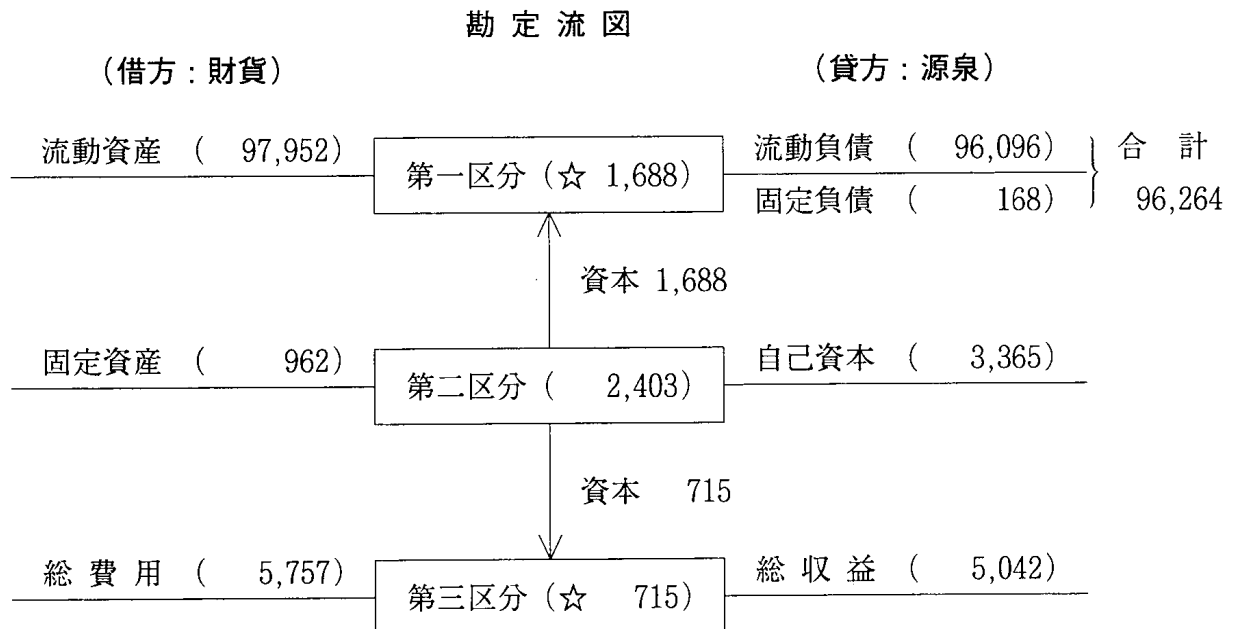


1 期型勘定流図について (石内)

会社名：北海道拓殖銀行
 決算日：平成7年3月31日

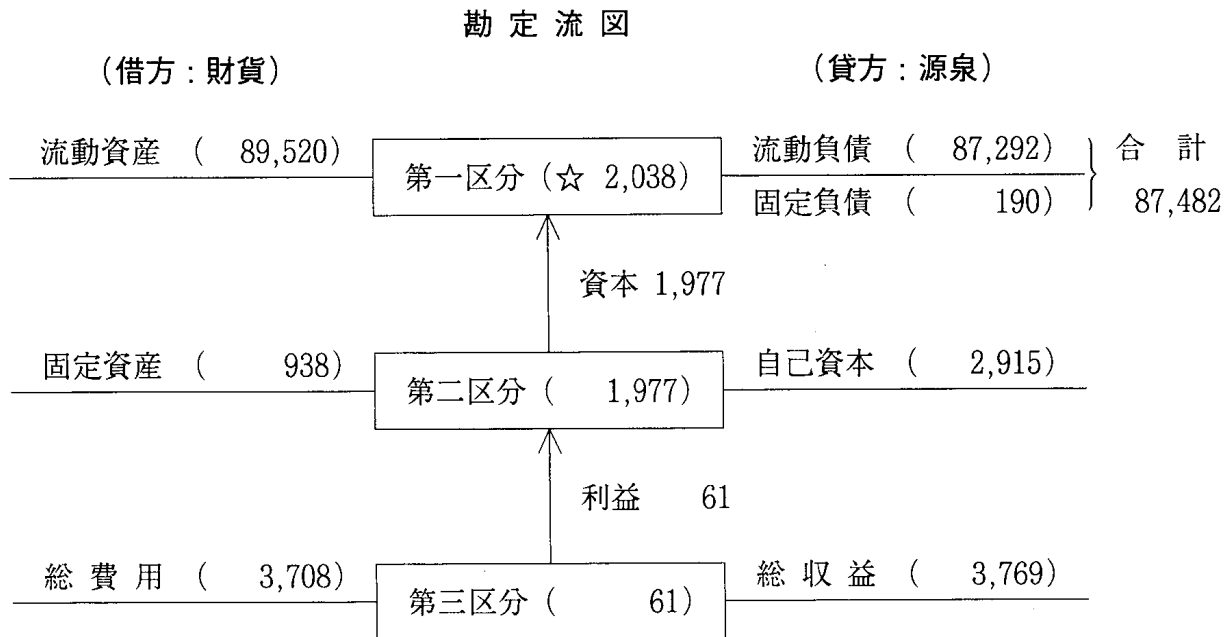


会社名：北海道拓殖銀行
 決算日：平成8年3月31日

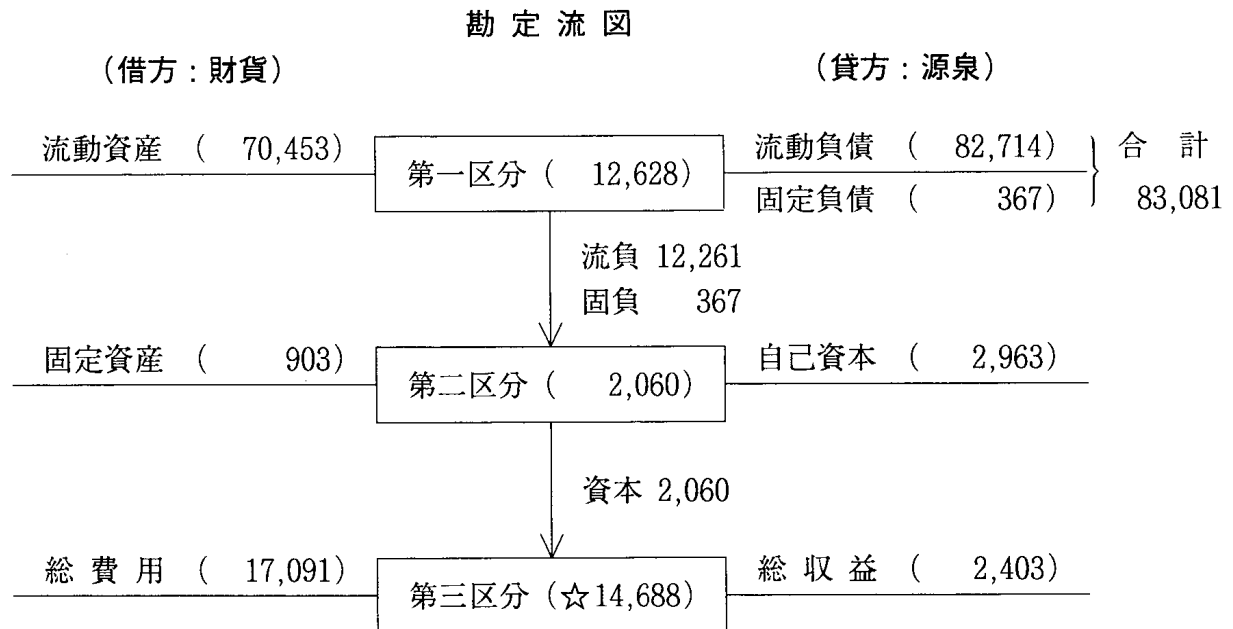


1 期型勘定流図について (石内)

会社名：北海道拓殖銀行
 決算日：平成9年3月31日



会社名：北海道拓殖銀行
 決算日：平成10年3月31日



北海道拓殖銀行の財源状況についてのコメント

北海道拓殖銀行の財務諸表10年間のうち、平成元年3月決算期から平成7年3月決算期に至る7年間の勘定流図は、完全上昇型であり健全な財源状況であると一応総論することができる。また、各論としてもこの間、第一区分の負債流動比率（＝流動資産額÷負債額）は各期とも100%超であり、流動資産額だけですべての負債額を返済可能な状況にあるから、健全な財源状況であると一応いえる。そして第二区分の固定資本比率（＝損益前の自己資本額÷固定資産額）もすべて100%超であり、各期とも自己資本額の範囲内に固定資産の取得がおさまっているから、健全な投資状況といえる。さらに、第三区分の費用収益比率（＝収益額÷費用額）も100%超であり、各期の収益総額が費用総額を超過しているから、黒字経営の健全な損益状況であるといえるのである。

ところが、その北海道拓殖銀行は平成8年3月決算期および平成10年3月決算期で赤字を結果し、金融市場から退場を余儀無くさせられたのである。山一証券の場合とは異なり、北海道拓殖銀行の平成10年3月決算期では、第三区分の1兆4,688億円という巨額の赤字額を第二区分だけでは穴埋めできずに、第一区分からも勘定が下降している。

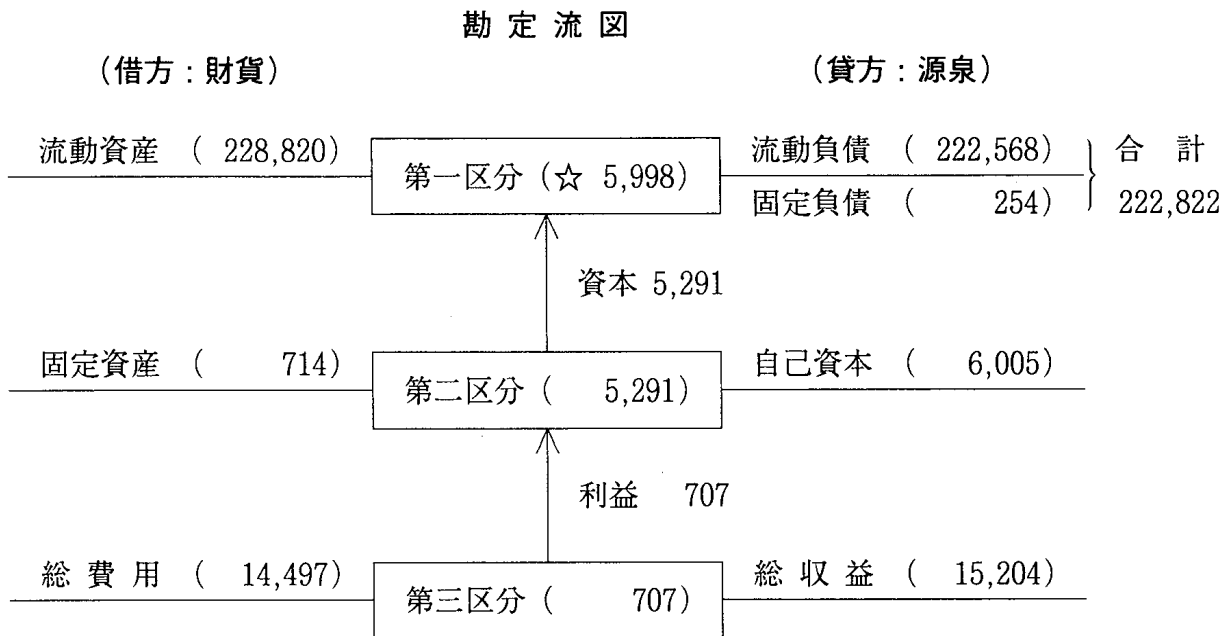
勘定流図の第二区分の借方には903億円の固定資産しか保有されていないのに、第三区分において1兆4,688億円もの巨額の赤字額が計上されている。平成9年3月決算期の収益総額3,769億円に比べると、平成10年3月決算期の総収益額は対前年比で約36%減の2,403億円へと減少したとはいえども、赤字額1兆4,668億円という数字は巨額すぎるとしか表現できないのである。これは、北海道拓殖銀行の長年にわたる経営の過程で自ら抱え込んだ不良債権等を正常債権等として開示していたものと見ざるを得ないのである。それが経営の行き詰まりを機に、不良債権に伴う特別損失として一挙に表面化せざるを得なくなったことを物語っているといえよう。

1 期型勘定流図について (石内)

(5) 日本長期信用銀行の財源状況について

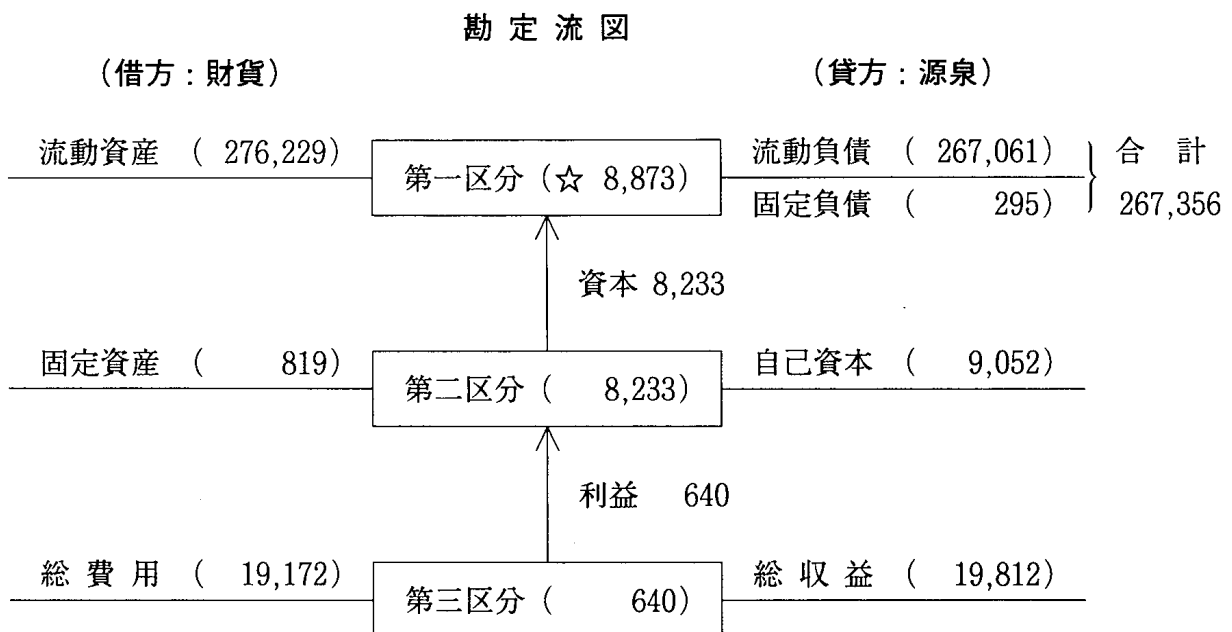
会社名：日本長期信用銀行

決算日：平成元年 3 月 31 日



会社名：日本長期信用銀行

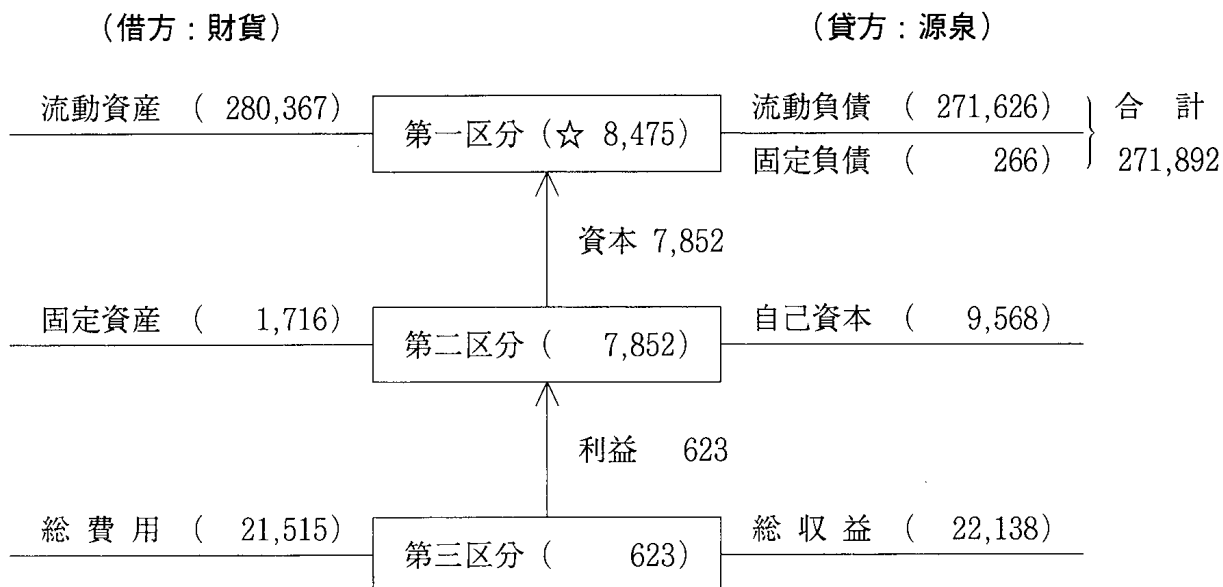
決算日：平成 2 年 3 月 31 日



1 期型勘定流図について（石内）

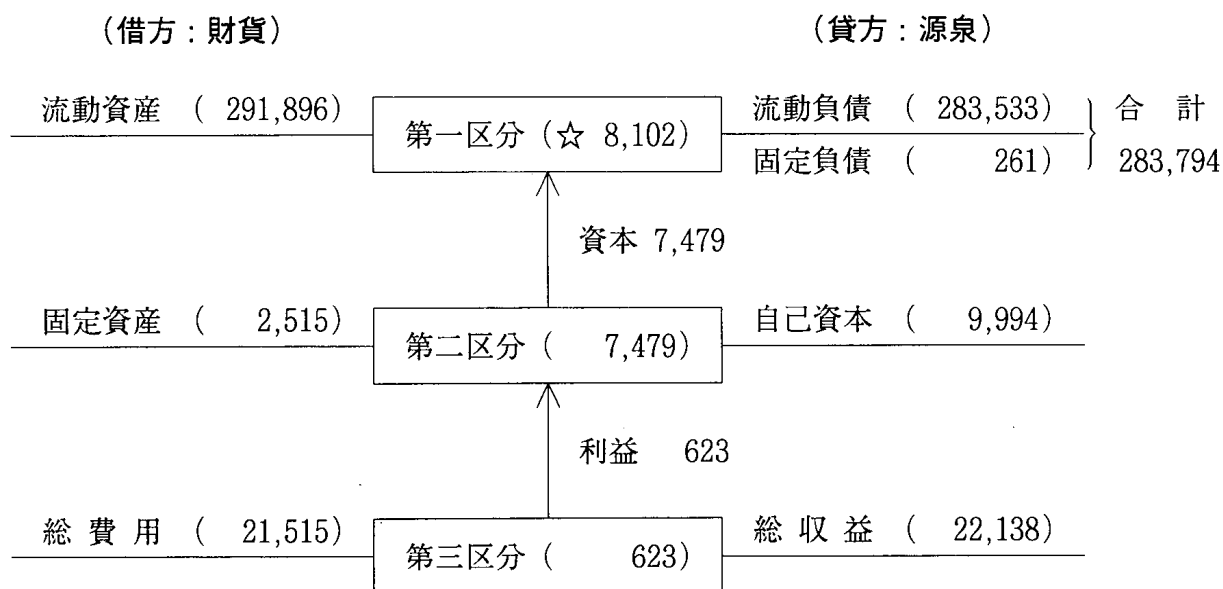
会社名：日本長期信用銀行
 決算日：平成3年3月31日

勘定流図



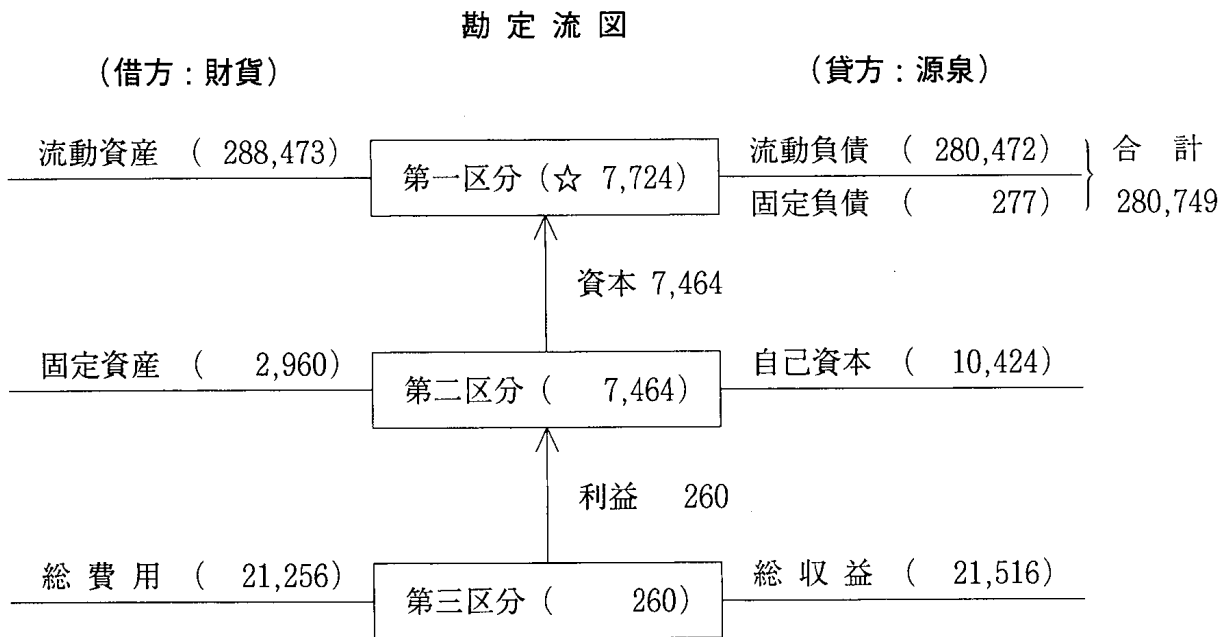
会社名：日本長期信用銀行
 決算日：平成4年3月31日

勘定流図

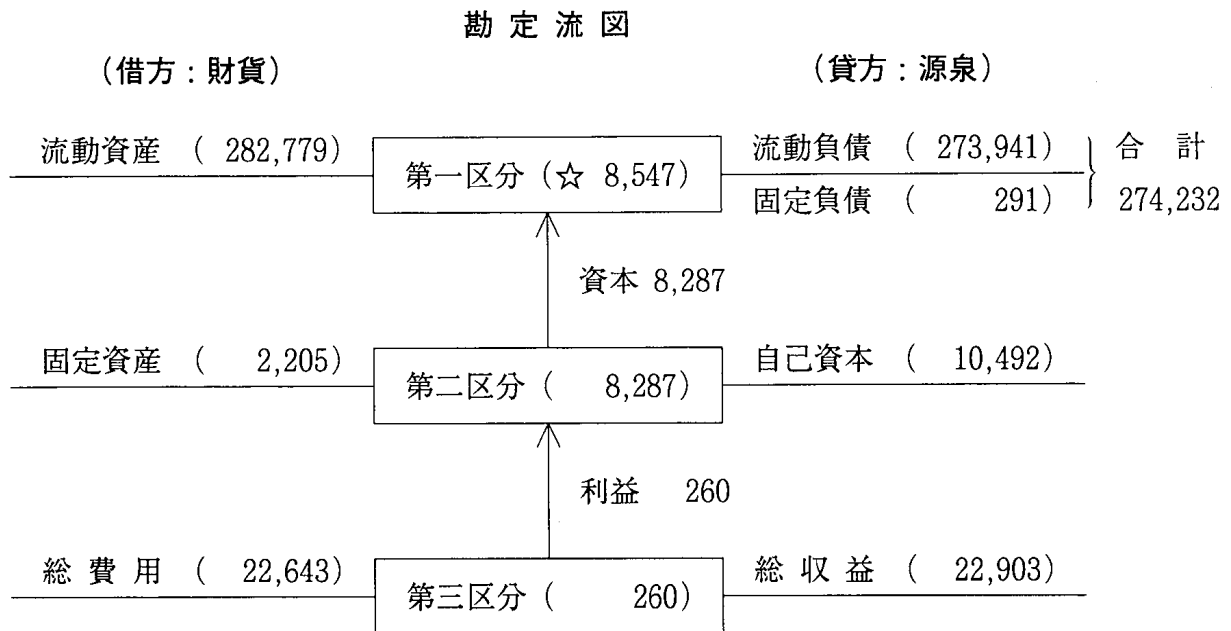


1期型勘定流図について（石内）

会社名：日本長期信用銀行
 決算日：平成5年3月31日



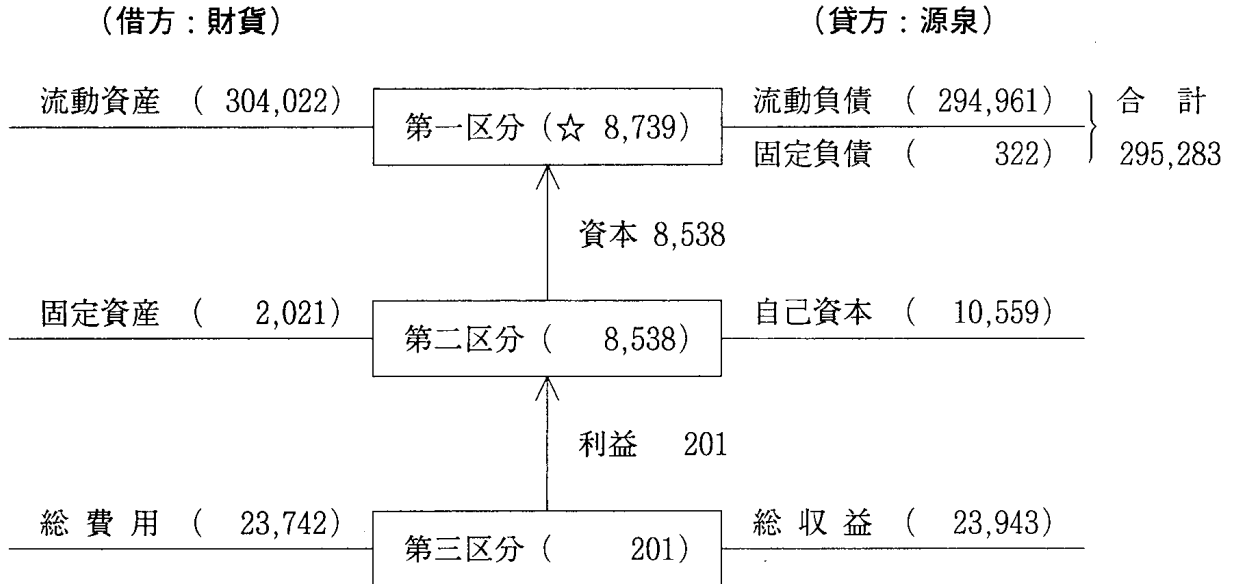
会社名：日本長期信用銀行
 決算日：平成6年3月31日



1 期型勘定流図について（石内）

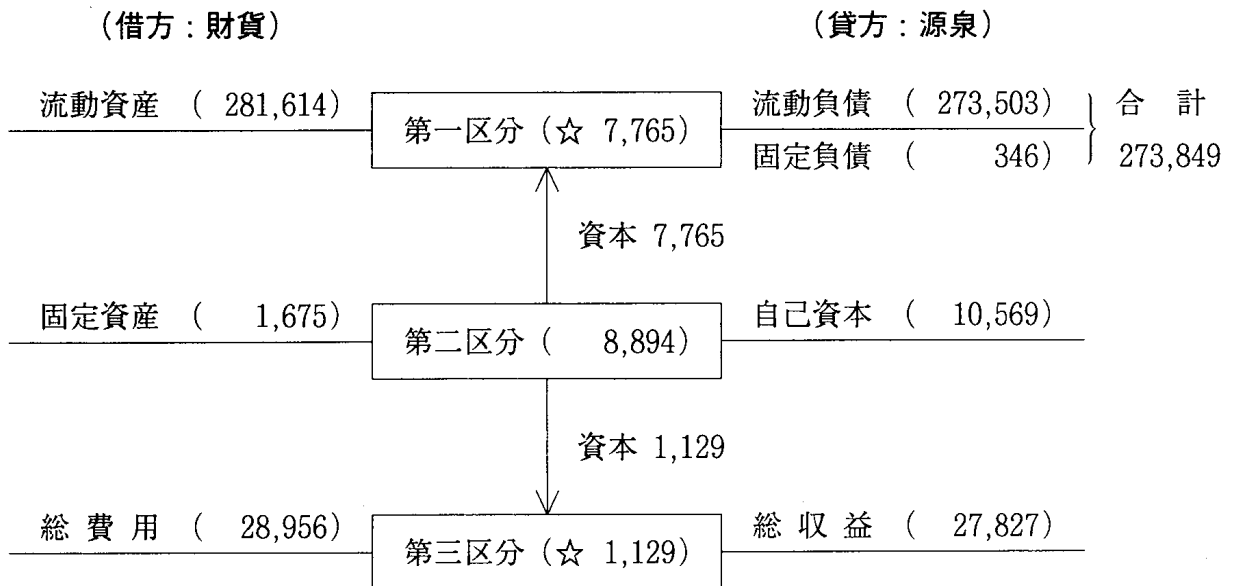
会社名：日本長期信用銀行
 決算日：平成7年3月31日

勘定流図



会社名：日本長期信用銀行
 決算日：平成8年3月31日

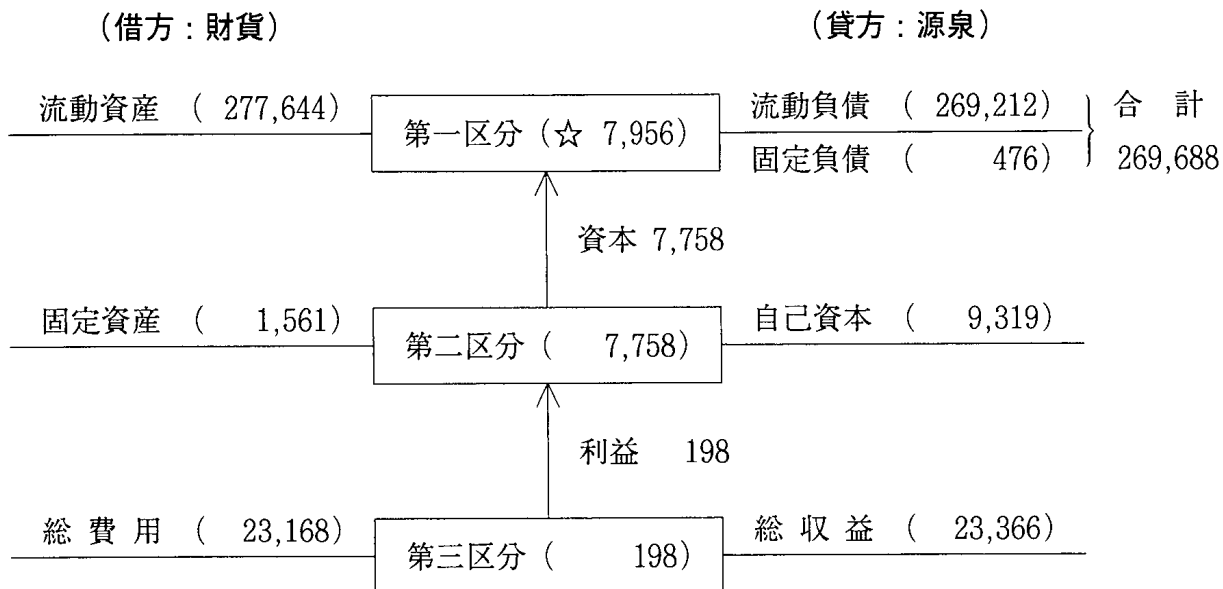
勘定流図



1期型勘定流図について（石内）

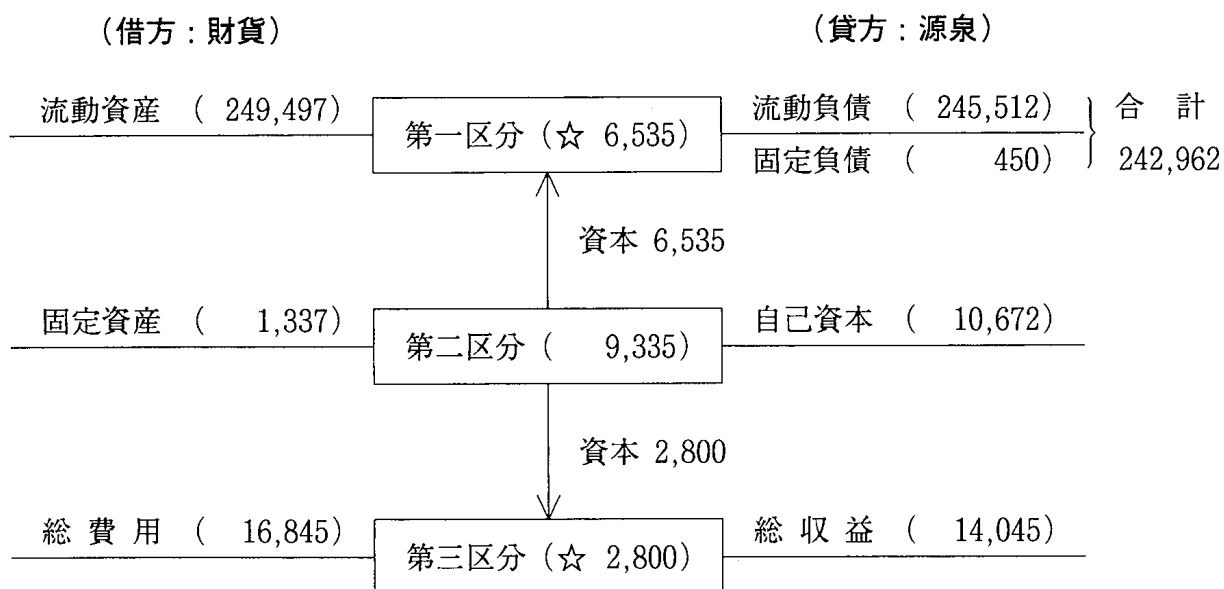
会社名：日本長期信用銀行
 決算日：平成9年3月31日

勘定流図



会社名：日本長期信用銀行
 決算日：平成10年3月31日

勘定流図



日本長期信用銀行の財源状況についてのコメント

日本長期信用銀行（当時）の財務諸表10年間のうち、平成元年3月決算期から平成7年3月決算期に至る7年間の勘定流図は、完全上昇型であり健全な財源状況であると一応総論することができる。また、各論としてもこの間、第一区分の負債流動比率（＝流動資産額÷負債額）は各期とも100%超であり、流動資産額だけですべての負債額を返済できる状況にあるから、健全な財源状況であるといえる。そして、第二区分の固定資本比率（＝損益前の自己資本÷固定資産）もすべて100%超であり、各期とも自己資本額の範囲内に固定資産の取得がおさまっているため、健全な投資状況であるといえる。さらに、第三区分の費用収益比率（＝収益額÷費用額）も100%超であり、各期の収益総額が費用総額を超過しているため、黒字経営の健全な損益状況であったといえるのである。

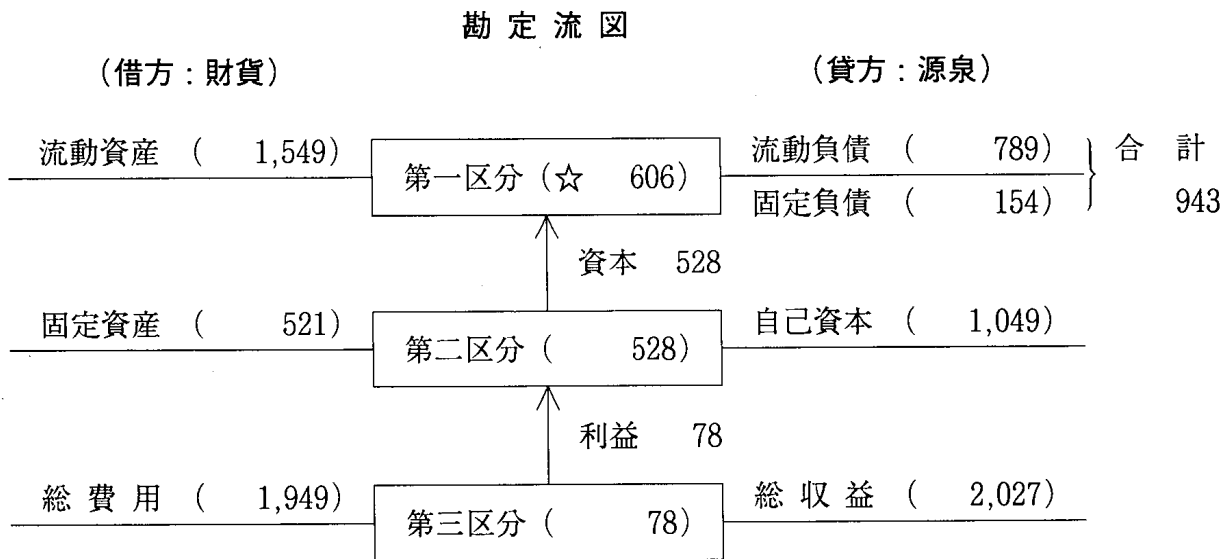
ところが、その日本長期信用銀行もさきの北海道拓殖銀行と同様に、平成8年3月決算期および平成10年3月決算期で赤字を結果し、経営が破綻したのである。ただし、北海道拓殖銀行の場合と異なり日本長期信用銀行の場合は、勘定流図で分析する限りでは第一区分から第二区分および第三区分への下降は生じていない。第二区分から第三区分の赤字をカバーするために下降しているのである。つまり、勘定流図で見ると、日本長期信用銀行は平成8年3月決算期および平成10年3月決算期で合計3,929億円の赤字を計上したが、この額ならば自己資本を減資すればその後も経営を存続できたはずである。それにも拘らず日本長期信用銀行の経営が破綻したということは、第一区分の借方に保有されていた流動資産の中の営業債権の不良債権化および有価証券価値の下落（含み損）が深刻な次元で発生していたと見ざるを得ないのである。資金の貸付・回収といった金融を本業とする銀行が、認識できなかった不良債権や含み損の発生している諸資産を、あたかも正常な資産であるかのごとく財務諸表に開示していたと疑わざるを得ないのである。

4. 黒字企業五社の財源状況について

(6) シチズンの財源状況について

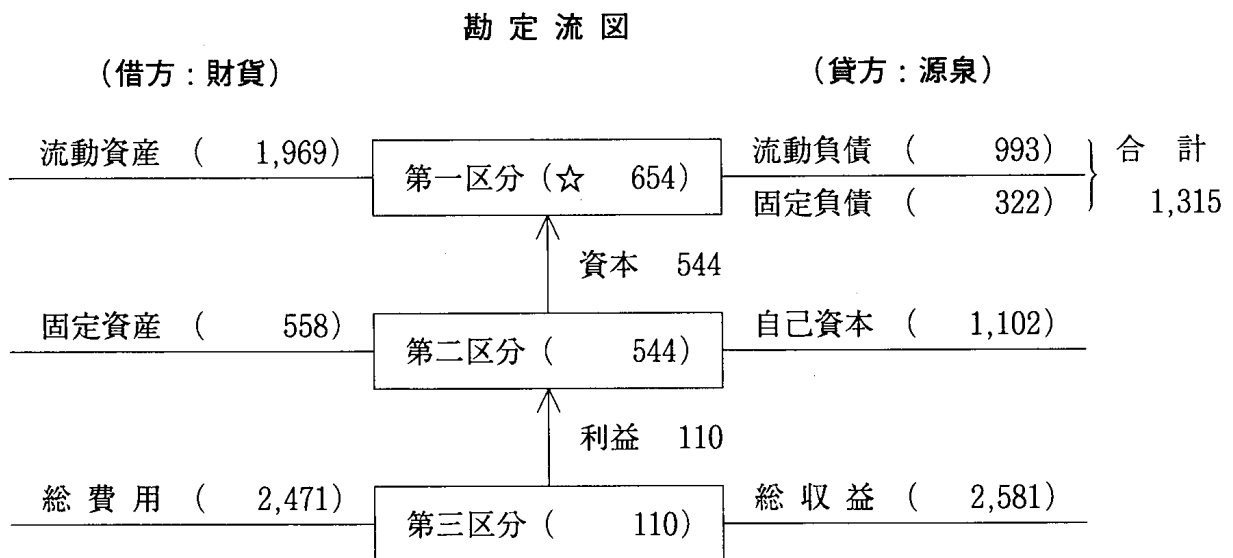
会社名：シチズン

決算日：平成2年3月31日



会社名：シチズン

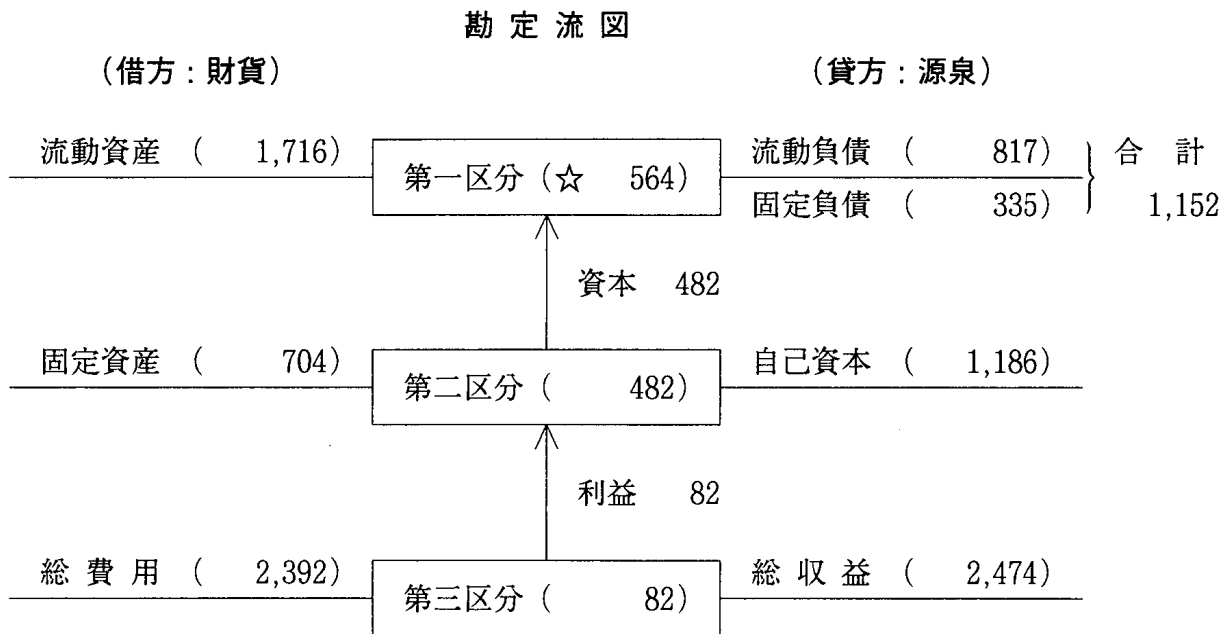
決算日：平成3年3月31日



1期型勘定流図について（石内）

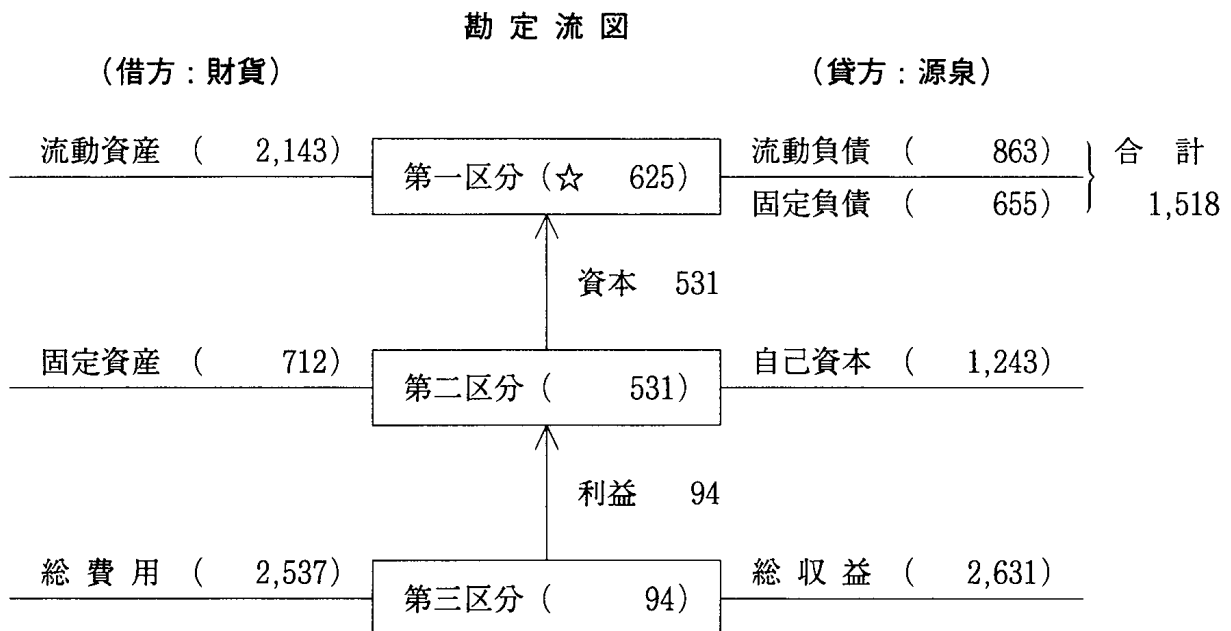
会社名：シチズン

決算日：平成4年3月31日



会社名：シチズン

決算日：平成5年3月31日



1 期型勘定流図について (石内)

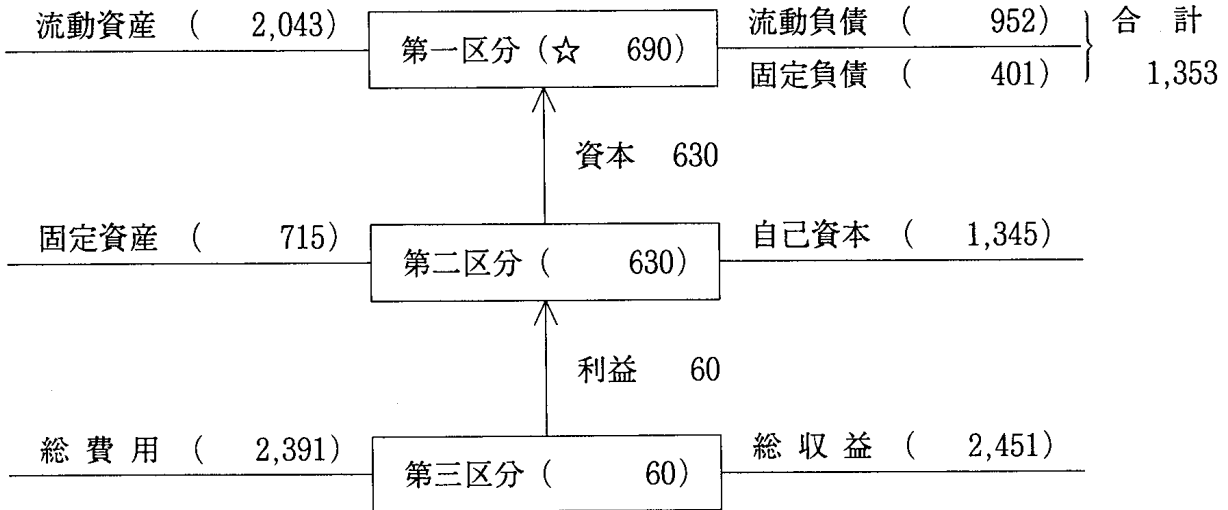
会社名：シチズン

決算日：平成6年3月31日

勘定流図

(借方：財貨)

(貸方：源泉)



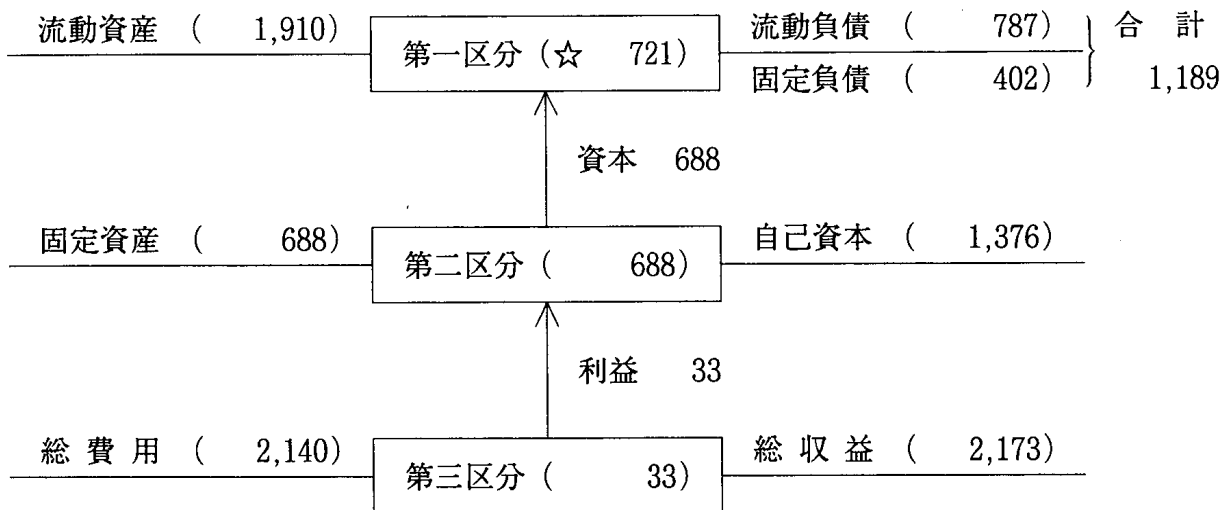
会社名：シチズン

決算日：平成7年3月31日

勘定流図

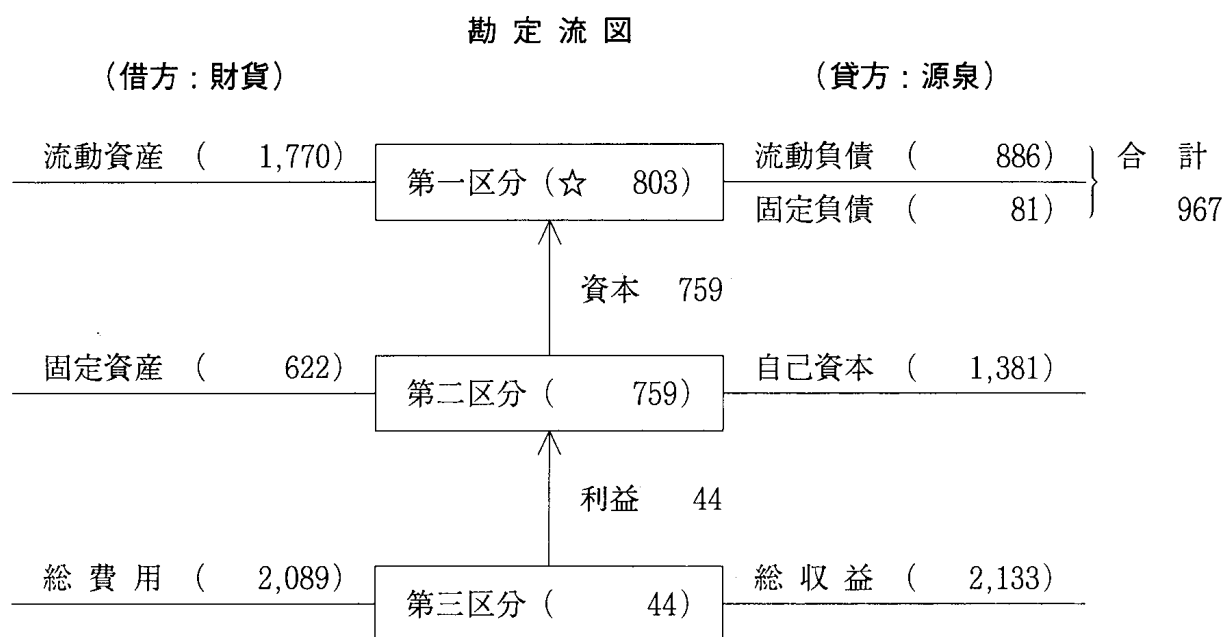
(借方：財貨)

(貸方：源泉)

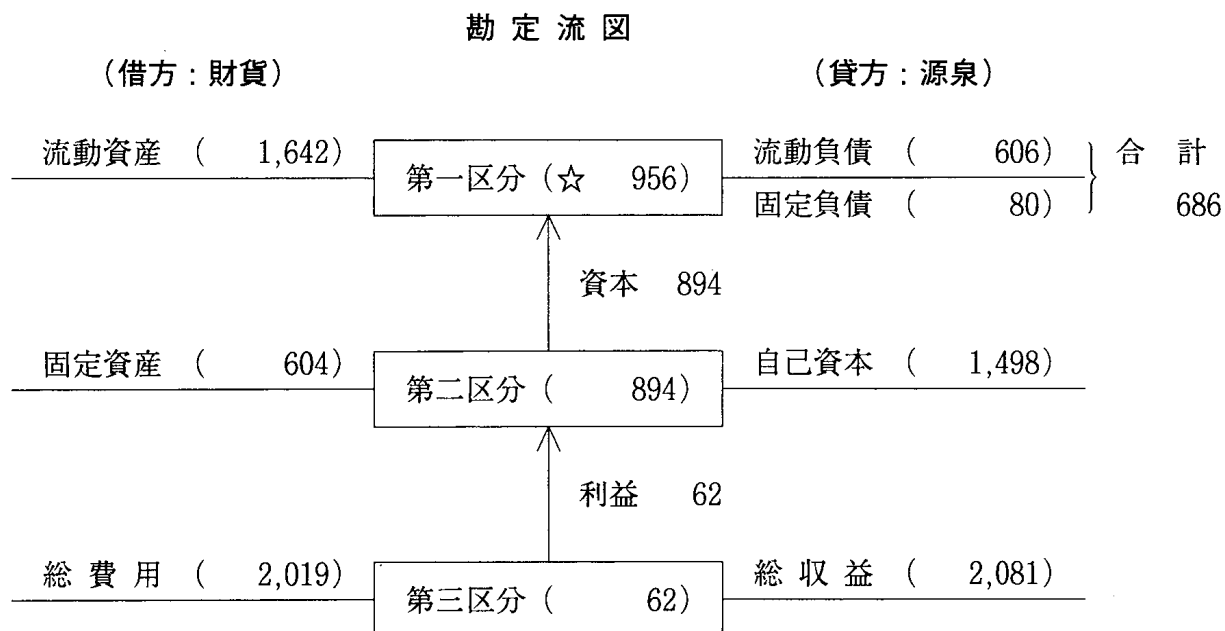


1期型勘定流図について（石内）

会社名：シチズン
 決算日：平成8年3月31日



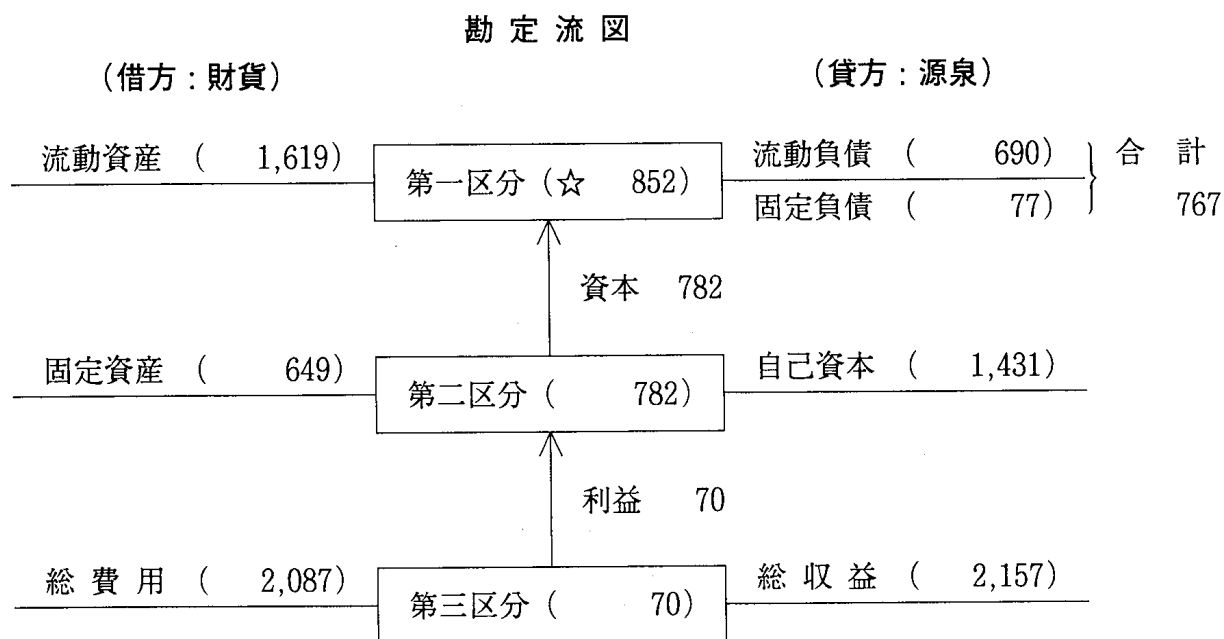
会社名：シチズン
 決算日：平成9年3月31日



1 期型勘定流図について (石内)

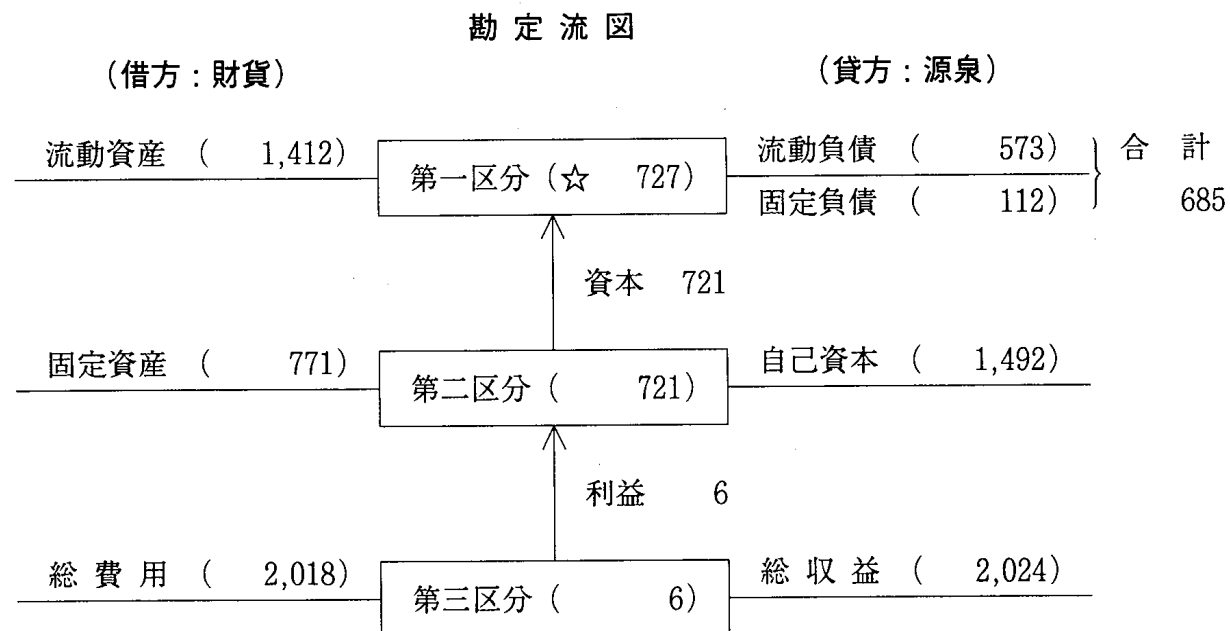
会社名：シチズン

決算日：平成10年3月31日



会社名：シチズン

決算日：平成11年3月31日

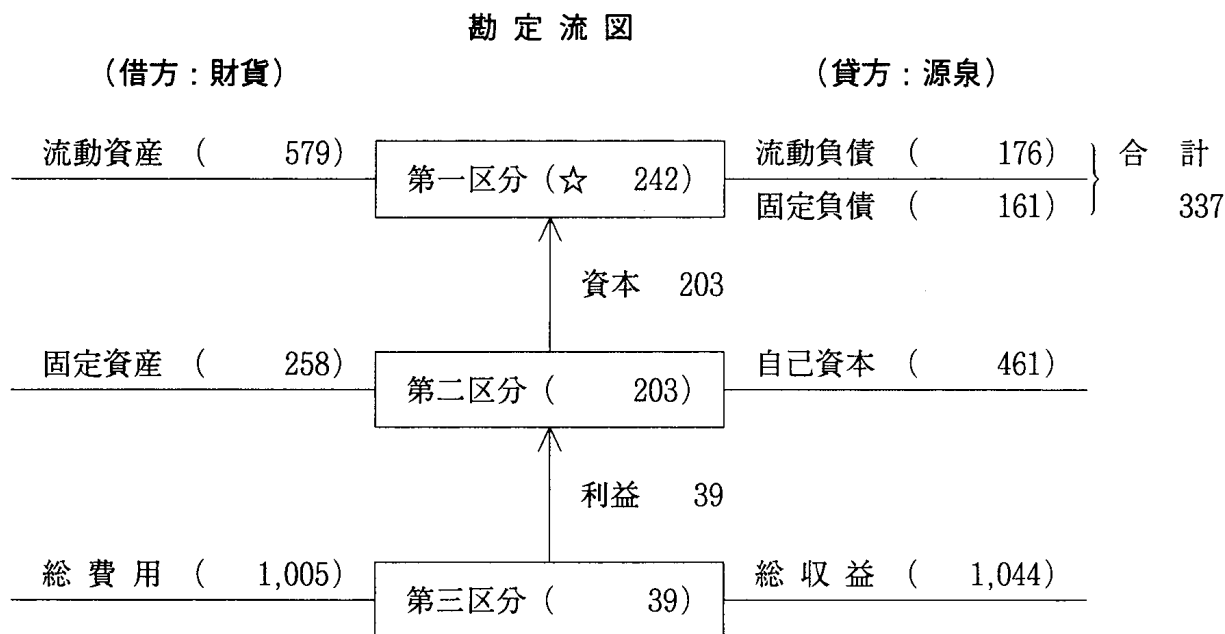


1期型勘定流図について（石内）

(7) リンナイの財源状況について

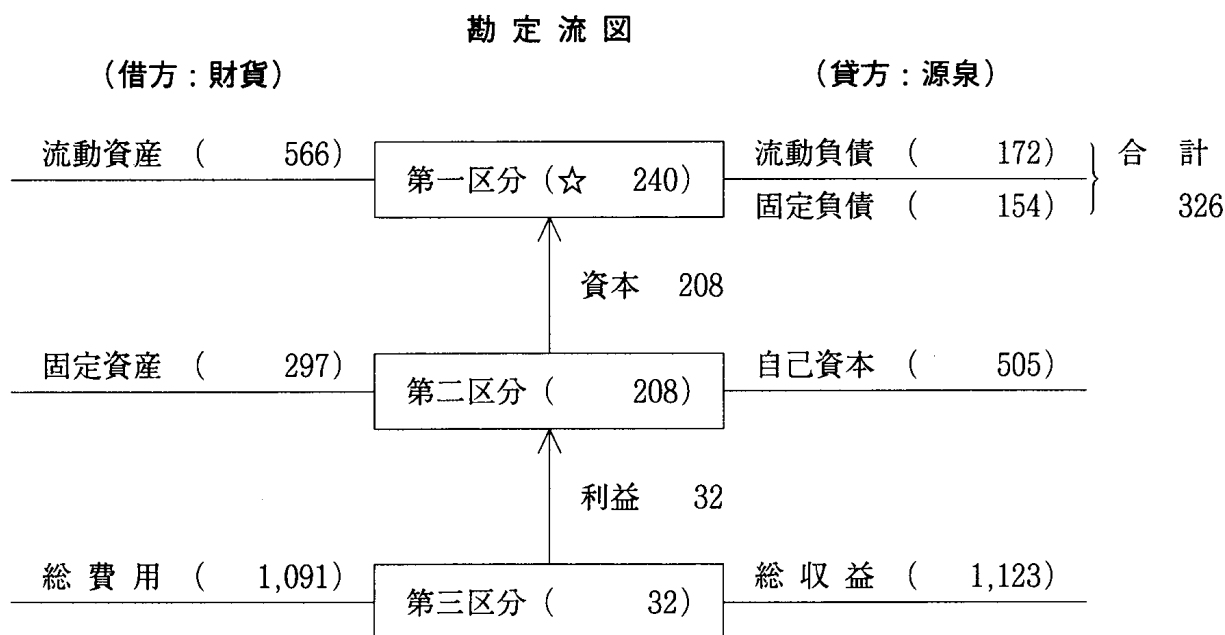
会社名：リンナイ

決算日：平成2年3月31日



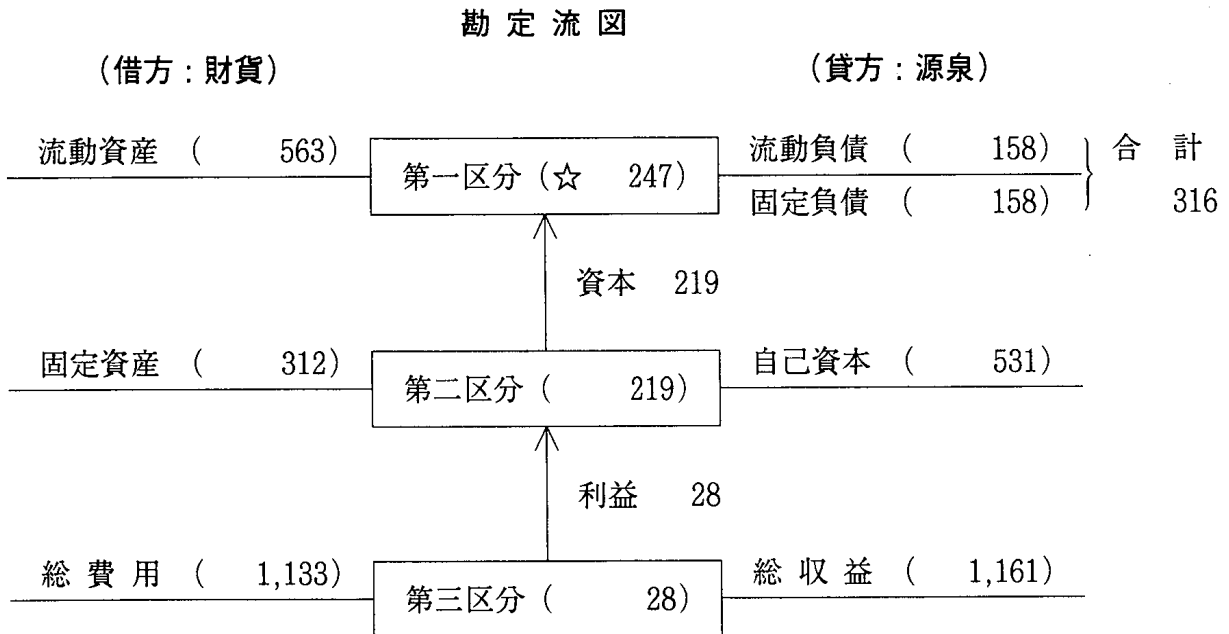
会社名：リンナイ

決算日：平成3年3月31日

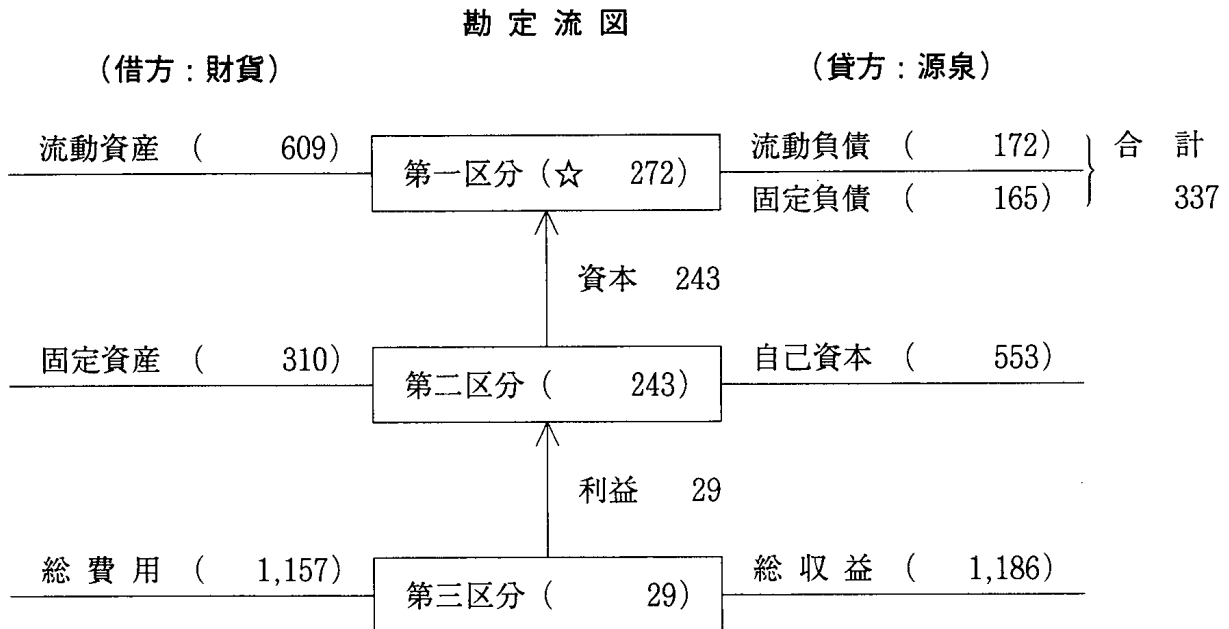


1期型勘定流図について（石内）

会社名：リンナイ
 決算日：平成4年3月31日



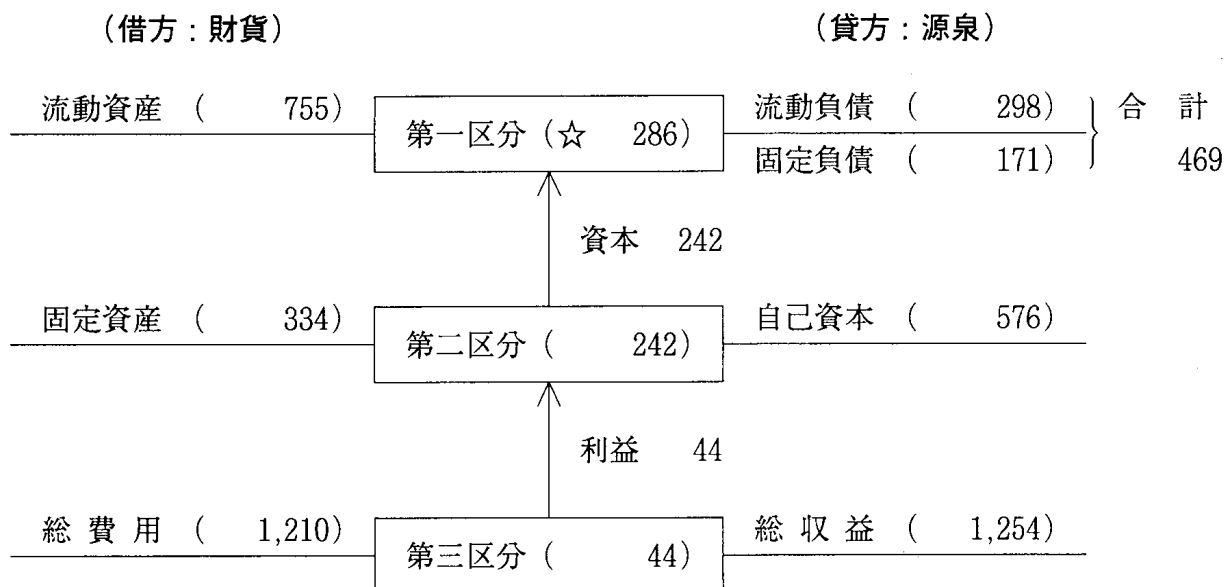
会社名：リンナイ
 決算日：平成5年3月31日



1 期型勘定流図について (石内)

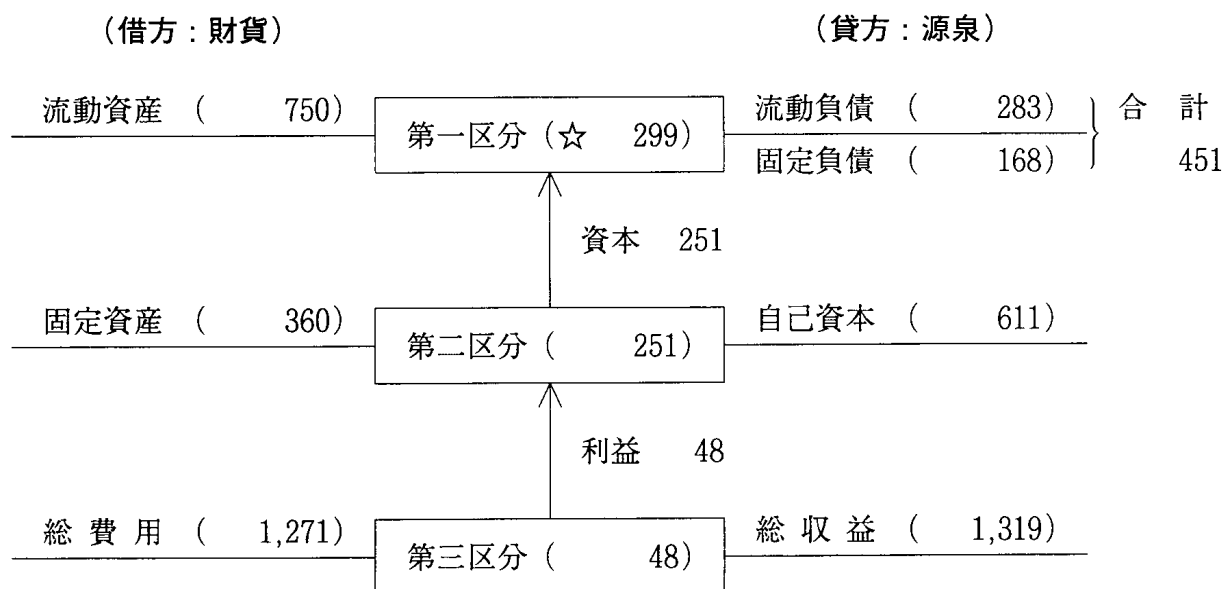
会社名：リンナイ
 決算日：平成6年3月31日

勘定流図



会社名：リンナイ
 決算日：平成7年3月31日

勘定流図

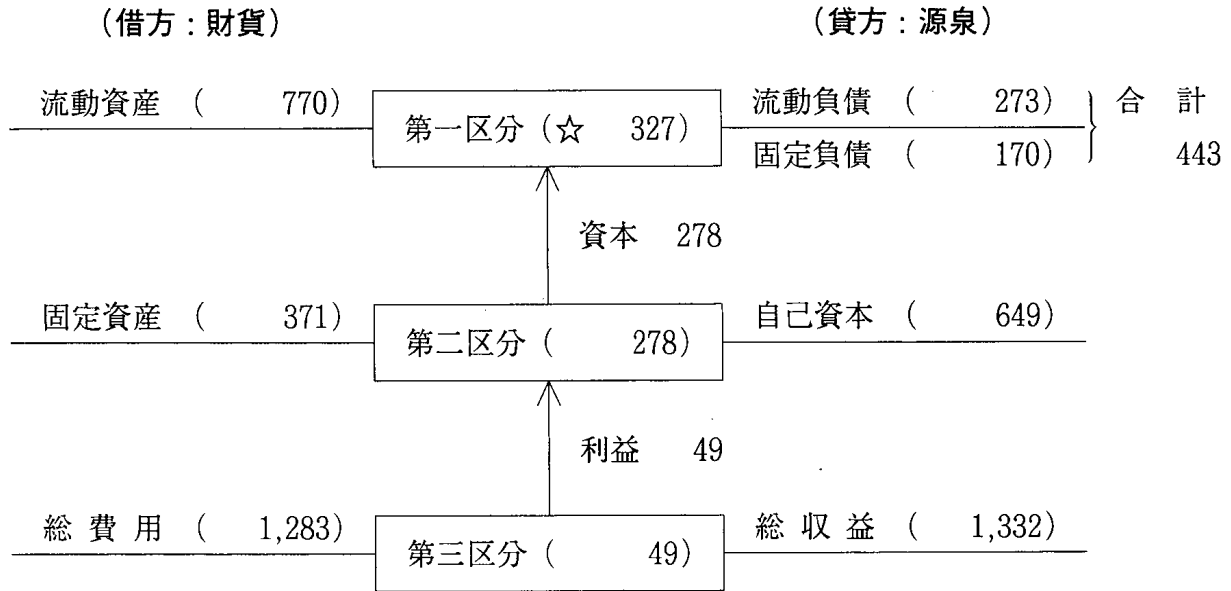


1期型勘定流図について（石内）

会社名：リンナイ

決算日：平成8年3月31日

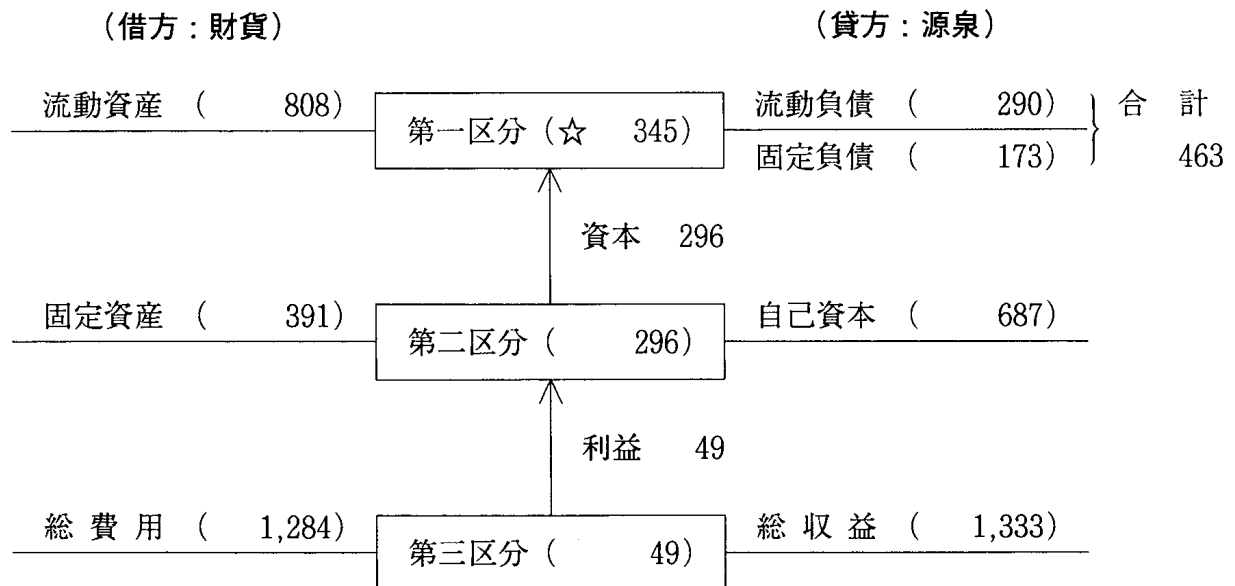
勘定流図



会社名：リンナイ

決算日：平成9年3月31日

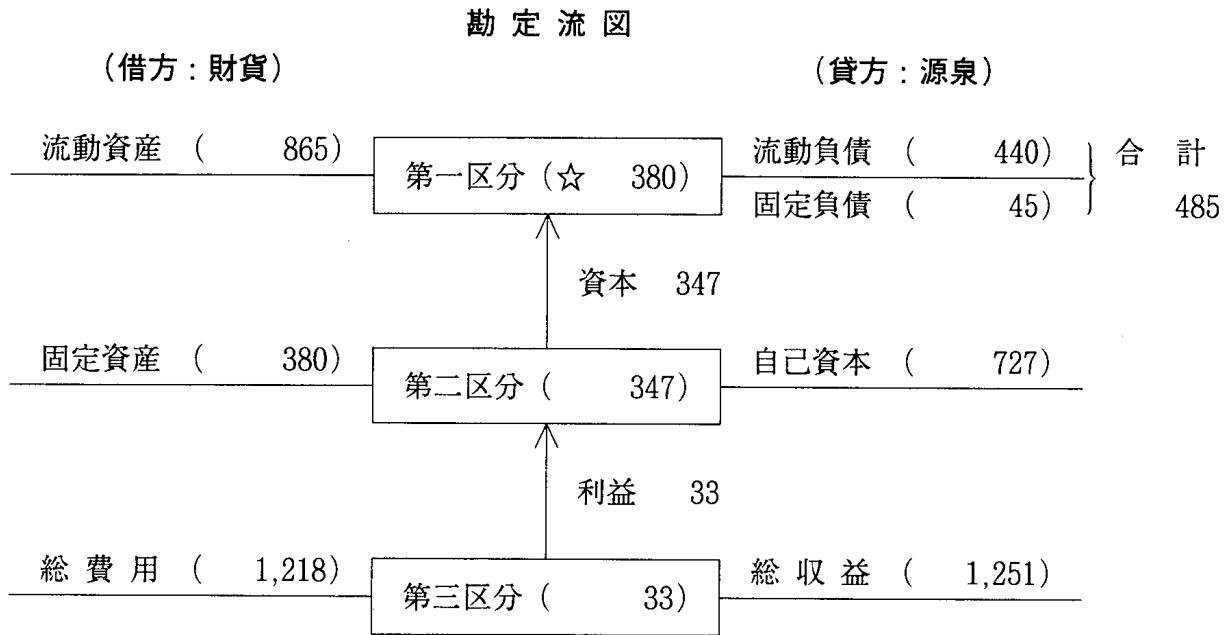
勘定流図



1 期型勘定流図について (石内)

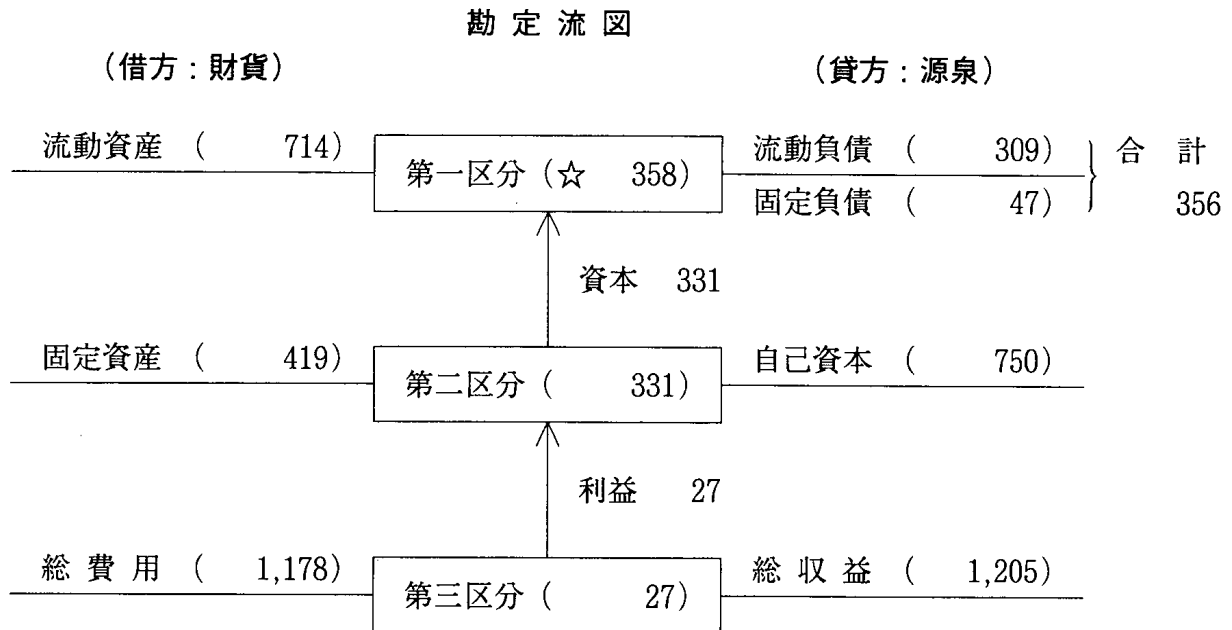
会社名：リンナイ

決算日：平成10年3月31日



会社名：リンナイ

決算日：平成11年3月31日

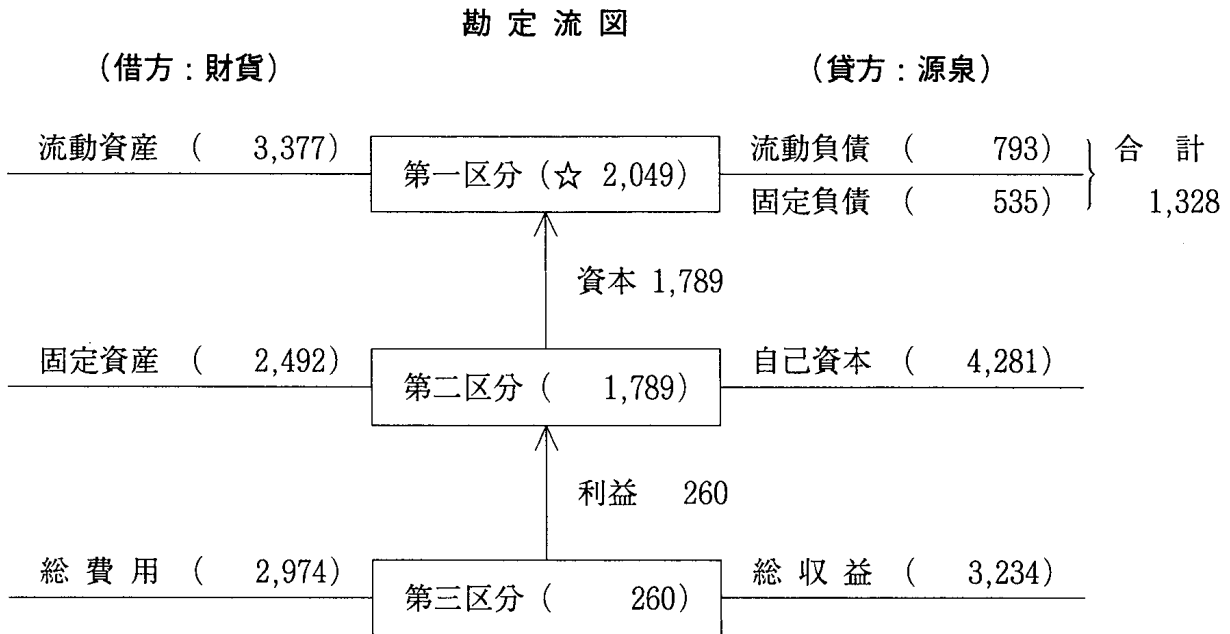


1 期型勘定流図について (石内)

(8) 京セラの財源状況について

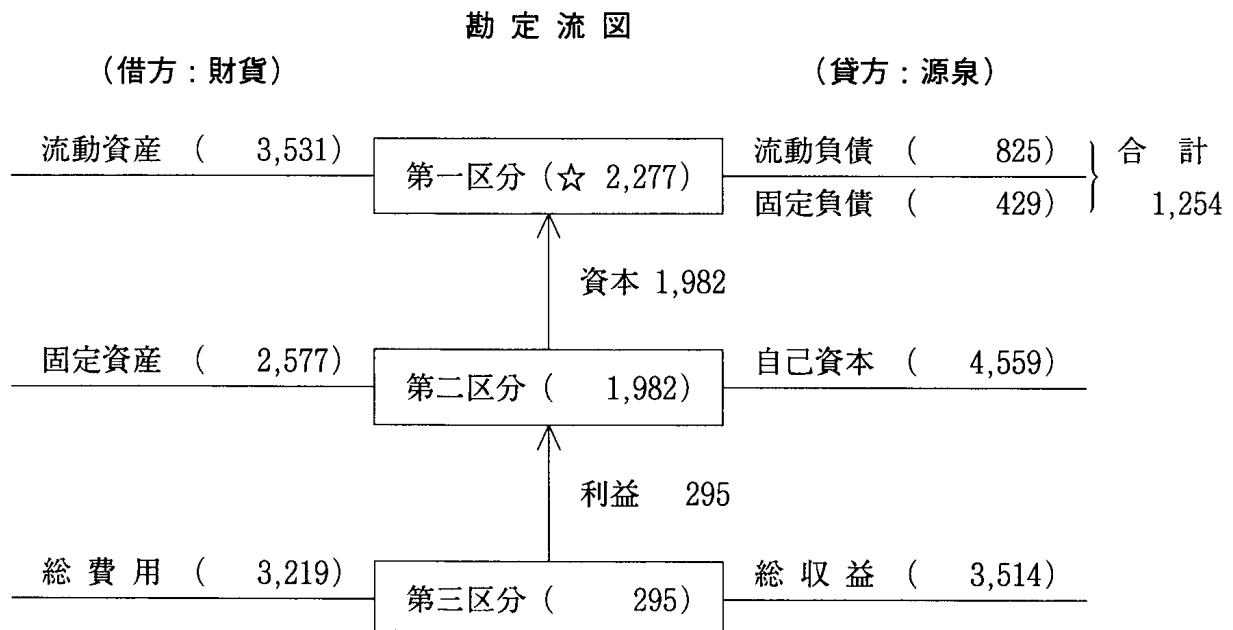
会社名：京セラ

決算日：平成2年3月31日



会社名：京セラ

決算日：平成3年3月31日

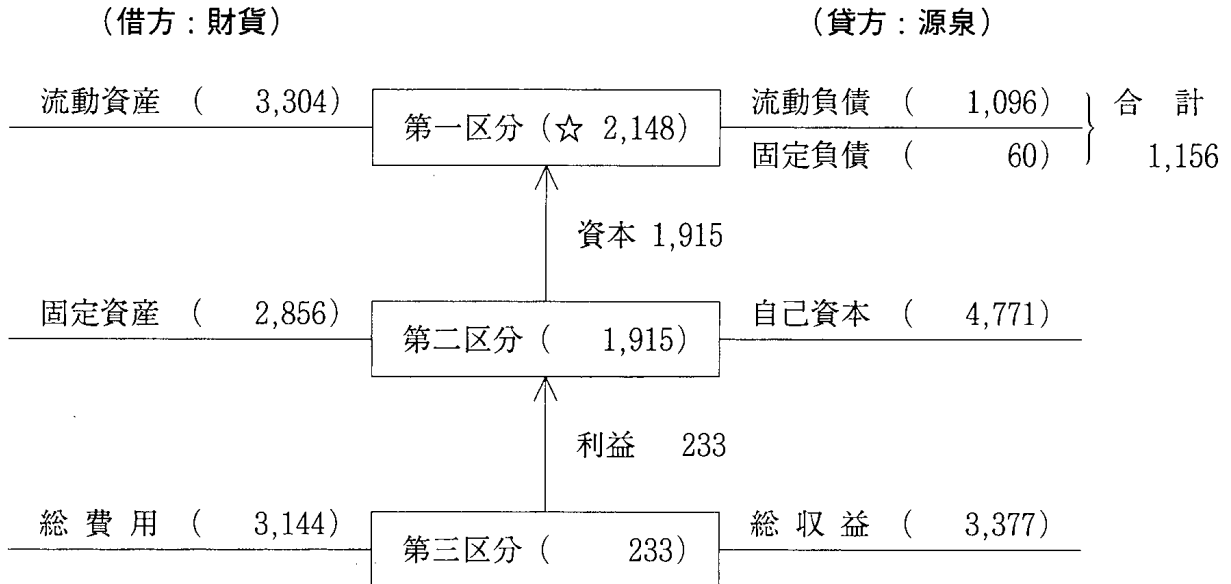


1 期型勘定流図について (石内)

会社名：京セラ

決算日：平成4年3月31日

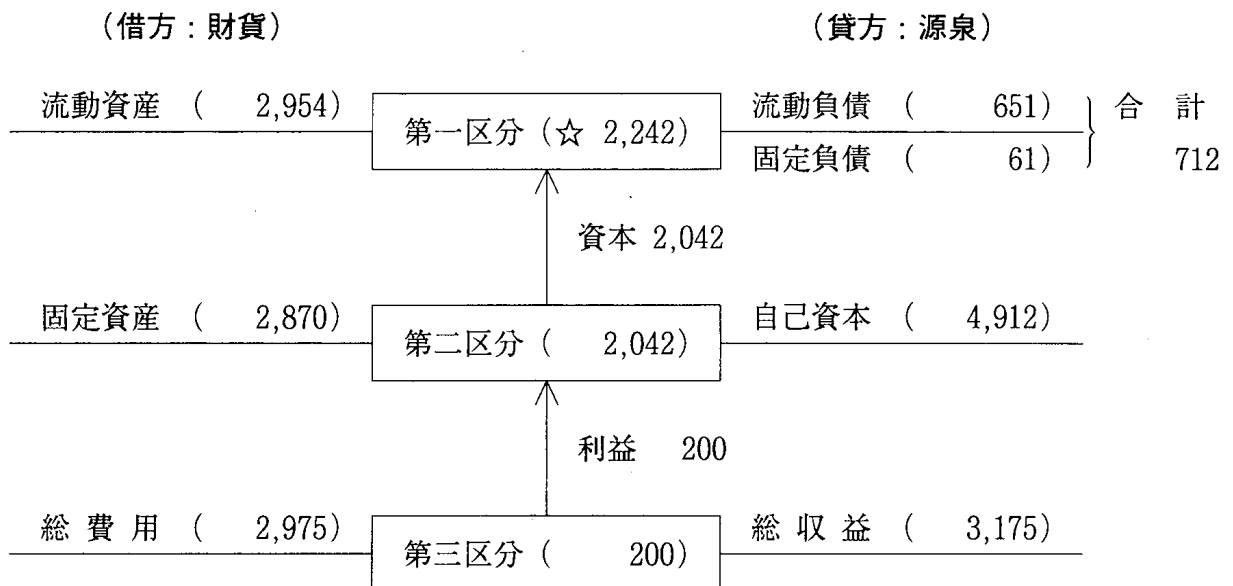
勘定流図



会社名：京セラ

決算日：平成5年3月31日

勘定流図



1期型勘定流図について（石内）

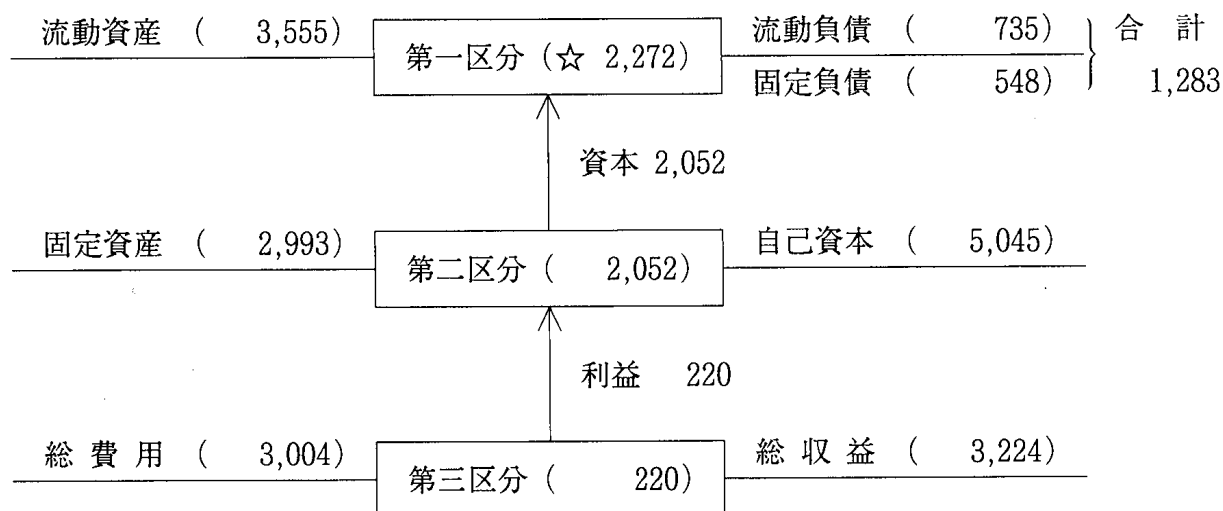
会社名：京セラ

決算日：平成6年3月31日

勘定流図

（借方：財貨）

（貸方：源泉）



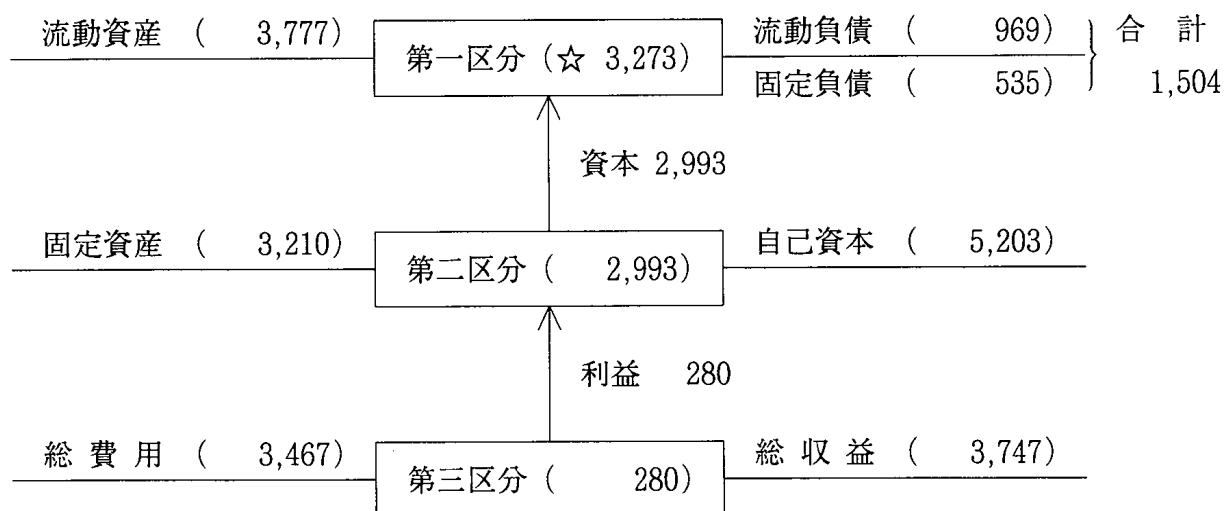
会社名：京セラ

決算日：平成7年3月31日

勘定流図

（借方：財貨）

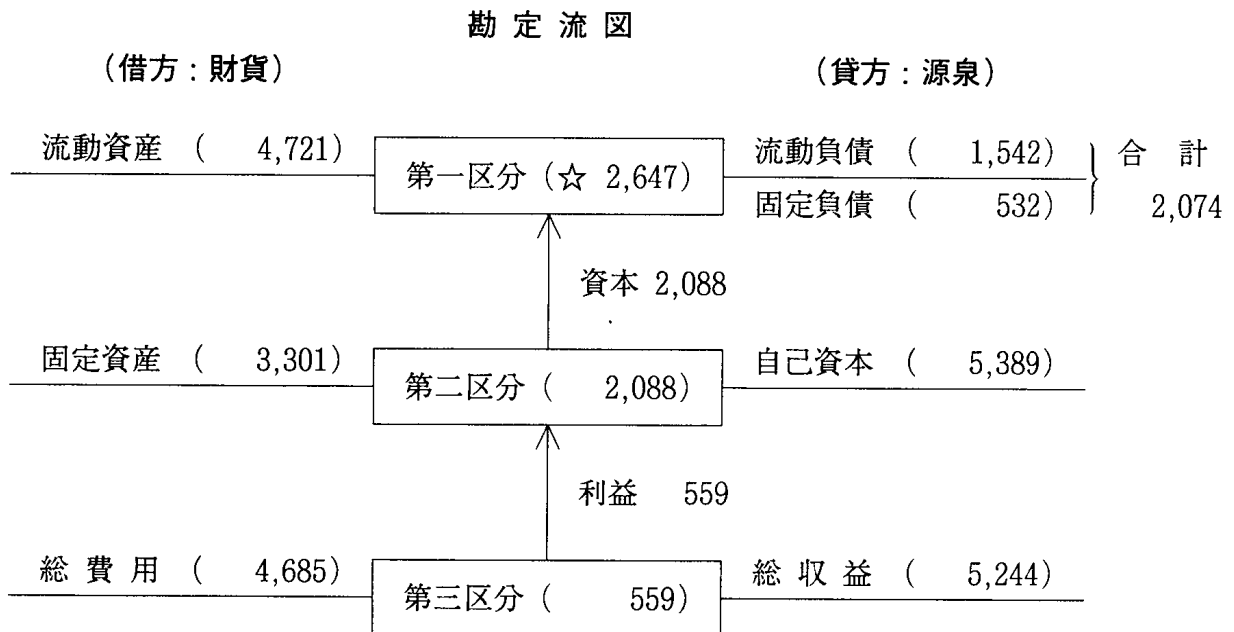
（貸方：源泉）



1期型勘定流図について（石内）

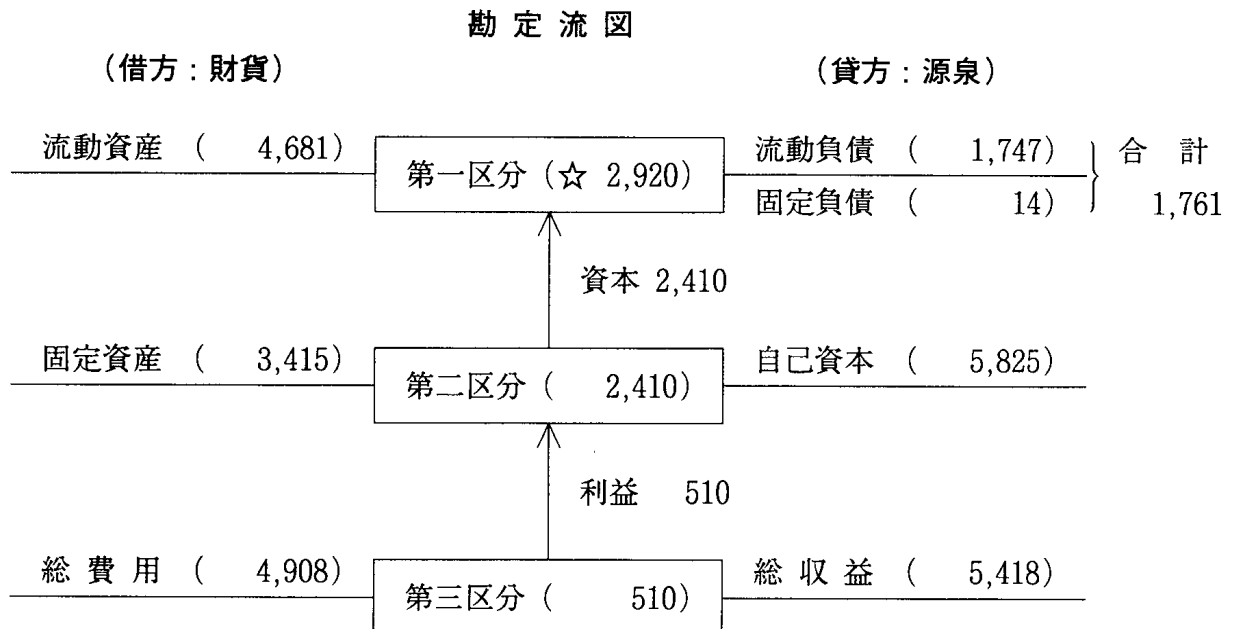
会社名：京セラ

決算日：平成8年3月31日



会社名：京セラ

決算日：平成9年3月31日

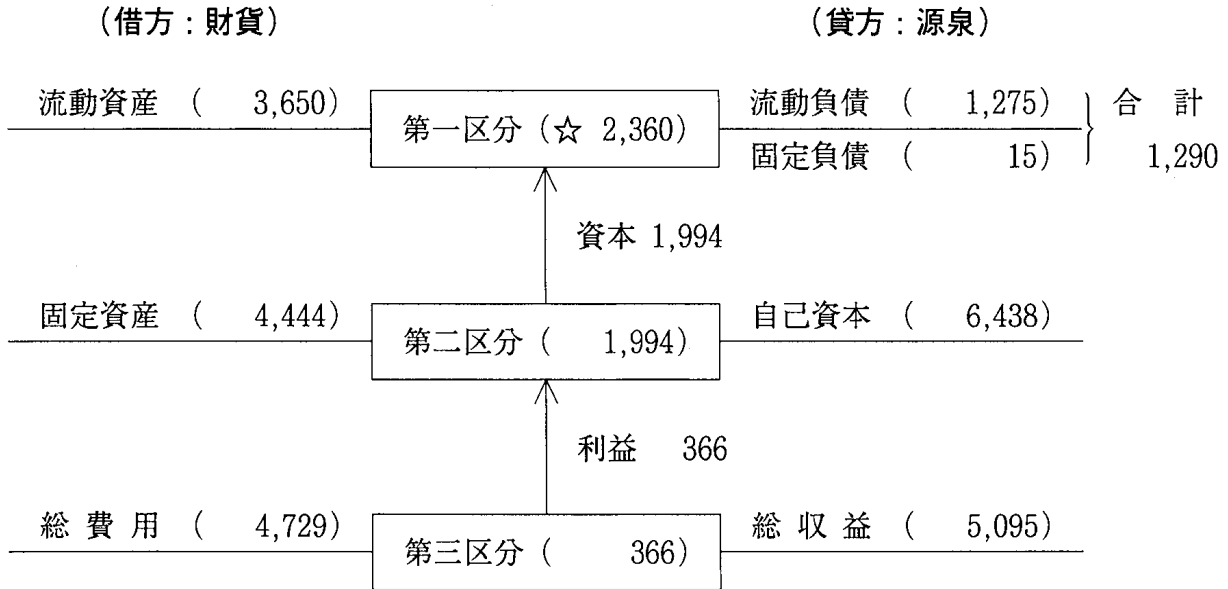


1 期型勘定流図について (石内)

会社名：京セラ

決算日：平成10年3月31日

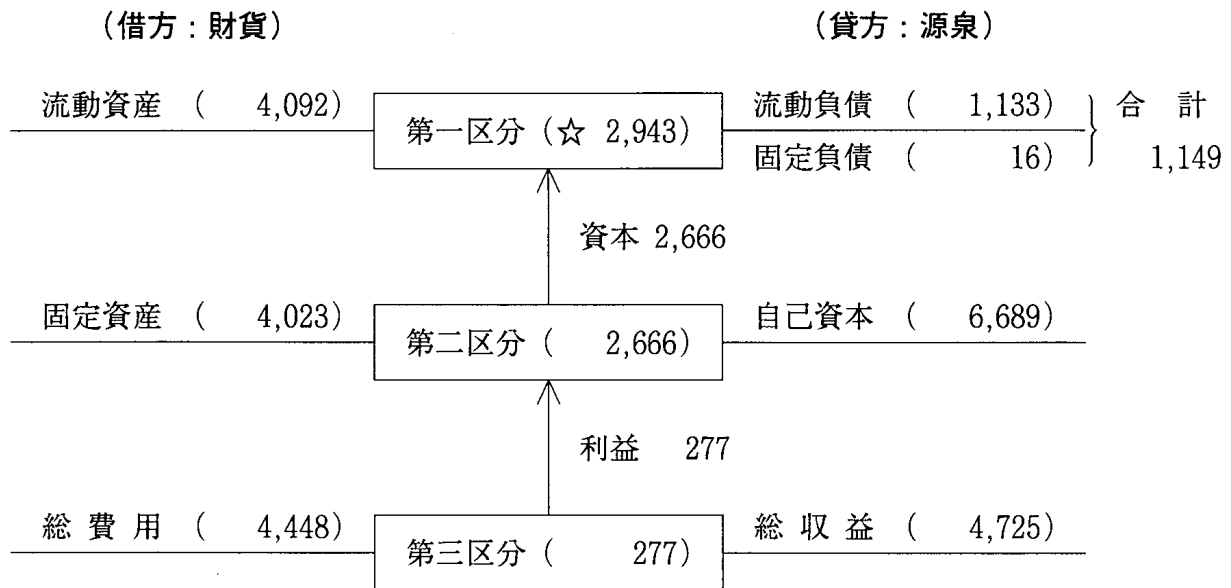
勘定流図



会社名：京セラ

決算日：平成11年3月31日

勘定流図

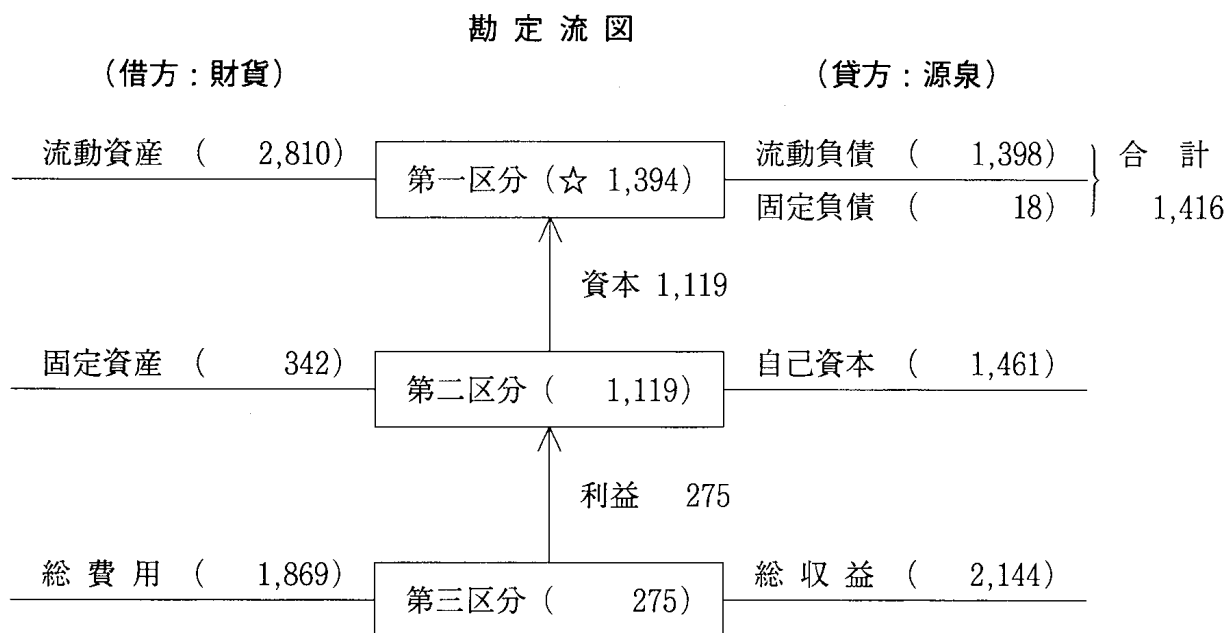


1 期型勘定流図について (石内)

(9) 任天堂の財源状況について

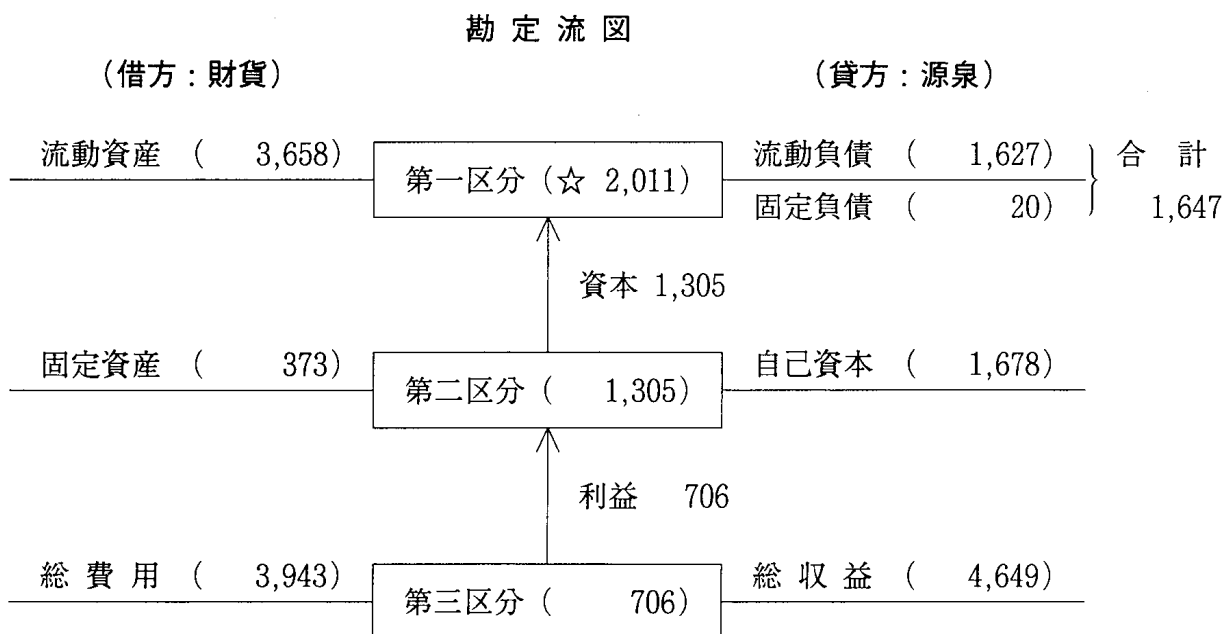
会社名：任天堂

決算日：平成2年3月31日



会社名：任天堂

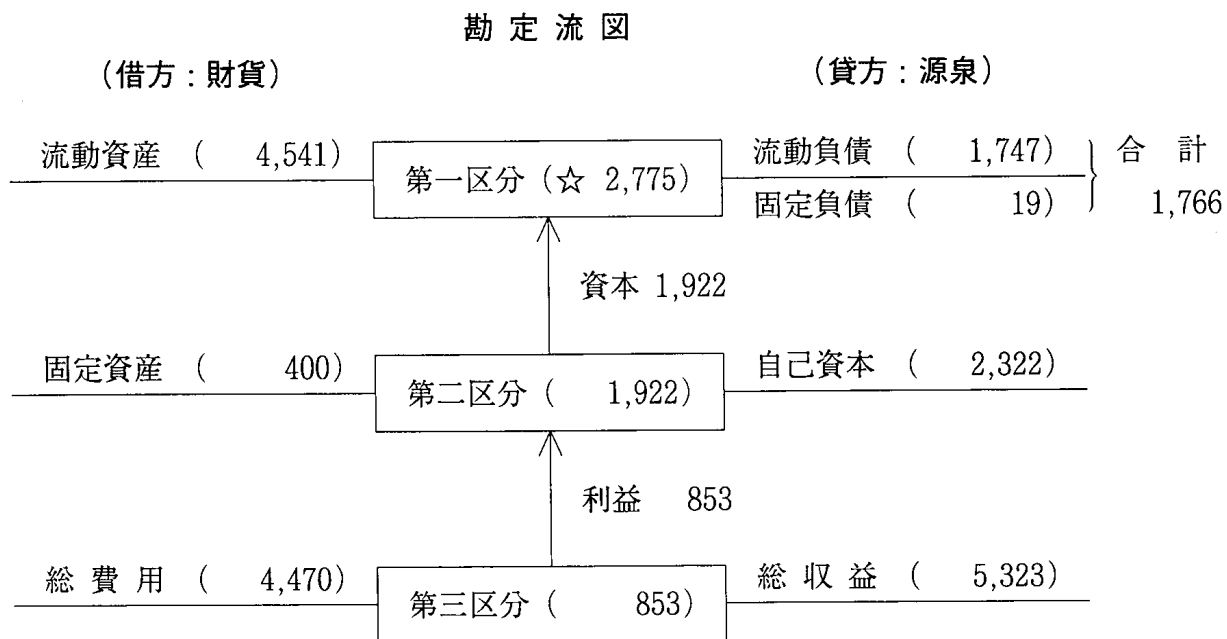
決算日：平成3年3月31日



1期型勘定流図について（石内）

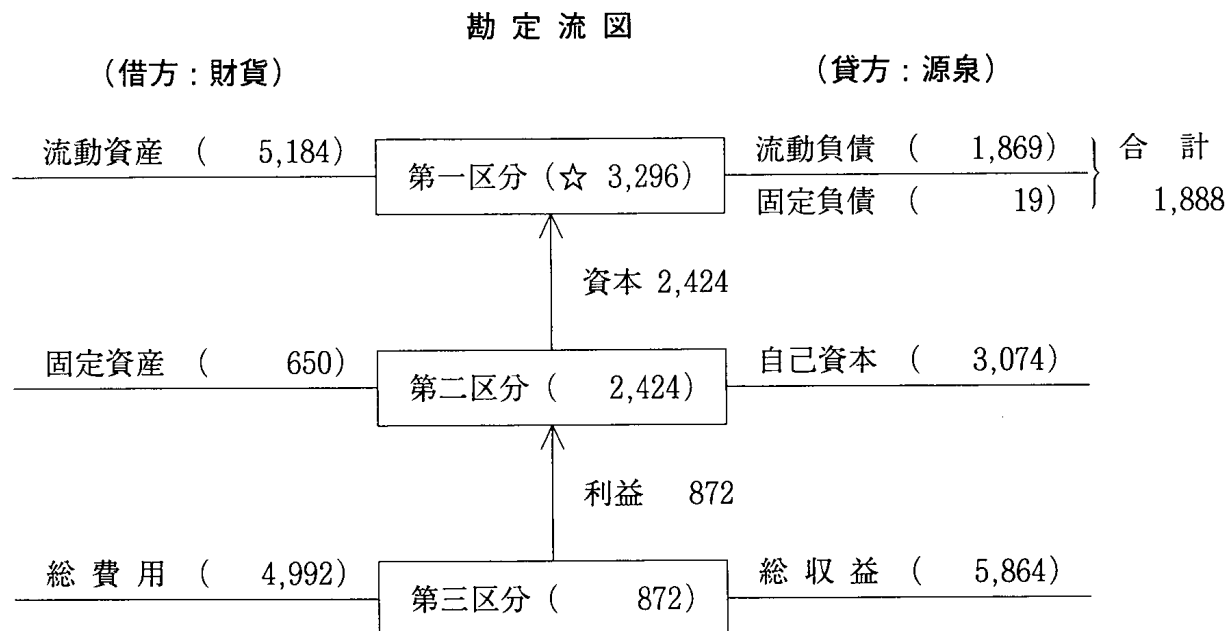
会社名：任天堂

決算日：平成4年3月31日



会社名：任天堂

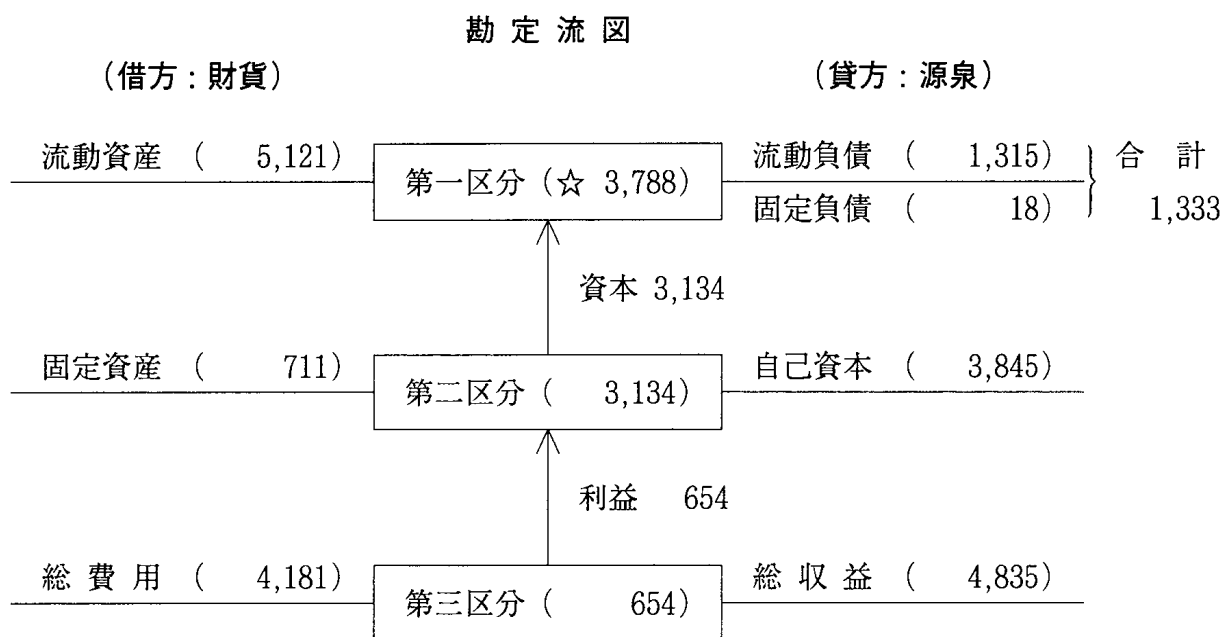
決算日：平成5年3月31日



1 期型勘定流図について (石内)

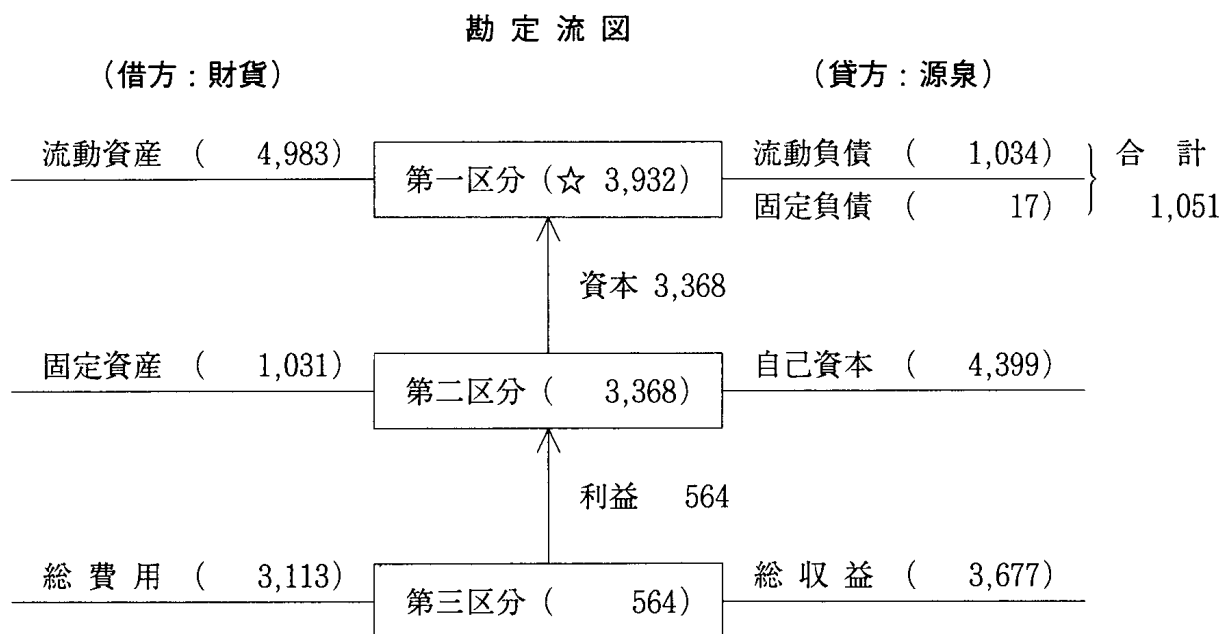
会社名：任天堂

決算日：平成6年3月31日



会社名：任天堂

決算日：平成7年3月31日

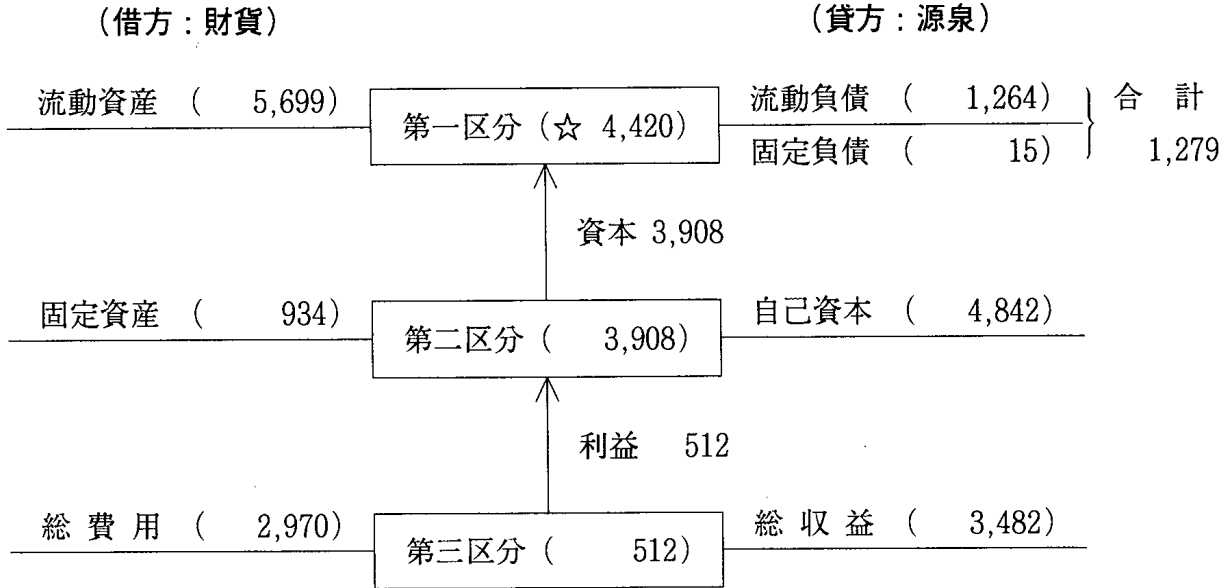


1 期型勘定流図について (石内)

会社名：任天堂

決算日：平成8年3月31日

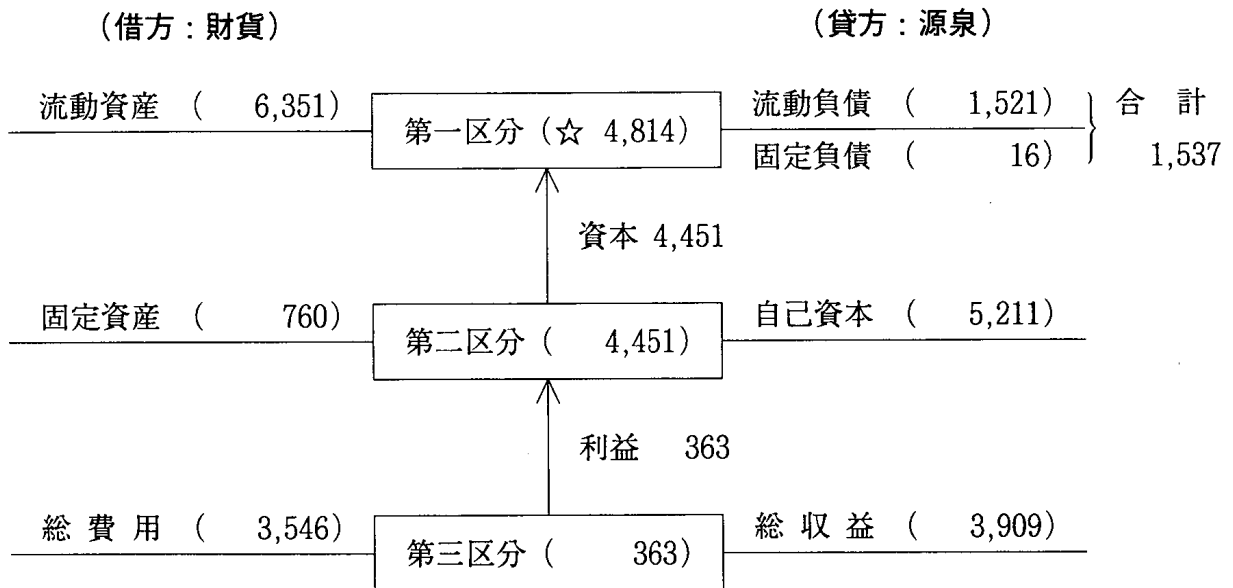
勘定流図



会社名：任天堂

決算日：平成9年3月31日

勘定流図

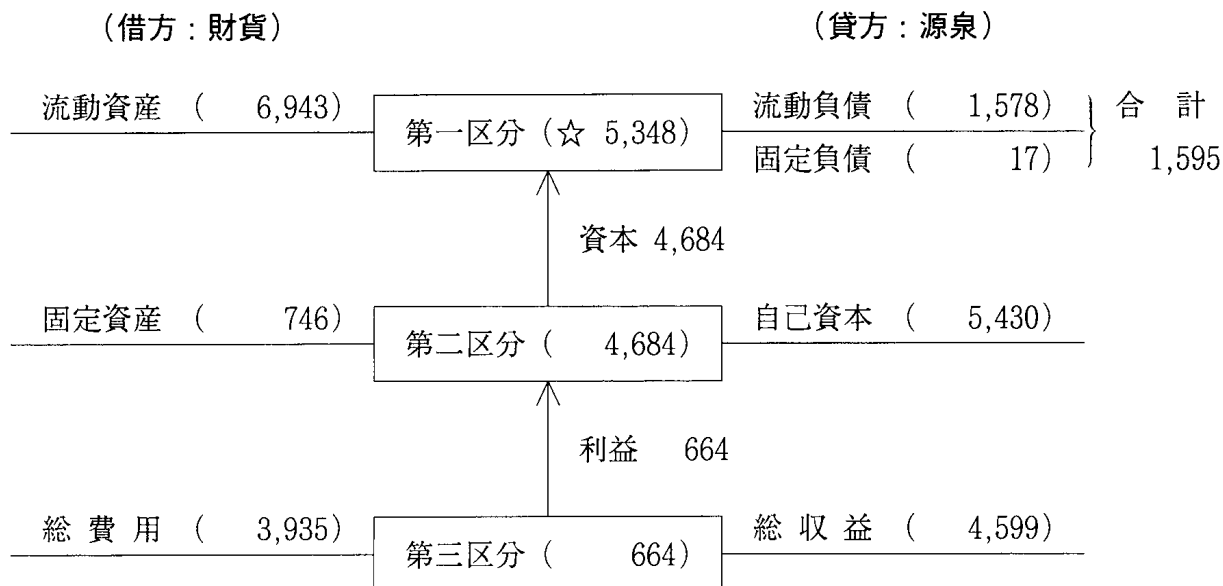


1 期型勘定流図について (石内)

会 社 名 : 任天堂

決 算 日 : 平成10年 3 月31日

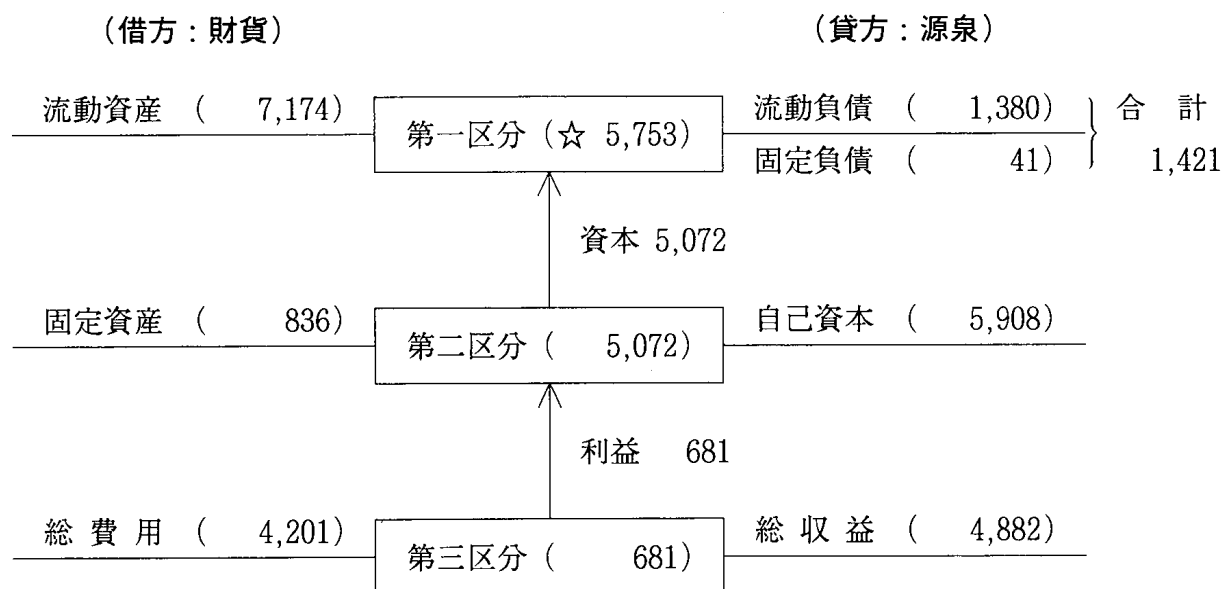
勘 定 流 図



会 社 名 : 任天堂

決 算 日 : 平成11年 3 月31日

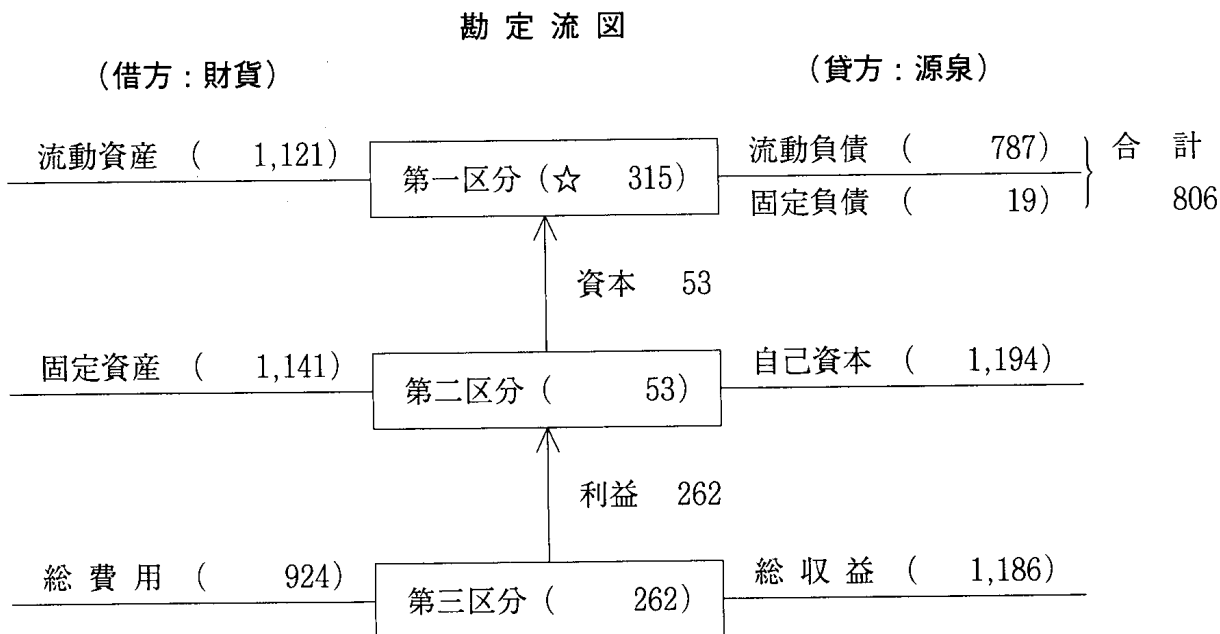
勘 定 流 図



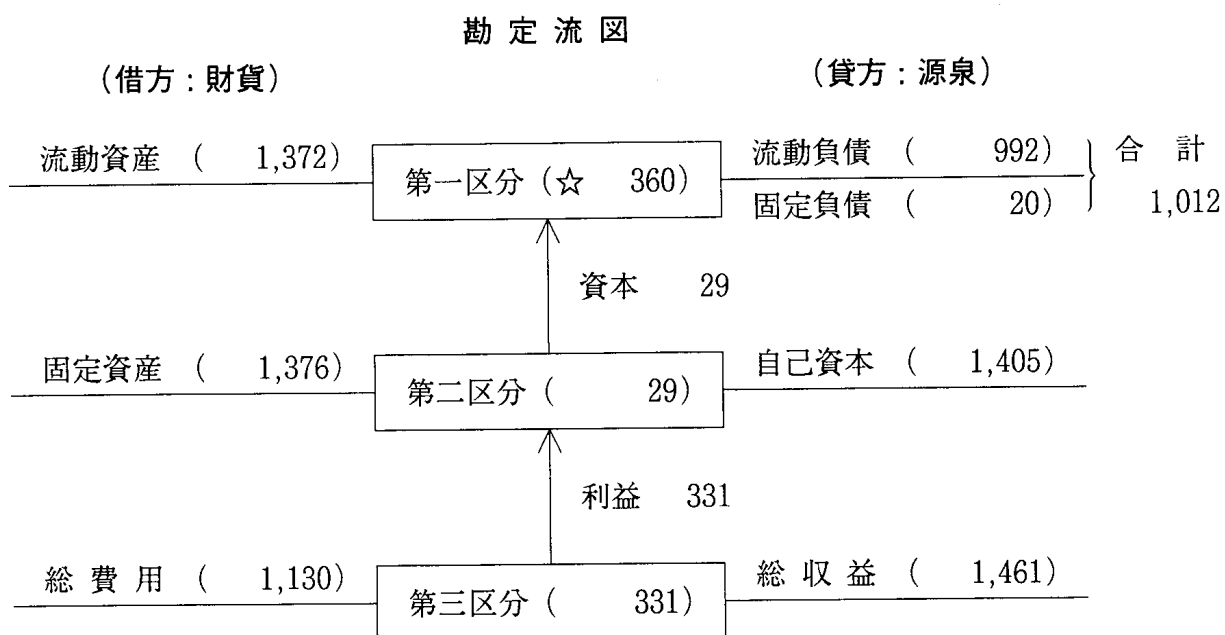
1期型勘定流図について（石内）

(10) セブンイレブンの財源状況について

会社名：セブンイレブン
 決算日：平成2年2月28日



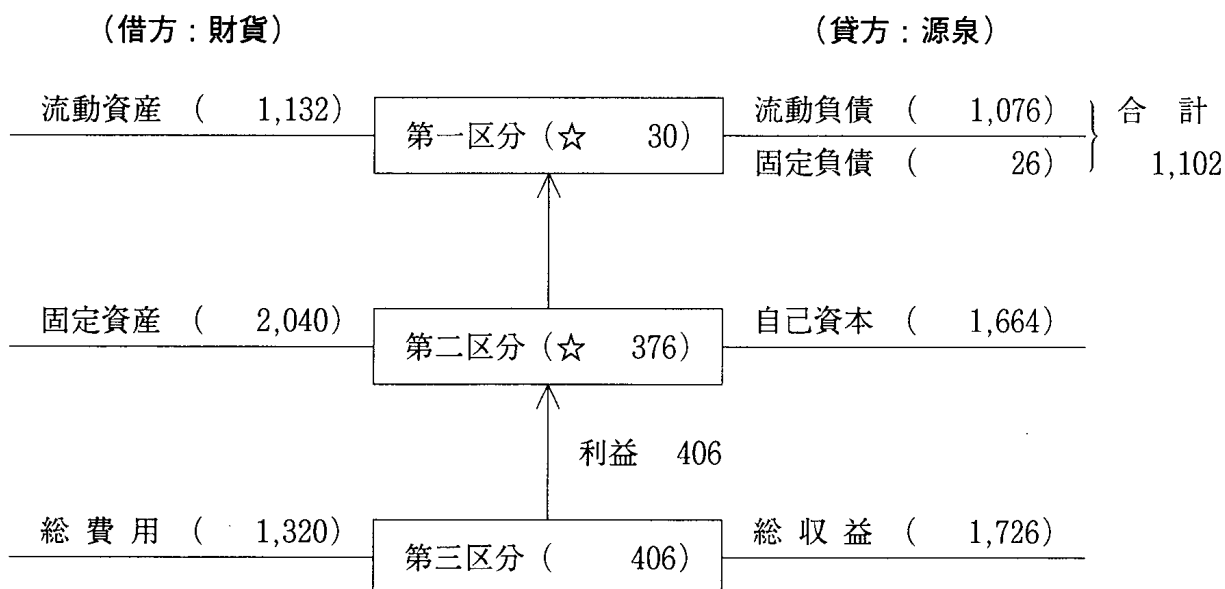
会社名：セブンイレブン
 決算日：平成3年2月28日



1 期型勘定流図について (石内)

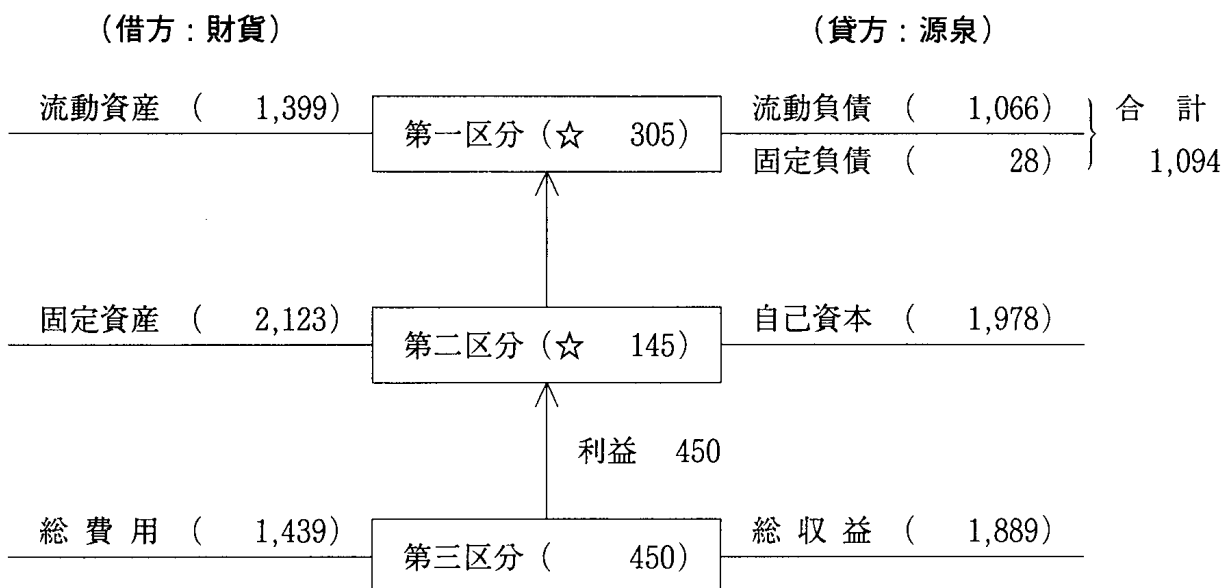
会社名：セブンイレブン
 決算日：平成4年2月28日

勘定流図



会社名：セブンイレブン
 決算日：平成5年2月28日

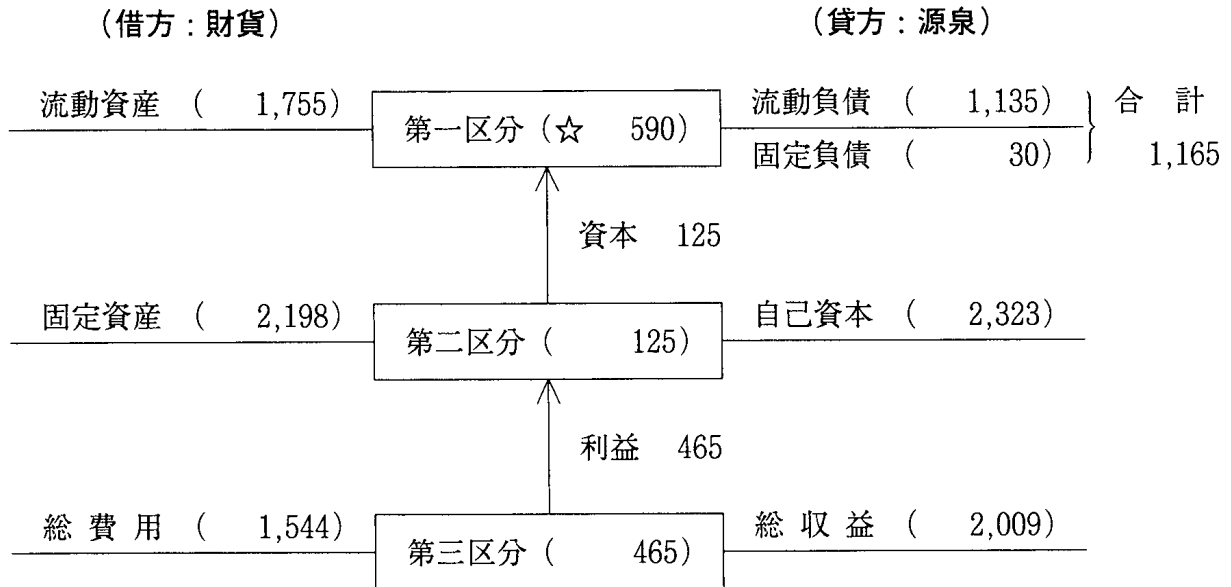
勘定流図



1 期型勘定流図について (石内)

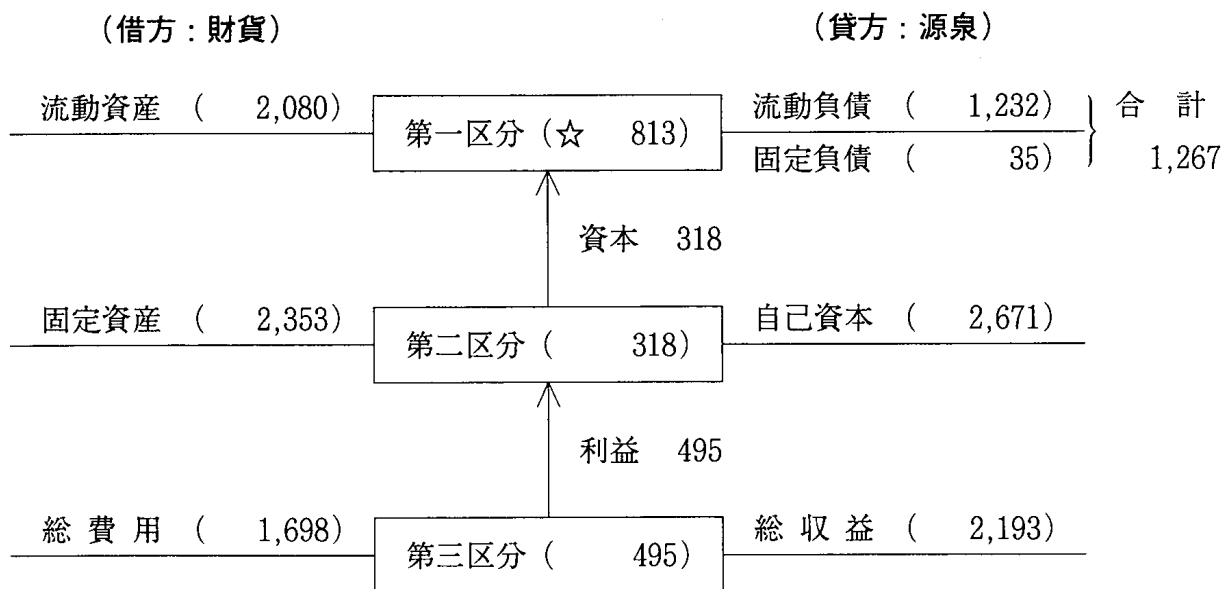
会社名：セブンイレブン
 決算日：平成6年2月28日

勘定流図



会社名：セブンイレブン
 決算日：平成7年2月28日

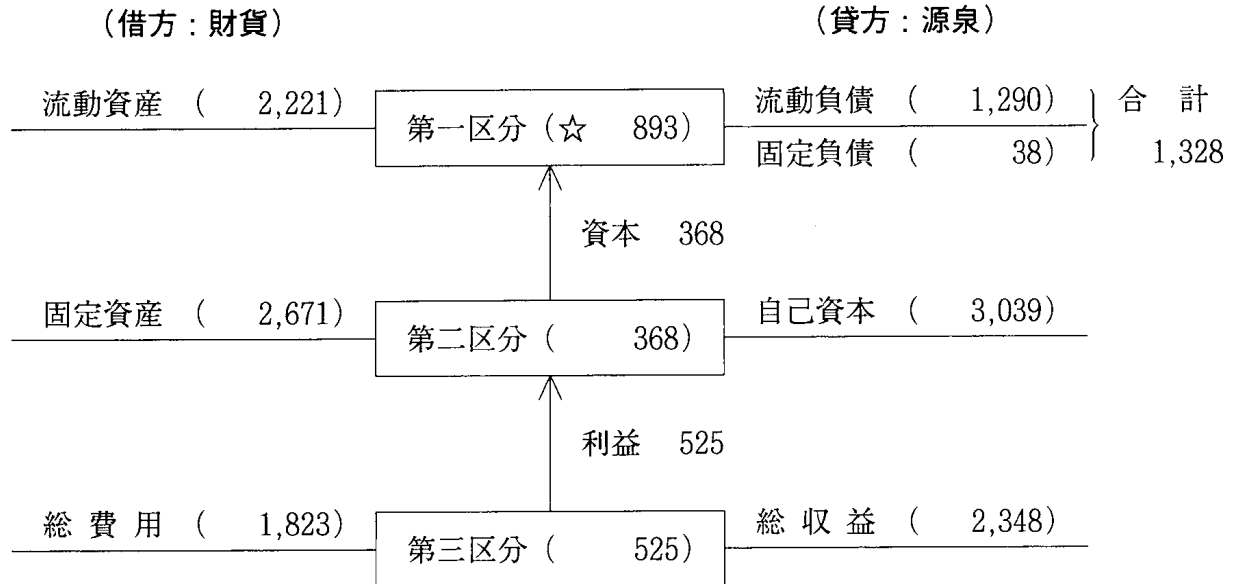
勘定流図



1期型勘定流図について（石内）

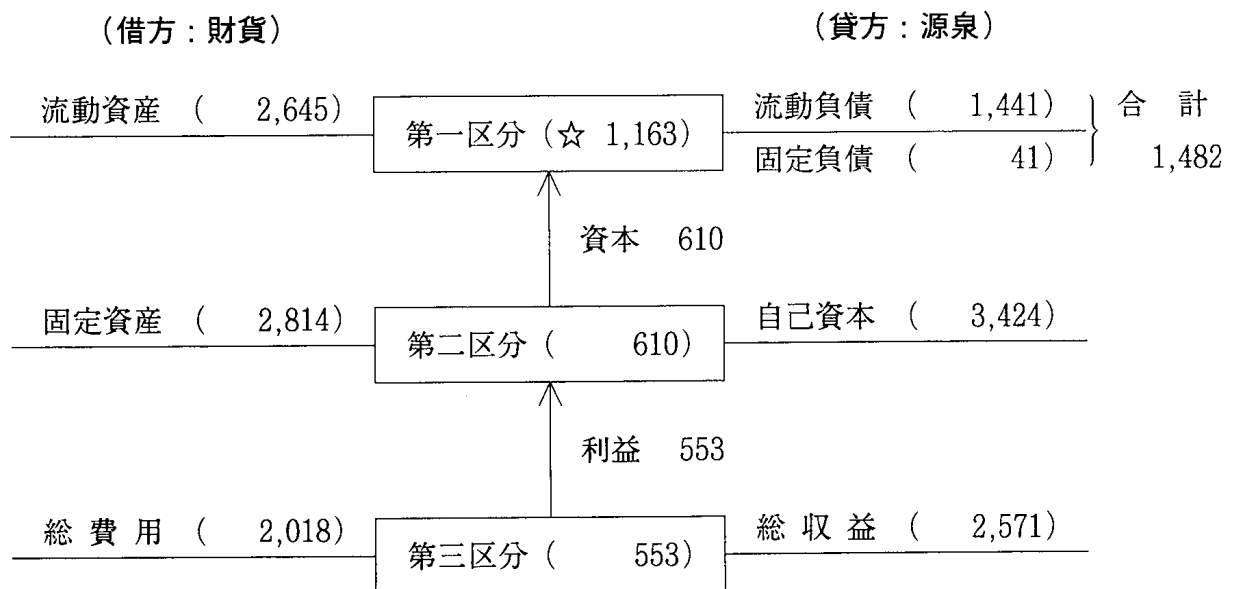
会社名：セブンイレブン
 決算日：平成8年2月28日

勘定流図



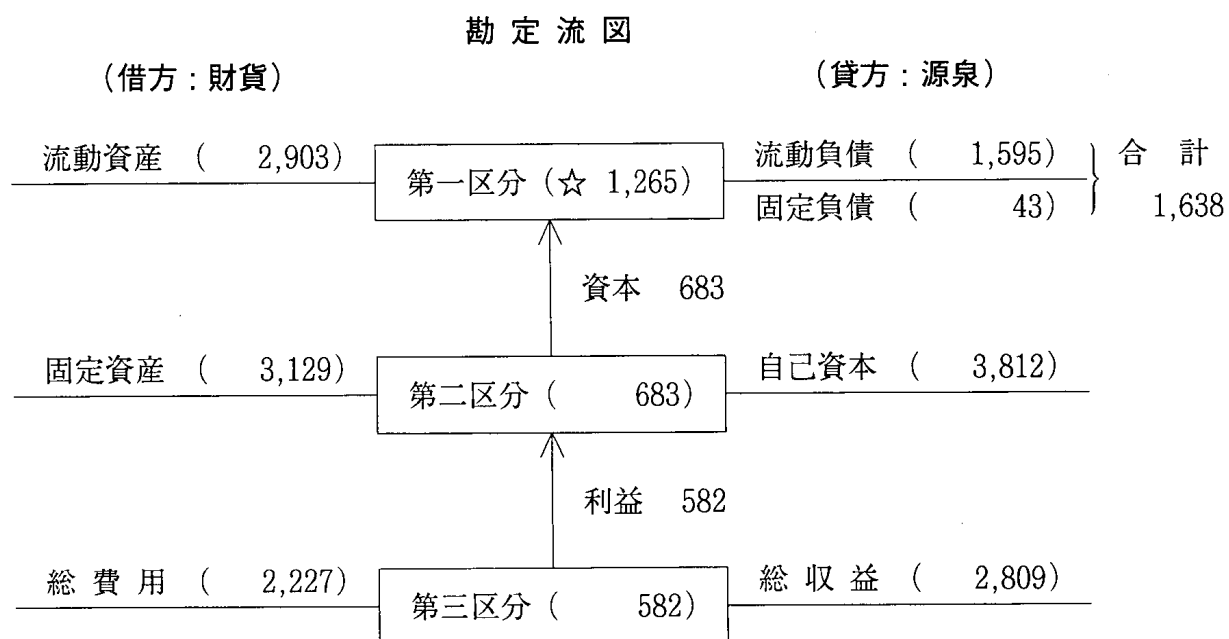
会社名：セブンイレブン
 決算日：平成9年2月28日

勘定流図

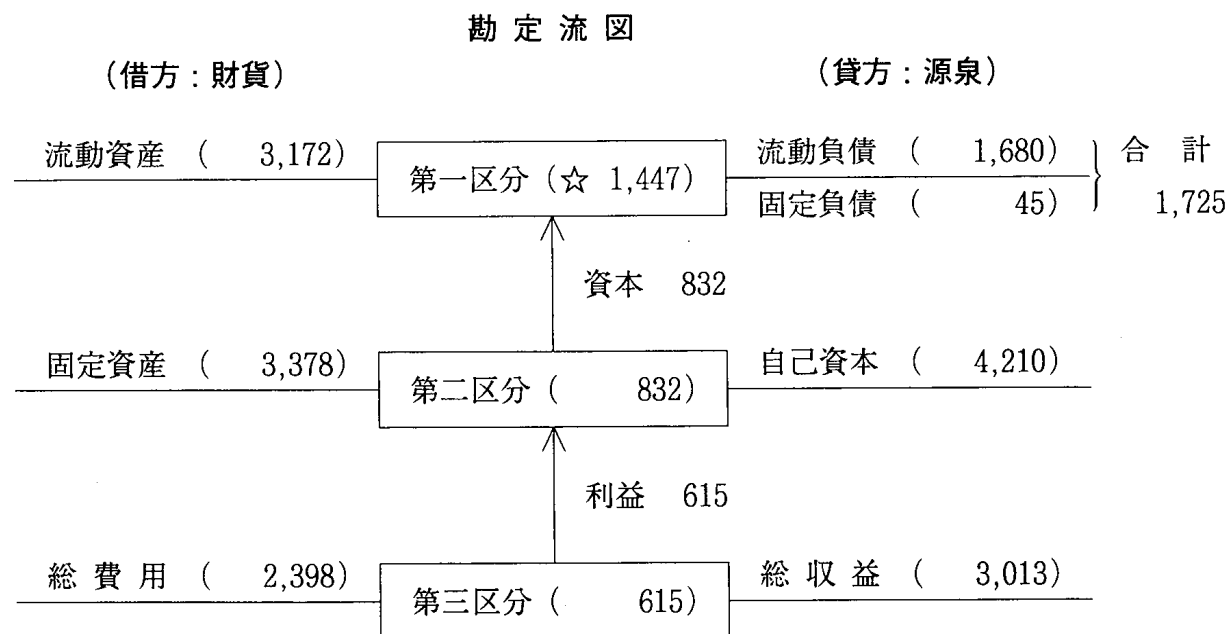


1期型勘定流図について（石内）

会社名：セブンイレブン
 決算日：平成10年2月28日



会社名：セブンイレブン
 決算日：平成11年2月28日



黒字企業五社の財源状況についてのコメント

これまで見てきた京樽、につかつ、山一証券、北海道拓殖銀行、日本長期信用銀行の五社は赤字企業であった。これに対して上記の(6)シチズン、(7)リンナイ、(8)京セラ、(9)任天堂、(10)セブンイレブンの五社は黒字経営で、かつ、抜群の財源状況を誇る企業である。

この黒字企業五社の勘定流図を無借金志向の経営という理念に立って見ることとする。無借金経営に向かって努力をし、その努力が実りつつある企業であるならば、たとえ負債が存在するとしても第一区分の財源関係は少なくとも、借方の流動資産が、貸方の負債合計額を超過しているはずである。五社の第一区分の負債流動比率（＝流動資産額÷負債額）は100%を超えており、まさに無借金志向の経営理念に適合した健全な財源状況であるといえる。

次に、自己資本志向の経営という理念に立って、五社の勘定流図を見ることとする。負債依存型の経営もしくは負債依存型の固定資産投資を行う経営は、景気の動向に左右されやすい存立基盤であり、かつ、他社(多くの場合は金融機関)に支配されたところの、非自立的企業であることが多いのである。こうした不安定な存立基盤の非自立的企業から安定した存立基盤の自立的企業へ脱皮していく上で、自己資本志向の経営という理念は有用である。自己資本志向の経営に向かって努力をし、その努力が実りつつある企業であるならば、第二区分の財源関係は少なくとも、借方の固定資産額を、貸方の自己資本額が超過しているはずである。黒字企業五社の第二区分の固定資本比率（＝損益前の自己資本額÷固定資産額）は100%を超えており、まさに自己資本志向の経営理念に適合した健全な投資状況であるといえる。

最後に、生産物の生産・販売を志向した経営理念に立って、黒字企業五社の勘定流図を考えることとする。この経営理念から導かれる収益の本質は、生産的労

働に裏づけられたモノづくりを本業とする経営を通じて実現される収益でなければならない。この本業に基づく収益を中心に形成される総収益額が、総費用を超過すれば、その企業の収益性は安定しているといえるのである。

黒字経営五社の第三区分の費用収益比率(=総収益額÷総費用額)は100%を超えており、生産力重視の経営理念に適合した健全な損益状況であるといえる。

よって、無借金志向の経営理念、自己資本志向の経営理念に基づく固定資産への投資、生産力重視の経営理念という三理念に基づく1期型勘定流図一負債一括型一で見た黒字企業五社の財源状況は上記のように極めて健全であると結論づけることができる。

5. お わ り に

以上の考察を通して本稿を次のように要約する。

- ①第三区分が黒字経営を結果していても、第一区分から第二区分へ勘定が下降している場合、それが固定負債を財源とする財貨からの下降であれば、自己資本志向の固定資産への投資という理念に照らして当該企業の財源状況は不健全と判断する。
- ②次に、その下降が固定負債とともに流動負債を源泉とする財貨からも生じているのであれば、自己資本志向の固定資産への投資という経営理念および無借金志向の経営理念に照らして極めて不健全と判断する。
- ③第三区分が赤字経営を結果していて、その赤字をカバーするために第二区分だけから勘定が下降している場合には、生産力重視の経営という理念に照らして不健全と判断する。
- ④そして、第三区分の赤字をカバーするために第二区分とともに第一区分からも勘定が下降している場合には、無借金志向の経営理念および生産力重視の

経営理念に照らして極めて不健全と判断する。

⑤上記の①～④の症状が当該企業で発生している場合には不健全との判断を下し、直ちに詳細な分析を行い要因の特定に着手すべきであることはいうまでもない。

⑥外部者のうかがい知ることのできない不良債権、含み損を抱えた短期・長期有価証券および土地・担保物権等が企業に存在する場合は考えられるので、上記①～④の症状が発生していないことをもって安全とは言い切れないということを最後に指摘しておきたい。つまり、①～④の症状が発生している場合には、企業の財源状況は不健全であると判断し、直ちにその要因を特定しなければならないのである。そして、①～④の症状が発生していなくても、企業の中には不良資産等が存在する場合も考えられるのであるから、慎重な態度で企業の財源状況を観察する必要があるわけである。

なお、不健全を結果している要因の特定方法については稿を改めて論じることとしたい。広くご批判を賜れば幸いである。

参考文献

- [1] 拙稿「企業の財務状態に関する勘定分析（1）」〈久留米大学商学研究〉第4巻第2号、平成11年3月、51頁～133頁。
拙稿「企業の財務状態に関する勘定分析（2）」〈久留米大学商学研究〉第5巻第1号、平成11年12月、49頁～130頁。
- [2] 大蔵省『京樽有価証券総覧』昭和61年版～平成7年版
大蔵省『につかつ有価証券報告書総覧』昭和59年版～平成5年版
大蔵省『山一証券有価証券報告書総覧』昭和63年版～平成9年版
大蔵省『北海道拓殖銀行有価証券報告書総覧』平成元年版～平成10年版
大蔵省『日本長期信用銀行有価証券報告書総覧』平成元年版～平成10年版
- [3] 大蔵省『シチズン有価証券報告書総覧』平成2年版～平成11年版
大蔵省『リンナイ有価証券報告書総覧』平成2年版～平成11年版
大蔵省『京セラ有価証券報告書総覧』平成2年版～平成11年版
大蔵省『任天堂有価証券報告書総覧』平成2年版～平成11年版
大蔵省『セブンイレブン有価証券報告書総覧』平成2年版～平成11年版